例　言

1、本書は、豊川海軍工廠の体験者や遺族などの関係者が記述し、書籍等に掲載された手記の目録である。

2、目録の構成は、筆者、筆者フリガナ、手記タイトル、掲載書籍名およびその掲載頁からなり、筆者のフリガナの昇順で作成した。筆者のフリガナは検索を目的として一般的と思われる読みを付したものであり、正しいお名前のフリガナでないこともあり得る。また、同一人物でも書籍により名前の字が異なるものもみられたが（書籍作成時の誤植とみられる）、その場合は最も適切と考えられたもので統一した。

3、採録した書籍は以下のとおりである。

（1）『ああ豊川女子挺身隊』 昭和38年8月7日　甲陽書房
（2）『胸に穴があいた－女子挺身隊の記録』 昭和44年6月25日　女子挺身隊豊川二十年会
（3）『こゝにふたゝび 創刊号』 昭和45年9月　粟生博
（4）『こゝにふたゝび 第2号』 昭和46年9月　粟生博
（5）『こゝにふたゝび 第3号』 昭和48年1月1日　粟生博
（6）『こゝにふたゝび 第4号』 昭和48年11月30日　粟生博
（7）『こゝにふたゝび 第5号』 昭和49年8月7日　粟生博
（8）『こゝにふたゝび 第6号』 昭和51年5月13日　粟生博
（9）『本野ヶ原に散りて』 昭和51年5月13日　粟生博
（10）『本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏』 昭和52年10月　粟生博
（11）『いまこゝに』 昭和54年5月7日　粟生博
（12）『嗚呼豊川海軍工廠 最終号』 昭和55年7月1日　粟生博
（13）『嗚呼豊川海軍工廠 第11号』 昭和56年8月7日　粟生博
（14）『嗚呼豊川海軍工廠 第12号』 昭和57年8月7日　粟生博
（15）『嗚呼豊川海軍工廠 第13号』 昭和58年8月7日　粟生博
（16）『嗚呼豊川海軍工廠 第14号』 昭和59年8月7日　粟生博
（17）『被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠』 昭和60年7月1日　粟生博
（18）『戦争を知らない世代へ⑯豊川の熱い日－8･7空襲の記録』 昭和51年4月11日　第三文明社
（19）『白紙に消えた青春』 第三文明社　昭和61年8月
（20）『母さんが中学生だったときに《増補版》』 平成6年12月8日　エフエー出版
（21）『最後の女学生－わたしたちの昭和』 平成6年4月1日　豊橋市立高等女学校四五会
（22）『豊川海軍工廠の記録 陸に沈んだ兵器工場』 平成7年8月7日　八七会
（23）『豊火の会会誌『第一号』（第一号）』 平成元年4月　豊火の会
（24）『豊火の会会誌『第一号』（第二号）』 平成2年5月　豊火の会
（25）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第三号）』 平成3年4月　豊火の会
（26）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第四号）』 平成4年4月　豊火の会
（27）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第五号）』 平成5年4月　豊火の会
（28）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第六号）』 平成6年4月　豊火の会
（29）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第七号）』 平成7年4月　豊火の会
（30）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第八号）』 平成8年4月　豊火の会
（31）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第九号）』 平成9年4月　豊火の会
（32）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十号）』 平成10年4月　豊火の会
（33）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十一号）』 平成11年4月　豊火の会
（34）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十二号）』 平成12年4月　豊火の会
（35）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十三号）』 平成13年4月　豊火の会
（36）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十四号）』 平成14年4月　豊火の会
（37）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十五号）』 平成15年4月　豊火の会
（38）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十六号）』 平成16年4月　豊火の会
（39）『豊川海軍工廠会会誌〔「豊火」改題〕（通巻第十七号）』 平成17年4月　豊火の会
（40）『中学校が軍需工場になった 長野県飯田中学校生徒たちの昭和20年（1945）夏』
平成25年5月21日　飯田中学校工場再現文集出版基金

4、目録作成は、豊川海軍工廠語り継ぎボランティアの伊藤良枝、河辺正子、久野盛繁、近藤薫子、野澤優、宮道弘、山田賢治及び豊川市教育委員会生涯学習課の平松弘孝が実施した。

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
相原　甲子子	ｱｲﾊﾗ ｷﾈｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	167
青井　啓悟	ｱｵｲ ｹｲｺﾞ	豊川海軍工廠大空襲	（22）豊川海軍工廠の記録	130
粟生	ｱｵｳ	詩「国民学校生徒のみ霊に捧ぐ」	（３）こゝにふたゝび創刊号	32
粟生	ｱｵｳ	今は亡き鈴木好子さんのお宅を訪ねて	（３）こゝにふたゝび創刊号	55
粟生　かのゑ	ｱｵｳ ｶﾉｴ	涙にかすみて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	270
粟生　かのゑ	ｱｵｳ ｶﾉｴ	「涙にかすみて」	（８）こゝにふたゝび第６号	32
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	工廠周辺今昔	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	20
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	平和の像を拝みて	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	50
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	亡き太郎左衛門君の冥福を祈りて	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	97
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	祈御冥福	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	179
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	213
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	俳句・短歌	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	189
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	編集を終えて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	652
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	合掌	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	475
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	永い一時間の想い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	193
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	亡き友、太郎左ェ門君を偲びて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	59
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	八七あいさつ	（３）こゝにふたゝび創刊号	1
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	旧海軍工廠跡を訪ねて	（３）こゝにふたゝび創刊号	70
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	ひとこと	（４）こゝにふたゝび第２号	1
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	永い一時間の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	7
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	永遠ノ平和ノタメニ	（４）こゝにふたゝび第２号	31
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	霊前に捧ぐ	（４）こゝにふたゝび第２号	95
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	亡き近藤太郎左衛門君の冥福を祈りて	（５）こゝにふたゝび第３号	29
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	この日を忘れず	（５）こゝにふたゝび第３号	35
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	誓いのことば	（５）こゝにふたゝび第３号	35
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	旧豊川海軍工廠殉死の霊に捧ぐ	（５）こゝにふたゝび第３号	44
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	過ぎた日去った日	（６）こゝにふたゝび第４号	31
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	友情の集いの皆様によせて	（６）こゝにふたゝび第４号	45
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	題名によせて	（６）こゝにふたゝび第４号	47
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	気をつけて	（６）こゝにふたゝび第４号	64
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	再会の陰に	（６）こゝにふたゝび第４号	68

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	三河地震の思い出	（６）こゝにふたゝび第４号	76
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「CBC街角のニュースより」	（７）こゝにふたゝび第５号	26
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「十六歳の戦争」	（７）こゝにふたゝび第５号	50
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「み魂よ永遠に眠り給え」	（７）こゝにふたゝび第５号	71
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「早や三年」	（７）こゝにふたゝび第５号	73
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「在りし日の君忘れじ」	（８）こゝにふたゝび第６号	1
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	戦時下のくらし	（８）こゝにふたゝび第６号	12
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	NHKテレビ八月七日ニュースより	（８）こゝにふたゝび第６号	38
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	ひとこと	（８）こゝにふたゝび第６号	39
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	「豚皮のくつ」	（８）こゝにふたゝび第６号	44
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	諏訪墓地	（８）こゝにふたゝび第６号	44
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	あいとうのことば	（９）本野ヶ原に散りて	冒頭
粟生　博	ｱｵｳ ﾋﾛｼ	この悲惨くり返えさじ	（９）本野ヶ原に散りて	冒頭
青木　栄子	ｱｵｷ ｴｲｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	171
青野　保治	ｱｵﾉ ﾔｽﾊﾙ	忘れ得ぬ昭和二十年八月十五日	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	89
青野　保治	ｱｵﾉ ﾔｽﾊﾙ	それでも信じた戦争の勝利	（18）戦争を知らない世代へ⑯	78
青野　保治	ｱｵﾉ ﾔｽﾊﾙ	「忘れ得ぬ昭和二十年五月十九日」	（７）こゝにふたゝび第５号	14
青山　たみゑ	ｱｵﾔﾏ ﾀﾐｴ	ラジオを聞いて	（９）本野ヶ原に散りて	71
青山　みゆき	ｱｵﾔﾏ ﾐﾕｷ	思い出のままに	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	36
青山　みゆき	ｱｵﾔﾏ ﾐﾕｷ	「今ここに」	（11）いまこゝに	144
青山　幸男	ｱｵﾔﾏ ﾕｷｵ	私も語り部の一人　米軍記録に基づいて	（22）豊川海軍工廠の記録	115
阿垣　映子	ｱｶﾞｷ ｴｲｺ	「今日は最後ね!!」	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	133
阿垣　映子	ｱｶﾞｷ ｴｲｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	160
阿垣　映子	ｱｶﾞｷ ｴｲｺ	遺体を大八車に乗せて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	169
阿垣　映子	ｱｶﾞｷ ｴｲｺ	今日は最後ね!!	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	602
安形　花子	ｱｶﾞﾀ ﾊﾅｺ	何もわからず働いて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	65
阿形　文子	ｱｶﾞﾀ ﾌﾐｺ	死んでなるものか　第十話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	26
阿形　文子	ｱｶﾞﾀ ﾌﾐｺ	死んでなるものか　第十話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	168
阿形　文子	ｱｶﾞﾀ ﾌﾐｺ	血の色に見えた炎	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	29
安形　まき	ｱｶﾞﾀ ﾏｷ	思い出	（９）本野ヶ原に散りて	45
安形　まき	ｱｶﾞﾀ ﾏｷ	短歌・俳句	（９）本野ヶ原に散りて	45

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
赤羽　芳子	ｱｶﾊﾈ ﾖｼｺ	焼跡に立つ狂人	（２）胸に穴があいた	146
赤羽　芳子	ｱｶﾊﾈ ﾖｼｺ	骨箱にかけた振袖	（２）胸に穴があいた	171
赤堀　澄枝	ｱｶﾎﾘ ｽﾐｴ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	150
赤松　孝子	ｱｶﾏﾂ ﾀｶｺ	ただ一人旅空で応召	（１）ああ豊川女子挺身隊	53
赤松　孝子	ｱｶﾏﾂ ﾀｶｺ	浅野トヨ子さんを知る	（１）ああ豊川女子挺身隊	81
赤松　孝子	ｱｶﾏﾂ ﾀｶｺ	第十二女子寄宿舎	（１）ああ豊川女子挺身隊	95
赤松　孝子	ｱｶﾏﾂ ﾀｶｺ	馬車馬とカマキリ	（１）ああ豊川女子挺身隊	156
赤松　孝子	ｱｶﾏﾂ ﾀｶｺ	飯田の航海工場だより	（１）ああ豊川女子挺身隊	177
秋廣　昌人	ｱｷﾋﾛ ﾏｻﾋﾄ	学業を捨て学舎を壊した「学校工場」	（40）中学校が軍需工場になった	181
秋廣　昌人	ｱｷﾋﾛ ﾏｻﾋﾄ	「学校工場」後日談	（40）中学校が軍需工場になった	478
秋山　癸亥	ｱｷﾔﾏ ｷｶﾞｲ	黒い残曛－豊川海軍工廠	（22）豊川海軍工廠の記録	107
浅井　一雄	ｱｻｲ ｶｽﾞｵ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	338
浅井　嘉寿美	ｱｻｲ ｶｽﾞﾐ	高度成長の中で	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	115
朝岡　のり子	ｱｻｵｺ ﾉﾘｺ	大林淑子さん	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	55
朝河　よし	ｱｻｶﾜ ﾖｼ	十八名全員即死	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	307
朝河　よし	ｱｻｶﾜ ﾖｼ	全員即死	（９）本野ヶ原に散りて	26
朝倉　福次	ｱｻｸﾗ ﾌｸｼﾞ	目と耳を押えたままの姿で	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	56
朝倉　福次	ｱｻｸﾗ ﾌｸｼﾞ	目と耳を押えたままの姿で	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	345
朝倉　義政	ｱｻｸﾗ ﾖｼﾏｻ	三十三回忌に寄せて	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	34
朝倉　義政	ｱｻｸﾗ ﾖｼﾏｻ	「学校工場の思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	22
浅田　かき江	ｱｻﾀﾞ ｶｷｴ	寄宿舎生活の思い出	（６）こゝにふたゝび第４号	65
浅田　かな江	ｱｻﾀﾞ ｶﾅｴ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	169
浅野　五月	ｱｻﾉ ｻﾂｷ	「被爆の思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	73
朝野　綱雄	ｱｻﾉ ﾂﾅｵ	「こゝにふたゝび」に思う	（８）こゝにふたゝび第６号	66
浅野　美津子	ｱｻﾉ ﾐﾂｺ	供養塔に額づきて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	211
浅見　ヒサ子	ｱｻﾐ ﾋｻｺ	消えた海軍工廠	（18）戦争を知らない世代へ⑯	203
足木　佐知子	ｱｼｷ ｻﾁｺ	国民学校一年生の時の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	208
足木　佐知子	ｱｼｷ ｻﾁｺ	国民学校一年生の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	576
足木　よね	ｱｼｷ ﾖﾈ	二人の我が子を	（９）本野ヶ原に散りて	64
芦本　与太松	ｱｼﾓﾄ ﾖﾀﾏﾂ	終戦の日娘の悲報	（１）ああ豊川女子挺身隊	314
安達　次子	ｱﾀﾞﾁ ﾂｷﾞｺ	晴れの除幕の綱を曳く	（１）ああ豊川女子挺身隊	329

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
足立　久枝	ｱﾀﾞﾁ ﾋｻｴ	あの時逃げ出してよかった	（18）戦争を知らない世代へ⑯	218
足立　久枝	ｱﾀﾞﾁ ﾋｻｴ	危険な火薬工場	（19）白紙に消えた青春	127
安立　秀哉	ｱﾀﾞﾁ ﾋﾃﾞﾔ	豊川海軍工廠被爆の記憶	（22）豊川海軍工廠の記録	172
渥美　千寿子	ｱﾂﾐ ﾁｽﾞｺ	かの松林に思いを馳せて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	287
渥美　みさ子	ｱﾂﾐ ﾐｻｺ	友が私のひざの上で	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	116
渥美　保雄	ｱﾂﾐ ﾔｽｵ	確かな記憶は少ない	（40）中学校が軍需工場になった	170
阿部　ハツヨ	ｱﾍﾞ ﾊﾂﾖ	食器等もなつかしく	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	102
安部　光男	ｱﾍﾞ ﾐﾂｵ	ＩＳＯ／ＴＣ８５アルバカーキ会議に参加して	（31）豊川海軍工廠会会誌 第九号	6
天野　たけ	ｱﾏﾉ ﾀｹ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	173
天野　たけ子	ｱﾏﾉ ﾀｹｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	336
天野　つぎ	ｱﾏﾉ ﾂｷﾞ	「本野ヶ原の霊よ安らかに」	（11）いまこゝに	115
天野　艶二	ｱﾏﾉ ﾂﾔｼﾞ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	282
天野　のぶ子	ｱﾏﾉ ﾉﾌﾞｺ	死んでなるものか　第二話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	18
天野　のぶ子	ｱﾏﾉ ﾉﾌﾞｺ	死んでなるものか　第二話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	160
天野　のぶ子	ｱﾏﾉ ﾉﾌﾞｺ	佐羽尾先生の遺体をお運びして	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	30
天野　ます	ｱﾏﾉ ﾏｽ	下半身は無く	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	293
天野　ます	ｱﾏﾉ ﾏｽ	下半身は無く	（９）本野ヶ原に散りて	13
天野　ミサ	ｱﾏﾉ ﾐｻ	「お母さーん」	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	223
荒井　伊佐子	ｱﾗｲ ｲｻｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	176
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	「めくら蛇におちず」	（２）胸に穴があいた	88
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	五分前、五分前の生活	（２）胸に穴があいた	98
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	おしゃれ	（２）胸に穴があいた	101
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	実らなかった恋	（２）胸に穴があいた	119
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	鉛のような沈黙	（２）胸に穴があいた	123
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	死体に光る腕時計	（２）胸に穴があいた	156
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	脱出	（２）胸に穴があいた	161
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	二十一年ぶりに豊川工廠跡を訪ねて	（２）胸に穴があいた	208
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	軍国主義教育	（２）胸に穴があいた	226
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	お便り（法要も盛会で）	（４）こゝにふたゝび第２号	73
新井　高子	ｱﾗｲ ﾀｶｺ	「三十年ぶりのお礼」	（８）こゝにふたゝび第６号	45
荒井　てるゑ	ｱﾗｲ ﾃﾙｴ	今も泣けて	（９）本野ヶ原に散りて	41

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
新井　博彦	ｱﾗｲ ﾋﾛﾋｺ	良い思い出、悪い思い出、そして余録	（40）中学校が軍需工場になった	227
荒川　義太郎	ｱﾗｶﾜ ﾖｼﾀﾛｳ	青春時代	（38）豊川海軍工廠会会誌 第十六号	24
荒木　美代子	ｱﾗｷ ﾐﾖｺ	平和の尊さを訴える	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	196
安藤　正己	ｱﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾐ	公用使と伝令	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	47
安藤　正己	ｱﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾐ	公用紙と伝令	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	584
安藤　道也	ｱﾝﾄﾞｳ ﾐﾁﾅﾘ	灼熱の夏	（40）中学校が軍需工場になった	65
安藤　好美	ｱﾝﾄﾞｳ ﾖｼﾐ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	169
安藤　好美	ｱﾝﾄﾞｳ ﾖｼﾐ	憲兵隊行きだぞ	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	215
飯田　忠次	ｲｲﾀﾞ ﾁｭｳｼﾞ	繰り返すまじ惨禍	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	127
飯田　忠次	ｲｲﾀﾞ ﾁｭｳｼﾞ	追憶	（３）こゝにふたゝび創刊号	22
飯田　博美	ｲｲﾀﾞ ﾋﾛﾐ	ポツダム進級	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	1
飯田　博美	ｲｲﾀﾞ ﾋﾛﾐ	ＩＳＯ／ＴＣ８５アルバカーキ会議に参加して	（31）豊川海軍工廠会会誌 第九号	1
飯野　善孝	ｲｲﾉ ﾖｼﾀｶ	豊川海軍工廠の機構	（18）戦争を知らない世代へ⑯	15
井伊谷　与八	ｲｲﾉﾔ ﾖﾊﾁ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	78
井川　君代	ｲｶﾞﾜ ｷﾐﾖ	肩を抱き合い励ましながら	（18）戦争を知らない世代へ⑯	221
井川　末治	ｲｶﾞﾜ ｽｴﾊﾙ	頭痛を覚えた遺体収容	（18）戦争を知らない世代へ⑯	135
生田　彰	ｲｸﾀ ｱｷﾗ	工廠の想い出	（22）豊川海軍工廠の記録	171
井口　次郎	ｲｸﾞﾁ ｼﾞﾛｳ	来年も豊川で	（５）こゝにふたゝび第３号	56
池上　愛子	ｲｹｶﾞﾐ ｱｲｺ	挺身隊を断念させた恩師	（２）胸に穴があいた	223
池上　義治	ｲｹｶﾞﾐ ﾖｼﾊﾙ	豊川海軍工廠機銃部第一工場	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	25
池田　喜代子	ｲｹﾀﾞ ｷﾖｺ	恐ろしかったあの日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	32
池田　英男	ｲｹﾀﾞ ﾋﾃﾞｵ	二度と戦争はご免だ	（18）戦争を知らない世代へ⑯	116
池田　英男	ｲｹﾀﾞ ﾋﾃﾞｵ	「御親切身にしみて」	（８）こゝにふたゝび第６号	22
井澤　勝命	ｲｻﾞﾜ ｼｮｳﾒｲ	十四歳の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	528
井澤　勝命	ｲｻﾞﾜ ｼｮｳﾒｲ	十四歳の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	75
井澤　勝命	ｲｻﾞﾜ ｼｮｳﾒｲ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	173
石井　恵美子	ｲｼｲ ｴﾐｺ	銃後の母	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	117
石井　計記	ｲｼｲ ｹｲｷ	ああ豊川海軍工廠最後の日	（１）ああ豊川女子挺身隊	204
石井　フサ子	ｲｼｲ ﾌｻｺ	みんな血だらけだった	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	31
石川　智代	ｲｼｶﾜ ﾁﾖ	遺書より	（９）本野ヶ原に散りて	68
石川　英博	ｲｼｶﾜ ﾋﾃﾞﾋﾛ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	167

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
石川　英博	ｲｼｶﾜ ﾋﾃﾞﾋﾛ	友情の会のおかげ	（８）こゝにふたゝび第６号	67
石川　芳江	ｲｼｶﾜ ﾖｼｴ	思い出と再会	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	99
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	猛爆	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	152
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	わたくしの戦後－山口さんのこと-	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	187
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	142
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	猛爆	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	461
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	わたくしの戦後・山口さんのこと	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	466
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	負傷者の群	（２）胸に穴があいた	139
石川　美武	ｲｼｶﾜ ﾖｼﾀｹ	遺体処理	（２）胸に穴があいた	167
石川　利恵子	ｲｼｶﾜ ﾘｴｺ	「三十年ぶりに豊川をたずねて」	（11）いまこゝに	127
石川　利恵子	ｲｼｶﾜ ﾘｴｺ	豊川をたずねられる倖	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	267
石川　林作	ｲｼｶﾜ ﾘﾝｻｸ	空襲の日	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	215
石川　林作	ｲｼｶﾜ ﾘﾝｻｸ	空襲の日	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	489
石黒　節子	ｲｼｸﾞﾛ ｾﾂｺ	夢中で越えた鉄条網	（19）白紙に消えた青春	154
石黒　チハル	ｲｼｸﾞﾛ ﾁﾊﾙ	白き蕾のままに	（22）豊川海軍工廠の記録	153
石黒　つう	ｲｼｸﾞﾛ ﾂｳ	十三人が即死し	（９）本野ヶ原に散りて	49
石黒　晶子	ｲｼｸﾞﾛ ﾏｻｺ	暑い三日間	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	153
石黒　みよ	ｲｼｸﾞﾛ ﾐﾖ	幼友だちは戦火に	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	60
石田　敬	ｲｼﾀﾞ ﾀｶｼ	貴重な体験から得たもの	（40）中学校が軍需工場になった	185
石田　敬	ｲｼﾀﾞ ﾀｶｼ	海軍体操について（資料）	（40）中学校が軍需工場になった	564
石田　紀子	ｲｼﾀﾞ ﾉﾘｺ	食べたい一心の願い	（１）ああ豊川女子挺身隊	128
石田　紀子	ｲｼﾀﾞ ﾉﾘｺ	意外千手観音のおねり	（１）ああ豊川女子挺身隊	143
石田　紀子	ｲｼﾀﾞ ﾉﾘｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	222
石田　紀子	ｲｼﾀﾞ ﾉﾘｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	244
石田　紀子	ｲｼﾀﾞ ﾉﾘｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	250
石田　美佐子	ｲｼﾀﾞ ﾐｻｺ	悲しい知らせ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	33
石田　容子	ｲｼﾀﾞ ﾖｳｺ	八月のある一日の想い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	194
石原　あき	ｲｼﾊﾗ ｱｷ	三人の我が子をなくして	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	181
石原　あき	ｲｼﾊﾗ ｱｷ	三人の我が子を亡くして	（３）こゝにふたゝび創刊号	16
石原　かよ	ｲｼﾊﾗ ｶﾖ	「ここに生かされて」	（11）いまこゝに	104
石原　かよ	ｲｼﾊﾗ ｶﾖ	戦争は残酷なもの	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	91

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
石原　かよ	ｲｼﾊﾗ ｶﾖ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	144
石原　清太郎	ｲｼﾊﾗ ｾｲﾀﾛｳ	運命は紙ひとえ	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	151
石原　千束	ｲｼﾊﾗ ﾁﾂｶ	行ってよかった	（５）こゝにふたゝび第３号	73
石原　ユキ	ｲｼﾊﾗ ﾕｷ	同じ防空壕で	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	305
石原　ユキ	ｲｼﾊﾗ ﾕｷ	同じ防空壕で	（９）本野ヶ原に散りて	25
泉地　喜三雄	ｲｽﾞﾐﾁ ｷｻｵ	九死に一生と慰霊	（22）豊川海軍工廠の記録	157
磯部　甲子生	ｲｿﾍﾞ ｷﾈｵ	豊川工廠の思い出	（11）いまこゝに	57
磯部　甲子生	ｲｿﾍﾞ ｷﾈｵ	思い出の記	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	73
磯部　甲子生	ｲｿﾍﾞ ｷﾈｵ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	175
磯部　甲子生	ｲｿﾍﾞ ｷﾈｵ	若き日の友の顔	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	202
井田　格朗	ｲﾀﾞ ﾀﾀﾞｵ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　追記（中村）井田格朗氏の記録から	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	22
板倉　節子	ｲﾀｸﾗ ｾﾂｺ	工廠の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	102
板野　静江	ｲﾀﾉ ｼｽﾞｴ	「海軍工廠の思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	24
板野　静江	ｲﾀﾉ ｼｽﾞｴ	「今一度再開の日を」	（７）こゝにふたゝび第５号	63
板橋　照子	ｲﾀﾊｼ ﾃﾙｺ	学徒動員として	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	80
板橋　照子	ｲﾀﾊｼ ﾃﾙｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	158
板橋　照子	ｲﾀﾊｼ ﾃﾙｺ	学徒動員として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	530
市岡　ふみ子	ｲﾁｵｶ ﾌﾐｺ	戦争なんてもういやだ	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	45
市岡　ふみ子	ｲﾁｵｶ ﾌﾐｺ	文集ありがとう	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	124
市川　千枝	ｲﾁｶﾜ ﾁｴ	恐怖との戦い	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	118
市川　房男	ｲﾁｶﾜ ﾌｻｵ	冥福	（５）こゝにふたゝび第３号	52
市瀬　伸一	ｲﾁﾉｾ ｼﾝｲﾁ	予科練で得た人生哲学	（40）中学校が軍需工場になった	436
市瀬　泰久	ｲﾁﾉｾ ﾔｽﾋｻ	ヤミのこわさ	（40）中学校が軍需工場になった	119
井土　幸子	ｲﾂﾞﾁ ｻﾁｺ	死んでなるものか　第三話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	161
井土　幸子	ｲﾂﾞﾁ ｻﾁｺ	仕上工場の勤労学徒として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	186
井土　幸子	ｲﾂﾞﾁ ｻﾁｺ	仕上げ工場の勤労学徒として	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	34
伊藤　アイ子	ｲﾄｳ ｱｲｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	11
伊藤　あや子	ｲﾄｳ ｱﾔｺ	仲間に励まされて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	120
伊藤　和子	ｲﾄｳ ｶｽﾞｺ	生あることの喜び	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	325
伊藤　キン	ｲﾄｳ ｷﾝ	進学も断念し	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	309
伊藤　キン	ｲﾄｳ ｷﾝ	進学も断念し	（９）本野ヶ原に散りて	28

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
伊藤　くに	ｲﾄｳ ｸﾆ	たった一つのおむすびの味	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	36
伊藤　邦雄	ｲﾄｳ ｸﾆｵ	思い出の豊川海軍工廠	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	126
伊藤　邦雄	ｲﾄｳ ｸﾆｵ	思い出の豊川海軍工廠	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	183
伊藤　邦雄	ｲﾄｳ ｸﾆｵ	思い出の豊川海軍工廠	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	18
伊藤　邦雄	ｲﾄｳ ｸﾆｵ	思い出の豊川海軍工廠	(3) こゝにふたゝび創刊号	40
伊藤　久美	ｲﾄｳ ｸﾐ	「こゝにふたゝび」ありがとう	(5) こゝにふたゝび第3号	78
伊藤　桂一	ｲﾄｳ ｹｲｲﾁ	「夕陽」	(11) いまこゝに	168
伊藤　桂一	ｲﾄｳ ｹｲｲﾁ	夕陽	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	436
伊藤　繁男	ｲﾄｳ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠の殉職英霊	(11) いまこゝに	165
伊藤　繁男	ｲﾄｳ ｼｹﾞｵ	総務部運輸係と共に	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	229
伊藤　繁男	ｲﾄｳ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠の殉職英霊	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	434
伊藤　繁男	ｲﾄｳ ｼｹﾞｵ	総務部運輸係と共に	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	499
伊藤　重子	ｲﾄｳ ｼｹﾞｺ	生涯忘れない思い出	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	25
伊藤　重子	ｲﾄｳ ｼｹﾞｺ	交友も深まりて	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	92
伊藤　重子	ｲﾄｳ ｼｹﾞｺ	生涯忘れない思い出	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	288
伊藤　静雄	ｲﾄｳ ｼｽﾞｵ	三十三回忌慰霊祭に際し遠近より御来豊の皆様に厚く御礼申上げます	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	25
伊藤　静雄	ｲﾄｳ ｼｽﾞｵ	謹しんで追悼の言葉を申し上げます	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	71
伊藤　静雄	ｲﾄｳ ｼｽﾞｵ	空襲をのがれて疎開地天竜峡へ	(3) こゝにふたゝび創刊号	6
伊藤　静雄	ｲﾄｳ ｼｽﾞｵ	慰霊祭に参加して	(4) こゝにふたゝび第2号	93
伊藤　静雄	ｲﾄｳ ｼｽﾞｵ	慰霊祭にて	(5) こゝにふたゝび第3号	35
伊藤　忍	ｲﾄｳ ｼﾉﾌﾞ	下諏訪の追憶	(40) 中学校が軍需工場になった	412
伊藤　純伍	ｲﾄｳ ｼﾞｭﾝｺﾞ	三十三年前の思い出	(11) いまこゝに	106
伊藤　純伍	ｲﾄｳ ｼﾞｭﾝｺﾞ	忘れゆく記憶	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	87
伊藤　純伍	ｲﾄｳ ｼﾞｭﾝｺﾞ	三十三年前の思い出	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	418
伊藤　祐保	ｲﾄｳ ｽｹﾔｽ	記憶の断片	(40) 中学校が軍需工場になった	230
伊藤　祐保	ｲﾄｳ ｽｹﾔｽ	持ち帰ったもの	(40) 中学校が軍需工場になった	368
伊藤　スミエ	ｲﾄｳ ｽﾐｴ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	153
伊藤　岱吉	ｲﾄｳ ﾀｲｷﾁ	豊川海軍工廠勤労動員の思い出	(22) 豊川海軍工廠の記録	139
伊藤　泰蔵	ｲﾄｳ ﾀｲｿﾞｳ	工廠被爆下に生き	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	108
伊藤　泰蔵	ｲﾄｳ ﾀｲｿﾞｳ	工廠被爆下に生きて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	194
伊藤　泰蔵	ｲﾄｳ ﾀｲｿﾞｳ	第五砲台と私	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	109

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
伊藤　泰蔵	ｲﾄｳ ﾀｲｿﾞｳ	工廠被爆下に生き	（４）こゝにふたゝび第２号	20
伊藤　武雄	ｲﾄｳ ﾀｹｵ	結婚式も決まっていたのに	（９）本野ヶ原に散りて	47
伊藤　千保	ｲﾄｳ ﾁﾎ	家からの小包が紙クズに	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	37
伊藤　とし	ｲﾄｳ ﾄｼ	戦争は絶対イヤ	（18）戦争を知らない世代へ⑯	182
伊藤　豊子	ｲﾄｳ ﾄﾖｺ	ああ無情の弾	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	38
伊藤　信夫	ｲﾄｳ ﾉﾌﾞｵ	上司の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	89
伊藤　弘子	ｲﾄｳ ﾋﾛｺ	盲信の恐ろしさ	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	207
伊藤　文夫	ｲﾄｳ ﾌﾐｵ	再会	（11）いまこゝに	145
伊藤　文夫	ｲﾄｳ ﾌﾐｵ	怨恨は歳月の彼方へ	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	147
伊藤　文夫	ｲﾄｳ ﾌﾐｵ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	326
伊藤　文夫	ｲﾄｳ ﾌﾐｵ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	336
伊藤　文夫	ｲﾄｳ ﾌﾐｵ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	142
伊藤　勝	ｲﾄｳ ﾏｻﾙ	七日の旅立ち不吉だ、やめよ	（22）豊川海軍工廠の記録	147
伊藤　勝	ｲﾄｳ ﾏｻﾙ	50年前の思い出	（22）豊川海軍工廠の記録	168
伊藤　ミスヱ	ｲﾄｳ ﾐｽｴ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	331
伊藤　みつえ	ｲﾄｳ ﾐﾂｴ	南から来た渡り鳥	（22）豊川海軍工廠の記録	161
伊東　美代子	ｲﾄｳ ﾐﾖｺ	花散華	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	81
伊東　美代子	ｲﾄｳ ﾐﾖｺ	終戦忌	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	324
伊藤　幸夫	ｲﾄｳ ﾕｷｵ	寒気身にしみて	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	101
伊藤　幸夫	ｲﾄｳ ﾕｷｵ	寒気全身にしみて	（６）こゝにふたゝび第４号	20
伊藤　百合子	ｲﾄｳ ﾕﾘｺ	工廠大空襲の日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	224
伊藤　良子	ｲﾄｳ ﾖｼｺ	「思い出」	（11）いまこゝに	114
伊奈　秀子	ｲﾅ ﾋﾃﾞｺ	輝いて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	54
稲垣　勘一	ｲﾅｶﾞｷ ｶﾝｲﾁ	思い出の断片	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	42
稲垣　勘一	ｲﾅｶﾞｷ ｶﾝｲﾁ	想い出の断片	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	583
稲垣　節子	ｲﾅｶﾞｷ ｾﾂｺ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	213
稲垣　春子	ｲﾅｶﾞｷ ﾊﾙｺ	帰郷命令中に迎えた終戦	（18）戦争を知らない世代へ⑯	189
稲垣　春子	ｲﾅｶﾞｷ ﾊﾙｺ	忘れえぬ四ヶ月の日々	（５）こゝにふたゝび第３号	54
稲垣　春子	ｲﾅｶﾞｷ ﾊﾙｺ	帰郷命令中に終戦	（６）こゝにふたゝび第４号	74
稲垣　美代子	ｲﾅｶﾞｷ ﾐﾖｺ	親友のみなさまへ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	394
稲葉　里和	ｲﾅﾊﾞ ｻﾄｶｽﾞ	七年目の改葬	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	240

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
稲葉　治穂	ｲﾅﾊﾞ ﾊﾙﾎ	学徒寮の朝	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	157
稲葉　治穂	ｲﾅﾊﾞ ﾊﾙﾎ	学徒寮の朝	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	459
稲葉　美代子	ｲﾅﾊﾞ ﾐﾖｺ	「親友のみなさまへ」	（11）いまこゝに	47
犬飼　米子	ｲﾇｶｲ ﾖﾈｺ	自転車の音に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	313
犬飼　米子	ｲﾇｶｲ ﾖﾈｺ	自転車の音に	（９）本野ヶ原に散りて	32
井上　えい子	ｲﾉｳｴ ｴｲｺ	履き物と戦争	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	122
井上　幸子	ｲﾉｳｴ ｻﾁｺ	仕上工場の勤労学徒として	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	129
井上　幸子	ｲﾉｳｴ ｻﾁｺ	死んでなるものか　第三話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	19
井上　幸子	ｲﾉｳｴ ｻﾁｺ	「詩」「嗚呼」	（６）こゝにふたゝび第４号	44
井上　のぶ	ｲﾉｳｴ ﾉﾌﾞ	今に帰る、其の内に帰るかと	（９）本野ヶ原に散りて	44
井上　はつ	ｲﾉｳｴ ﾊﾂ	平和のありがたさ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	123
今井　清次	ｲﾏｲ ｾｲｼﾞ	訪ねし人は今は亡く	（５）こゝにふたゝび第３号	80
今泉　俊昭	ｲﾏｲｽﾞﾐ ﾄｼｱｷ	「諏訪林墓地の思い出も新たに」	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	28
今泉　俊昭	ｲﾏｲｽﾞﾐ ﾄｼｱｷ	「懐かしの恩芋」	（11）いまこゝに	35
今泉　俊昭	ｲﾏｲｽﾞﾐ ﾄｼｱｷ	諏訪墓地	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	327
今泉　俊昭	ｲﾏｲｽﾞﾐ ﾄｼｱｷ	懐かしの恩芋	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	388
今泉　美恵	ｲﾏｲｽﾞﾐ ﾐｴ	帰ってきた認識票	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	307
今川　昭一郎	ｲﾏｶﾞﾜ ｼｮｳｲﾁﾛｳ	東京より良かった	（40）中学校が軍需工場になった	291
今村　加寿枝	ｲﾏﾑﾗ ｶｽﾞｴ	正月と天長節	（１）ああ豊川女子挺身隊	134
今村　加寿枝	ｲﾏﾑﾗ ｶｽﾞｴ	今村加寿枝から赤松孝子への手紙	（１）ああ豊川女子挺身隊	187
今村　東一郎	ｲﾏﾑﾗ ﾄｳｲﾁﾛｳ	夜勤の夜道、夜勤明けの帰路	（40）中学校が軍需工場になった	120
今村　七三雄	ｲﾏﾑﾗ ﾅﾐｵ	他愛ないことども	（40）中学校が軍需工場になった	328
今村　雅弘	ｲﾏﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ	校舎が工場に変わるとき	（40）中学校が軍需工場になった	69
今村　雅弘	ｲﾏﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ	徹夜の夜警	（40）中学校が軍需工場になった	329
今村　雅弘	ｲﾏﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ	悲惨なりし横須賀海軍工廠此処彼処	（40）中学校が軍需工場になった	390
入江　廸也	ｲﾘｴ ﾐﾁﾔ	追憶	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	221
岩城　みつ子	ｲﾜｷ ﾐﾂｺ	平和に慣れ過ぎた退廃的世相が怖い	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	27
岩城　みつ子	ｲﾜｷ ﾐﾂｺ	平和に慣れ過ぎた退廃的世相が怖い	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	576
岩口　孝雄	ｲﾜｸﾞﾁ ﾀｶｵ	疲労	（40）中学校が軍需工場になった	231
岩崎　尚	ｲﾜｻｷ ﾋｻｼ	消えてしまえ厭な思い出	（40）中学校が軍需工場になった	329
岩下　あや子	ｲﾜｼﾀ ｱﾔｺ	「三十二年目に夢叶いて」	（11）いまこゝに	170

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
岩下　あや子	ｲﾜｼﾀ ｱﾔｺ	あの日の記憶	（４）こゝにふたゝび第２号	57
岩下　あや子	ｲﾜｼﾀ ｱﾔｺ	当時を思い浮かべて	（５）こゝにふたゝび第３号	52
岩下　あや子	ｲﾜｼﾀ ｱﾔｺ	小さな友情	（５）こゝにふたゝび第３号	57
岩下　あや子	ｲﾜｼﾀ ｱﾔｺ	「心の支え」	（８）こゝにふたゝび第６号	25
岩瀬　一郎	ｲﾜｾ ｲﾁﾛｳ	思い出	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	84
岩瀬　金蔵	ｲﾜｾ ｷﾝｿﾞｳ	脳裏に浮んで	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	87
岩瀬　金蔵	ｲﾜｾ ｷﾝｿﾞｳ	私の回想	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	130
岩瀬　金蔵	ｲﾜｾ ｷﾝｿﾞｳ	昔懐かしく	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	216
岩瀬　金蔵	ｲﾜｾ ｷﾝｿﾞｳ	私の回想	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	634
岩瀬　しな	ｲﾜｾ ｼﾅ	かわいそうだ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	315
岩瀬　しな	ｲﾜｾ ｼﾅ	「かわいそう、だ」	（９）本野ヶ原に散りて	33
岩瀬　初日	ｲﾜｾ ﾊﾂﾋ	九死に一生をえて	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	110
岩瀬　初日	ｲﾜｾ ﾊﾂﾋ	九死に一生を得て	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	197
岩瀬　初日	ｲﾜｾ ﾊﾂﾋ	九死に一生をえて	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	230
岩瀬　初日	ｲﾜｾ ﾊﾂﾋ	九死に一生をへて	（４）こゝにふたゝび第２号	36
岩瀬　久江	ｲﾜｾ ﾋｻｴ	短歌	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	59
岩瀬　りつ	ｲﾜｾ ﾘﾂ	優しい妹を	（９）本野ヶ原に散りて	38
岩瀬　隆浜	ｲﾜｾ ﾘｭｳﾍｲ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	344
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	豊廠被爆殉難慰霊祭が	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	26
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	「豊川を訪ねて」	(11) いまこゝに	122
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	思い出の慰問団	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	114
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	みたま安かれと	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	131
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	172
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	思い出と再会	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	209
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	思い出と再会	（４）こゝにふたゝび第２号	98
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	真黒になって	（５）こゝにふたゝび第３号	50
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	「友情に幸あれ」	（７）こゝにふたゝび第５号	56
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	みたまに	（８）こゝにふたゝび第６号	20
岩塚　すゑ子	ｲﾜﾂｶ ｽｴｺ	「八月七日十時忘れじ」	（８）こゝにふたゝび第６号	64
上島　陽子	ｳｴｼﾏ ﾖｳｺ	今は本当に幸せ	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	124
上田高女元挺身隊員	ｳｴﾀﾞ ｺｳｼﾞｮﾓﾄﾃｲｼﾝﾀｲｲﾝ	母よりの手紙	（２）胸に穴があいた	100

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
上野　静子	ｳｴﾉ ｼｽﾞｺ	短歌	（11）いまこゝに	156
上野　志保	ｳｴﾉ ｼﾎ	妹の思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	30
上野　泰久	ｳｴﾉ ﾔｽﾋｻ	空襲前後の私の体験	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	120
上野　泰久	ｳｴﾉ ﾔｽﾋｻ	望郷	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	176
上林　登美子	ｳｴﾊﾞﾔｼ ﾄﾐｺ	「もう駄目だ！」	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	225
植松　忠子	ｳｴﾏﾂ ﾀﾀﾞｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	134
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	詩　平和観音に祈る	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	91
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	三人の少年	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	182
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	詩	（３）こゝにふたゝび創刊号	16
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	三人の少年	（３）こゝにふたゝび創刊号	35
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	四銃戦友の霊前にささぐ	（４）こゝにふたゝび第２号	91
上村　一夫	ｳｴﾑﾗ ｶｽﾞｵ	「短歌」	（７）こゝにふたゝび第５号	74
牛木　繁	ｳｼｷ ｼｹﾞﾙ	記憶は一つだけ	（40）中学校が軍需工場になった	190
後田　しの	ｳｼﾛﾀﾞ ｼﾉ	被爆者の救護の現場で	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	203
後田　しの	ｳｼﾛﾀﾞ ｼﾉ	八七会の由来	（22）豊川海軍工廠の記録	174
後田　しの	ｳｼﾛﾀﾞ ｼﾉ	戦争と平和は紙一重	（22）豊川海軍工廠の記録	179
臼井　博	ｳｽｲ ﾋﾛｼ	野佛	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	184
臼井　博	ｳｽｲ ﾋﾛｼ	野仏を描く	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	248
臼井　博	ｳｽｲ ﾋﾛｼ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	160
臼井　博	ｳｽｲ ﾋﾛｼ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	156
臼井　博	ｳｽｲ ﾋﾛｼ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	332
内田　千尋	ｳﾁﾀﾞ ﾁﾋﾛ	「さらば豊川」思い出のミドリハーモニカバンド	（11）いまこゝに	42
内堀　昌子	ｳﾁﾎﾞﾘ ﾏｻｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	163
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	早や三十三回忌	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	60
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	「文集作りありがとう」	（11）いまこゝに	156
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	342
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	文集から旧豊廠の友達に会えて	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	93
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	155
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	思い出の豊川海軍工廠	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	103
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	昭和二十年前後	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	128
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	思い出の豊川海軍工廠	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	632

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	二十年ぶりで豊川海軍工廠の跡を見て	（６）こゝにふたゝび第４号	65
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	「豊川工廠爆撃の日の私」	（７）こゝにふたゝび第５号	29
内山　文子	ｳﾁﾔﾏ ﾌﾐｺ	「こゝにふたゝび」最終号に思う	（８）こゝにふたゝび第６号	72
内山　まつゑ	ｳﾁﾔﾏ ﾏﾂｴ	恐ろしかったこと、悲しかったこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	384
宇野　きよ子	ｳﾉ ｷﾖｺ	胸に穴があいた	（２）胸に穴があいた	142
梅岡　道子	ｳﾒｵｶ ﾐﾁｺ	いつかきっと読んでくれる	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	125
梅田　貞夫	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞｵ	所感一筆	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	182
梅田　貞夫	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	69
梅田　貞夫	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞｵ	みんな泣いておりました	（４）こゝにふたゝび第２号	112
梅田　貞夫	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞｵ	「暑く長い夏」に期待する	（５）こゝにふたゝび第３号	79
梅田　貞夫	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞｵ	工廠忌にうたえる	（６）こゝにふたゝび第４号	93
梅田　貞光	ｳﾒﾀﾞ ｻﾀﾞﾐﾂ	戦歿者に捧げる一句に添えて	（３）こゝにふたゝび創刊号	29
梅本　忠之	ｳﾒﾓﾄ ﾀﾀﾞﾕｷ	中指の傷あと	（40）中学校が軍需工場になった	232
江坂　芳子	ｴｻｶ ﾖｼｺ	傷ついた「松操高女」の制服	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	39
榎本　かなよ	ｴﾉﾓﾄ ｶﾅﾖ	嵐の前の静けさ	（18）戦争を知らない世代へ⑯	195
榎本　治郎	ｴﾉﾓﾄ ｼﾞﾛｳ	学徒動員の思ひ出ー遺歌集「晩節」より	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	37
江本　正二	ｴﾓﾄ ｼｮｳｼﾞ	懐しの再会	（６）こゝにふたゝび第４号	50
江本　正二	ｴﾓﾄ ｼｮｳｼﾞ	「昭和四十九年度工友会のもよう」	（７）こゝにふたゝび第５号	64
江森　文太郎	ｴﾓﾘ ﾌﾐﾀﾛｳ	ポケットの中の蛇	（38）豊川海軍工廠会会誌 第十六号	25
及川　広太郎	ｵｲｶﾜ ｺｳﾀﾛｳ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	330
及川　広太郎	ｵｲｶﾜ ｺｳﾀﾛｳ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	143
黄木　武男	ｵｳｷﾞ ﾀｹｵ	身だしなみ忘れず	（９）本野ヶ原に散りて	3
大石　うた	ｵｵｲｼ ｳﾀ	「御一緒でなく残念」	（11）いまこゝに	98
大江　三男	ｵｵｴ ﾐﾂｵ	国民学校の生徒として	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	146
大家　盛男	ｵｵｶ ﾓﾘｵ	葬送曲	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	74
大家　盛男	ｵｵｶ ﾓﾘｵ	蒸しいもの哀歌	（11）いまこゝに	67
大家　盛男	ｵｵｶ ﾓﾘｵ	在廠中の思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	74
大家　盛男	ｵｵｶ ﾓﾘｵ	忘れ得ぬ追憶の数々	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	72
大兼　幸平	ｵｵｶﾈ ｺｳﾍｲ	上司に叱られて	（５）こゝにふたゝび第３号	29
大兼　幸平	ｵｵｶﾈ ｺｳﾍｲ	焼津友情会	（５）こゝにふたゝび第３号	63
大兼　幸平	ｵｵｶﾈ ｺｳﾍｲ	思い出の豊川によせて	（６）こゝにふたゝび第４号	42

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
大木　クニ	ｵｵｷﾞ ｸﾆ	白米のごはん	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	130
大木　サワ子	ｵｵｷﾞ ｻﾜｺ	ああ無念	(22) 豊川海軍工廠の記録	144
大木　芳子	ｵｵｷﾞ ﾖｼｺ	あゝ豊川工廠	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	177
大木　芳子	ｵｵｷﾞ ﾖｼｺ	あゝ豊川工廠	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	601
大久保　満雄	ｵｵｸﾎﾞ ﾐﾂｵ	八七会結成について	(22) 豊川海軍工廠の記録	174
大熊　政雄	ｵｵｸﾏ ﾏｻｵ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	161
大倉　二三男	ｵｵｸﾗ ﾌﾐｵ	「ラッパ隊長として」	(11) いまこゝに	59
大桑　恵美子	ｵｵｸﾜ ｴﾐｺ	灼熱の一日	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	372
大沢　正男	ｵｵｻﾜ ﾏｻｵ	可愛い弟を偲んで	(５) こゝにふたゝび第３号	64
大島　信夫	ｵｵｼﾏ ﾉﾌﾞｵ	史実としての豊川空襲	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	247
大須賀　常二	ｵｵｽｶ ﾂﾈｼﾞ	本野ヶ原に散りし友を偲ぶ	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	78
大須賀　常二	ｵｵｽｶ ﾂﾈｼﾞ	本野ケ原に散りし友をしのぶ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	352
大須賀　正也	ｵｵｽｶ ﾏｻﾔ	三十三回忌に憶う	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	27
大須賀　正也	ｵｵｽｶ ﾏｻﾔ	或る日の午後	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	88
大須賀　正也	ｵｵｽｶ ﾏｻﾔ	便り	(９) 本野ヶ原に散りて	2
大須賀　やす	ｵｵｽｶ ﾔｽ	体は四散して	(９) 本野ヶ原に散りて	52
大杉　昌子	ｵｵｽｷﾞ ﾏｻｺ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	139
太田　勲	ｵｵﾀ ｲｻｵ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	323
太田　純子	ｵｵﾀ ｼﾞｭﾝｺ	学徒動員として	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	192
太田　玉子	ｵｵﾀ ﾀﾏｺ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	164
太田　玉子	ｵｵﾀ ﾀﾏｺ	三十七年振りに	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	172
太田　本戒	ｵｵﾀ ﾎﾝｶｲ	豊川の悲劇を知って	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	212
太田　みつ	ｵｵﾀ ﾐﾂ	材料待ち	(２) 胸に穴があいた	123
太田　みつ	ｵｵﾀ ﾐﾂ	貫通銃創の太ももからウジが…	(２) 胸に穴があいた	160
太田　みつ	ｵｵﾀ ﾐﾂ	子供達は死なせない	(２) 胸に穴があいた	220
太田　幸枝	ｵｵﾀ ﾕｷｴ	夢枕で	(９) 本野ヶ原に散りて	49
太田　よし	ｵｵﾀ ﾖｼ	棺に納められて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	309
太田　よし	ｵｵﾀ ﾖｼ	棺に納められて	(９) 本野ヶ原に散りて	29
大谷　伊之助	ｵｵﾀﾆ ｲﾉｽｹ	豊川海軍工廠の思い出	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	95
大西　とせ	ｵｵﾆｼ ﾄｾ	夫を奪った空襲	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	180
大西　裕子	ｵｵﾆｼ ﾕｳｺ	死んでなるものか　第一話	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	17

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
大西　裕子	ｵｵﾆｼ ﾕｳｺ	死んでなるものか　第一話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	159
大西　裕子	ｵｵﾆｼ ﾕｳｺ	彼を奪ったすさまじい爆撃	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	41
大羽　朝子	ｵｵﾊﾞ ｱｻｺ	工廠の月見草	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	198
大場　定一	ｵｵﾊﾞ ｻﾀﾞｲﾁ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	166
大庭　久	ｵｵﾊﾞ ﾋｻｼ	天竜峡の思い出	（４）こゝにふたゝび第２号	99
大羽　文一郎	ｵｵﾊﾞ ﾌﾞﾝｲﾁﾛｳ	「すぎた歳月」	（８）こゝにふたゝび第６号	43
大橋　貞子	ｵｵﾊｼ ｻﾀﾞｺ	あゝ二十年八月七日	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	95
大橋　貞子	ｵｵﾊｼ ｻﾀﾞｺ	思いつくままに	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	97
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	渥美の海に鳴る潮を	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	125
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	平和の像に冥る友に捧ぐ	（11）いまこゝに	1
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	筆者の日記より	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	155
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	苗頭修正宣	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	283
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	317
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	162
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	川柳	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	188
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	豊川の将星たち	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	247
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	豊川の流れ星	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	175
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	感傷に涙あり	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	254
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	日本本土防衛の中の豊川海軍工廠防衛	（22）豊川海軍工廠の記録	107
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	戦争を知らない人々へ	（22）豊川海軍工廠の記録	179
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	豊川の流れ星	（３）こゝにふたゝび創刊号	11
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	罰直様々	（３）こゝにふたゝび創刊号	36
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	若き血潮・心のふる里の記録	（４）こゝにふたゝび第２号	9
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	あゝ十七才の雫	（５）こゝにふたゝび第３号	2
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	「シナリオを読みて」	（５）こゝにふたゝび第３号	80
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	怪物・豊川海軍工廠	（６）こゝにふたゝび第４号	55
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	「遥かなる映像」	（７）こゝにふたゝび第５号	11
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	感傷に涙あり	（８）こゝにふたゝび第６号	73
大橋　昇	ｵｵﾊｼ ﾉﾎﾞﾙ	感傷に涙あり	（９）本野ヶ原に散りて	73
大橋　義夫	ｵｵﾊｼ ﾖｼｵ	豊川海軍工廠の空襲の頃の思い出	（23）豊火の会会誌 第一号	3
大橋　義夫	ｵｵﾊｼ ﾖｼｵ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　機銃掃射の問題点	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	18

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
大浜　　侃	ｵｵﾊﾏ ｽﾅｵ	豊川最後の夏	（31）豊川海軍工廠会会誌 第九号	14
大濱　東窓	ｵｵﾊﾏ ﾄｳｿｳ	豊川工廠最後の夏	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	99
大濱　東窓	ｵｵﾊﾏ ﾄｳｿｳ	「終戦来たりて」	（11）いまこゝに	116
大濱　東窓	ｵｵﾊﾏ ﾄｳｿｳ	豊川工廠最後の夏	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	137
大濱　東窓	ｵｵﾊﾏ ﾄｳｿｳ	豊川工廠最後の夏	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	367
大濱　東窓	ｵｵﾊﾏ ﾄｳｿｳ	終戦来たりて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	422
大林　かつ江	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｶﾂｴ	他校の生徒を夢中で川から助け上げて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	42
大林　きく	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｷｸ	友よ安らかに	（３）こゝにふたゝび創刊号	2
大林　きく	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｷｸ	友を偲んで	（３）こゝにふたゝび創刊号	23
大林　多美子	ｵｵﾊﾞﾔｼ ﾀﾐｺ	父に抱かれて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	131
大林　てる	ｵｵﾊﾞﾔｼ ﾃﾙ	供養塔にお花忘れず	（９）本野ヶ原に散りて	48
大林　文敏	ｵｵﾊﾞﾔｼ ﾌﾐﾄｼ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	326
大林　文敏	ｵｵﾊﾞﾔｼ ﾌﾐﾄｼ	戦争とは何か	（３）こゝにふたゝび創刊号	72
大林　文敏	ｵｵﾊﾞﾔｼ ﾌﾐﾄｼ	「ひめゆりの塔」を訪ねて	（５）こゝにふたゝび第３号	47
大原　千和喜	ｵｵﾊﾗ ﾁﾜｷ	記憶はとりとめもなく	（40）中学校が軍需工場になった	121
大原　奈津	ｵｵﾊﾗ ﾅﾂ	遂に写真は来なかった	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	32
大村　きん	ｵｵﾑﾗ ｷﾝ	今でも泣けて	（６）こゝにふたゝび第４号	43
大村　景一	ｵｵﾑﾗ ｹｲｲﾁ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	25
大村　景一	ｵｵﾑﾗ ｹｲｲﾁ	旧友	（４）こゝにふたゝび第２号	89
大村　なよ	ｵｵﾑﾗ ﾅﾖ	現品班の部屋で	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	322
大矢　重郎	ｵｵﾔ ｼｹﾞｵ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	282
大脇　松子	ｵｵﾜｷ ﾏﾂｺ	弾丸作りの毎日	（18）戦争を知らない世代へ⑯	234
大和田　国男	ｵｵﾜﾀﾞ ｸﾆｵ	あの頃その頃	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	102
大和田　国男	ｵｵﾜﾀﾞ ｸﾆｵ	あの頃その頃	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	188
大和田　国男	ｵｵﾜﾀﾞ ｸﾆｵ	鉄砲物語	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	23
大和田　国男	ｵｵﾜﾀﾞ ｸﾆｵ	あの頃　その頃	（４）こゝにふたゝび第２号	2
岡島　定治	ｵｶｼﾞﾏ ｻﾀﾞﾊﾙ	「こゝにふたゝび」の文集にあたりて	（４）こゝにふたゝび第２号	22
岡島　康人	ｵｶｼﾞﾏ ﾔｽﾋﾄ	第一機械工場から鷲津分工場へ	（40）中学校が軍需工場になった	379
岡田　きみ	ｵｶﾀﾞ ｷﾐ	ついに廃校	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	44
岡田　忠男	ｵｶﾀﾞ ﾀﾀﾞｵ	思い出の豊川工廠	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	61
岡田　忠男	ｵｶﾀﾞ ﾀﾀﾞｵ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	160

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
岡田　忠男	ｵｶﾀﾞ ﾀﾀﾞｵ	思い出の豊川工廠	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	525
岡田　忠男	ｵｶﾀﾞ ﾀﾀﾞｵ	銃身工場の終戦迄	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	16
岡田　敏夫	ｵｶﾀﾞ ﾄｼｵ	昭和20年８月７日の空	（22）豊川海軍工廠の記録	170
岡庭　平三	ｵｶﾆﾜ ﾍｲｿﾞｳ	浜松陸軍高射学校	（40）中学校が軍需工場になった	437
岡村　志満	ｵｶﾑﾗ ｼﾏ	四人の子供と共に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	269
岡村　志満	ｵｶﾑﾗ ｼﾏ	「四人の子どもと共に」	（８）こゝにふたゝび第６号	30
岡村　隆臣	ｵｶﾑﾗ ﾀｶｵﾐ	禁じられた遊び	（40）中学校が軍需工場になった	71
岡本　愛彦	ｵｶﾓﾄ ｱｲﾋｺ	映画「暑く長い夏」演出のことば	（５）こゝにふたゝび第３号	12
岡本　あやの	ｵｶﾓﾄ ｱﾔﾉ	八月七日空襲のこと	（22）豊川海軍工廠の記録	149
岡本　剛	ｵｶﾓﾄ ﾂﾖｼ	３／25土浦航空隊に入隊	（40）中学校が軍需工場になった	438
小川　澄子	ｵｶﾞﾜ ｽﾐｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	324
小川　照子	ｵｶﾞﾜ ﾃﾙｺ	あれから二十五年	（３）こゝにふたゝび創刊号	17
小川　登喜治	ｵｶﾞﾜ ﾄｷｼﾞ	我が青春に悔いはなし	（３）こゝにふたゝび創刊号	8
小川　登喜治	ｵｶﾞﾜ ﾄｷｼﾞ	毛ジラミ	（６）こゝにふたゝび第４号	72
小川　富美枝	ｵｶﾞﾜ ﾌﾐｴ	思い出の工廠	（11）いまこゝに	112
小川　富美枝	ｵｶﾞﾜ ﾌﾐｴ	思い出の工廠	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	419
小川　奉	ｵｶﾞﾜ ﾎｳ	忘れ得ぬ八月七日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	126
小川　八吉	ｵｶﾞﾜ ﾔｷﾁ	遺骨なき遺骨とどく	（１）ああ豊川女子挺身隊	286
起塚　直子	ｵｷﾂｶ ﾅｵｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	10
荻野　圓戒	ｵｷﾞﾉ ｴﾝｶｲ	海軍工廠へ学徒を引率	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	213
奥澤　清男	ｵｸｻﾞﾜ ｷﾖｵ	記憶の長い行列	（40）中学校が軍需工場になった	72
奥野　庄太郎	ｵｸﾉ ｼｮｳﾀﾛｳ	靖国合祀だけでは不十分	（１）ああ豊川女子挺身隊	340
奥村　隆重	ｵｸﾑﾗ ﾀｶｼｹﾞ	この５ヶ月間は何だったのでしょうか	（40）中学校が軍需工場になった	439
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	「青春の思い出」	（11）いまこゝに	66
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	「今を幸せに」	（11）いまこゝに	84
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	嗚呼　豊川海軍工廠	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	138
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	327
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	尽きぬ思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	85
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	135
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	豊川への慕情	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	106
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	次の世代に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	104

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	ホームでの別れ	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	119
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	「想いを馳せる廠友眠る　豊川の地」	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	168
奥村　敏子	ｵｸﾑﾗ ﾄｼｺ	廠友眠る豊川の地	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	590
小椋　昭英	ｵｸﾞﾗ ｱｷﾋﾃﾞ	蝉の鳴かない朝	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	19
小椋　昭英	ｵｸﾞﾗ ｱｷﾋﾃﾞ	蝉の啼かない朝	（18）戦争を知らない世代へ⑯	44
小椋　昭英	ｵｸﾞﾗ ｱｷﾋﾃﾞ	蝉の鳴かない朝	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	544
小椋　昭吾	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｺﾞ	変化した日々	（40）中学校が軍需工場になった	330
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	豊川の夏草	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	81
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	鳩は永遠の平和を願って	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	67
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	三十六年前への心の旅	（11）いまこゝに	68
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	三十五年前の心の旅	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	243
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	豊川の夏草	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	357
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	豊川今と昔	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	505
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	耳にのこるピリピリ	（６）こゝにふたゝび第４号	49
小倉　正治	ｵｸﾞﾗ ｼｮｳｼﾞ	「三十年前への心の旅」	（７）こゝにふたゝび第５号	33
小栗　あき	ｵｸﾞﾘ ｱｷ	敬子	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	57
小栗　あき	ｵｸﾞﾘ ｱｷ	敬子	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	347
小栗　とよ	ｵｸﾞﾘ ﾄﾖ	全員即死し	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	303
小栗　とよ	ｵｸﾞﾘ ﾄﾖ	全員即死し	（９）本野ヶ原に散りて	23
桶樫　和子	ｵｹｶｼ ｶｽﾞｺ	年少工の死体求めて	（１）ああ豊川女子挺身隊	245
桶川　竹子	ｵｹｶﾞﾜ ﾀｹｺ	たのしい演芸会	（１）ああ豊川女子挺身隊	123
桶川　竹子	ｵｹｶﾞﾜ ﾀｹｺ	カネの茶碗に竹の箸	（１）ああ豊川女子挺身隊	130
桶川　竹子	ｵｹｶﾞﾜ ﾀｹｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	168
桶川　竹子	ｵｹｶﾞﾜ ﾀｹｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	244
尾崎　なか	ｵｻﾞｷ ﾅｶ	安らかに眠ってください	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	55
尾崎　なか	ｵｻﾞｷ ﾅｶ	安らかに眠ってください	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	345
小田　博平	ｵﾀﾞ ﾋﾛﾍｲ	アルバムアリガトウ	（５）こゝにふたゝび第３号	62
小田木　七蔵	ｵﾀﾞｷ ｼﾁｿﾞｳ	悲しい思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	174
小田木　七蔵	ｵﾀﾞｷ ｼﾁｿﾞｳ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	319
小田木　七蔵	ｵﾀﾞｷ ｼﾁｿﾞｳ	悲しい思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	472
落合　吉正	ｵﾁｱｲ ﾖｼﾏｻ	ラッパ隊員として	（６）こゝにふたゝび第４号	7

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
小野　さだ	ｵﾉ ｻﾀﾞ	遺骨、遺品もなく	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	296
小野　さだ	ｵﾉ ｻﾀﾞ	遺骨、遺品もなく	（９）本野ヶ原に散りて	16
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	艦載機掃射の思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	173
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	昭和二十年二月二十日銃身工場にて夜勤の折のことから	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	110
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	第一工員寄宿舎での思い出	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	107
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	113
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	思いつくままに	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	134
小野　忠義	ｵﾉ ﾀﾀﾞﾖｼ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	74
小野　ちか	ｵﾉ ﾁｶ	白い蝶と黄い蝶	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	59
小野　ちか	ｵﾉ ﾁｶ	白い蝶と黄色い蝶	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	350
小野　ちか	ｵﾉ ﾁｶ	白い蝶と黄色い蝶	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	194
小野　雄司	ｵﾉ ﾕｳｼﾞ	痛かったなぁ	（40）中学校が軍需工場になった	76
小野田　政雄	ｵﾉﾀﾞ ﾏｻｵ	三十年間探し求めし組長に会って	（６）こゝにふたゝび第４号	17
小野田　政雄	ｵﾉﾀﾞ ﾏｻｵ	お礼	（８）こゝにふたゝび第６号	56
小野田　昌子	ｵﾉﾀﾞ ﾏｻｺ	長男を亡くして	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	129
尾林　みづ子	ｵﾊﾞﾔｼ ﾐﾂﾞｺ	死んでなるものか　第十一話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	27
尾林　みづ子	ｵﾊﾞﾔｼ ﾐﾂﾞｺ	死んでなるものか　第十一話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	169
尾林　みづ子	ｵﾊﾞﾔｼ ﾐﾂﾞｺ	血まみれで壕に飛び込む	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	45
表　きみ	ｵﾓﾃ ｷﾐ	けがれなき白百合の花	（１）ああ豊川女子挺身隊	309
小柳津　貞子	ｵﾔｲﾂﾞ ｻﾀﾞｺ	還暦を過ぎて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	267
及部　豊次	ｵﾖﾍﾞ ﾄﾖｼﾞ	当時の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	122
折田　福二	ｵﾘﾀ ﾌｸｼﾞ	「短く感ずる二十有余年」	（５）こゝにふたゝび第３号	75
折田　芳子	ｵﾘﾀ ﾖｼｺ	「豊川時代の思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	68
折山　繕三	ｵﾘﾔﾏ ｾﾞﾝｿﾞｳ	同志たちよ！　悔いなく生きたか！	（40）中学校が軍需工場になった	482
温和　康子	ｵﾝﾜ ﾔｽｺ	国家は何を保障したか	（１）ああ豊川女子挺身隊	345
加々美　ゆき子	ｶｶﾞﾐ ﾕｷｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	147
柿田　茂	ｶｷﾀ ｼｹﾞﾙ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	162
柿田　茂	ｶｷﾀ ｼｹﾞﾙ	追想	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	105
柿田　茂	ｶｷﾀ ｼｹﾞﾙ	供養塔に刻みし亡き友の氏名	（４）こゝにふたゝび第２号	103
柿田　茂	ｶｷﾀ ｼｹﾞﾙ	「記憶よみがえりて」	（５）こゝにふたゝび第３号	75
柿田　茂	ｶｷﾀ ｼｹﾞﾙ	「供養の様子目に浮かび」	（８）こゝにふたゝび第６号	67

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
勘解　のぶ	ｶｹﾞ ﾉﾌﾞ	遺骨六年ぶりに迎えて	（９）本野ヶ原に散りて	26
蔭山　敏子	ｶｹﾞﾔﾏ ﾄｼｺ	恐怖のジャンケン	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	241
勘解由　行子	ｶｹﾞﾕ ﾕｷｺ	遺骨六年振りに我が家へ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	306
笠田　和江	ｶｻﾀﾞ ｶｽﾞｴ	神戸と豊川で空襲を体験	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	46
笠原　はつ	ｶｻﾊﾗ ﾊﾂ	優しい子だったのに	（９）本野ヶ原に散りて	50
笠松　博道	ｶｻﾏﾂ ﾋﾛﾐﾁ	ハンマーと鏨、夜道の追剥ぎ	（40）中学校が軍需工場になった	77
柏木　つや	ｶｼﾜｷﾞ ﾂﾔ	夜襲	（２）胸に穴があいた	108
鹿角　正昭	ｶｽﾞﾐ ﾏｻｱｷ	３月東京大空襲から４月学校工場	（40）中学校が軍需工場になった	293
片岡　美智子	ｶﾀｵｶ ﾐﾁｺ	みたまは平和を叫んでいる	（１）ああ豊川女子挺身隊	347
片桐　億	ｶﾀｷﾞﾘ ｵｸ	思い出してみると	（40）中学校が軍需工場になった	233
片桐　みよし	ｶﾀｷﾞﾘ ﾐﾖｼ	忘れえぬ豊川	（４）こゝにふたゝび第２号	55
片楠　みよし	ｶﾀｸｽ ﾐﾖｼ	生涯の生きがいとして	（６）こゝにふたゝび第４号	93
片瀬　かつ	ｶﾀｾ ｶﾂ	オシャカ様と天国へ	（９）本野ヶ原に散りて	59
堅田　仁	ｶﾀﾀﾞ ﾋﾄｼ	豊川海軍工廠になった飯田中学校	（40）中学校が軍需工場になった	80
堅田　仁	ｶﾀﾀﾞ ﾋﾄｼ	女子挺身隊との出会いの記	（40）中学校が軍需工場になった	81
片野　圓治	ｶﾀﾉ ｴﾝｼﾞ	八十年の夢	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	170
片野　圓治	ｶﾀﾉ ｴﾝｼﾞ	三十余年の歳月に憶う	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	203
片野　圓治	ｶﾀﾉ ｴﾝｼﾞ	平和と地獄	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	116
片野　圓治	ｶﾀﾉ ｴﾝｼﾞ	奉仕の心	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	108
片山　政信	ｶﾀﾔﾏ ﾏｻﾉﾌﾞ	惨たり丹波市海軍飛行予科練習生	（40）中学校が軍需工場になった	442
勝野　いとえ	ｶﾂﾉ ｲﾄｴ	あらためてご冥福を祈りて	（６）こゝにふたゝび第４号	34
勝谷　真澄	ｶﾂﾔ ﾏｽﾐ	若き日の体験	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	68
勝谷　真澄	ｶﾂﾔ ﾏｽﾐ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	17
勝谷　真澄	ｶﾂﾔ ﾏｽﾐ	戦い終わって二十七年	（４）こゝにふたゝび第２号	18
勝谷　真澄	ｶﾂﾔ ﾏｽﾐ	御礼	（８）こゝにふたゝび第６号	58
加藤　正勝	ｶﾄｳ ﾏｻｶﾂ	深い切り傷も硫黄の粉をかけただけ	（40）中学校が軍需工場になった	236
加藤　うめ子	ｶﾄｳ ｳﾒｺ	心のふる里の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	18
加藤　うめ子	ｶﾄｳ ｳﾒｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	70
加藤　きよ子	ｶﾄｳ ｷﾖｺ	寄宿舎の夜	（５）こゝにふたゝび第３号	48
加藤　悟	ｶﾄｳ ｻﾄﾙ	戦争は絶対にイヤ	（４）こゝにふたゝび第２号	56
加藤　週子	ｶﾄｳ ｼｭｳｺ	初めての死との戦い	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	92

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
加藤　週子	ｶﾄｳ ｼｭｳｺ	「初めての死との戦い」	（７）こゝにふたゝび第５号	30
加藤　俊二	ｶﾄｳ ｼｭﾝｼﾞ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	132
加藤　すみゑ	ｶﾄｳ ｽﾐｴ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	174
加藤　節	ｶﾄｳ ｾﾂ	あんこちゃんと共に	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	132
加藤　丈之助	ｶﾄｳ ﾀｹﾉｽｹ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	23
加藤　ちづへ	ｶﾄｳ ﾁﾂﾞﾍ	「男子は丸刈・女子はモンペ」	（11）いまこゝに	110
加藤　ちづへ	ｶﾄｳ ﾁﾂﾞﾍ	あれから四十年近く立ちました	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	116
加藤　時子	ｶﾄｳ ﾄｷｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	328
加藤　久枝	ｶﾄｳ ﾋｻｴ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	193
加藤　久枝	ｶﾄｳ ﾋｻｴ	思い出は遠くはるかに	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	195
加藤　久枝	ｶﾄｳ ﾋｻｴ	思い出は遠くはるかに	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	476
加藤　久子	ｶﾄｳ ﾋｻｺ	当時をしのんで	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	99
加藤　久子	ｶﾄｳ ﾋｻｺ	当時をしのんで	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	172
加藤　文彦	ｶﾄｳ ﾌﾐﾋｺ	第一仕上班・甲班　七月の記念写真	（40）中学校が軍需工場になった	85
加藤　正雪	ｶﾄｳ ﾏｻﾕｷ	豊廠の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	96
加藤　みさ子	ｶﾄｳ ﾐｻｺ	あの人がくれた今の幸わせ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	315
加藤　みさ子	ｶﾄｳ ﾐｻｺ	現在の幸せ身にしみて	（９）本野ヶ原に散りて	34
加藤　みさを	ｶﾄｳ ﾐｻｦ	命のあらん限り	（５）こゝにふたゝび第３号	51
加藤　道子	ｶﾄｳ ﾐﾁｺ	初めての死との戦い	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	245
加藤　迪子	ｶﾄｳ ﾐﾁｺ	生と死のはざ間に鬼となって	（18）戦争を知らない世代へ⑯	205
加藤　道代	ｶﾄｳ ﾐﾁﾖ	戦争を知らない世代から	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	68
加藤　道代	ｶﾄｳ ﾐﾁﾖ	一九八一年八月七日に	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	67
加藤　みよ	ｶﾄｳ ﾐﾖ	夢中で逃げた暑い日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	48
金刺　あい子	ｶﾅｻｼ ｱｲｺ	私の青春	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	110
金刺　あい子	ｶﾅｻｼ ｱｲｺ	一生心に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	115
金沢　千恵子	ｶﾅｻﾞﾜ ﾁｴｺ	父と兄姉を亡くして	（９）本野ヶ原に散りて	65
金沢　なつ	ｶﾅｻﾞﾜ ﾅﾂ	手助けをしてくれたのに	（９）本野ヶ原に散りて	49
金沢　ふさ子	ｶﾅｻﾞﾜ ﾌｻｺ	「思い出はつきぬ」	（７）こゝにふたゝび第５号	64
金沢　文子	ｶﾅｻﾞﾜ ﾌﾐｺ	ああ豊川海軍工廠	（22）豊川海軍工廠の記録	159
金沢　豊友会	ｶﾅｻﾞﾜ ﾎｳﾕｳｶｲ	おれいのあいさつ	（６）こゝにふたゝび第４号	34
金関　正俊	ｶﾅｾｷ ﾏｻﾄｼ	古代遺物に関連して　－－思いつくままに－－	（24）豊火の会会誌 第二号	10

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
金関　正俊	ｶﾅｾｷ ﾏｻﾄｼ	浜名海兵団偶数分隊出身の中尉達	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	37
金関　正俊	ｶﾅｾｷ ﾏｻﾄｼ	人知れず奈良にもあった豊川海軍工廠戦没者慰霊碑	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	1
金関　正俊	ｶﾅｾｷ ﾏｻﾄｼ	平壌の思い出と旅行記	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	37
金子　美智子	ｶﾈｺ ﾐﾁｺ	私の戦争体験	（11）いまこゝに	31
金子　美智子	ｶﾈｺ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	330
金子　美智子	ｶﾈｺ ﾐﾁｺ	私の戦争体験	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	384
金子　芳枝	ｶﾈｺ ﾖｼｴ	稲荷が燃えている！	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	135
金田　正人	ｶﾈﾀﾞ ﾏｻﾄ	整備班の仕事はネ	（40）中学校が軍需工場になった	177
金田　正人	ｶﾈﾀﾞ ﾏｻﾄ	公用腕章で何を運んだのだろう？	（40）中学校が軍需工場になった	369
兼松　美好	ｶﾈﾏﾂ ﾐﾖｼ	豊川平和の像について	（22）豊川海軍工廠の記録	175
加納　信雄	ｶﾉｳ ﾉﾌﾞｵ	昼はハンマー、夜はペン	（40）中学校が軍需工場になった	416
鎌倉　寿	ｶﾏｸﾗ ﾋｻｼ	荼毘の煙は絶えることなく	（18）戦争を知らない世代へ⑯	137
上条　絹子	ｶﾐｼﾞｮｳ ｷﾇｺ	第四機銃工場	（２）胸に穴があいた	76
上条　絹子	ｶﾐｼﾞｮｳ ｷﾇｺ	国が滅びる前兆	（２）胸に穴があいた	128
上条　絹子	ｶﾐｼﾞｮｳ ｷﾇｺ	またおいでなすった	（２）胸に穴があいた	130
上条　絹子	ｶﾐｼﾞｮｳ ｷﾇｺ	「お前たちは疎開して助かれ」	（２）胸に穴があいた	132
上条　絹子	ｶﾐｼﾞｮｳ ｷﾇｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	64
神谷　静夫	ｶﾐﾔ ｼｽﾞｵ	運輸の装備車輌は140輌	（22）豊川海軍工廠の記録	106
神谷　正吾	ｶﾐﾔ ｼｮｳｺﾞ	豊川工廠の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	210
神谷　正吾	ｶﾐﾔ ｼｮｳｺﾞ	豊川工廠の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	578
亀井　久子	ｶﾒｲ ﾋｻｺ	忘れなれないじゃがいもの味	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	49
亀口　重一	ｶﾒｸﾞﾁ ｼｹﾞｶｽﾞ	短歌	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	110
亀口　重一	ｶﾒｸﾞﾁ ｼｹﾞｶｽﾞ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	145
亀田　いちえ	ｶﾒﾀﾞ ｲﾁｴ	苦しかったあの頃	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	118
亀谷　栄一	ｶﾒﾀﾆ ｴｲｲﾁ	指の間に見た工廠の最期	（18）戦争を知らない世代へ⑯	132
茅原　直人	ｶﾔﾊﾗ ﾅｵﾄ	トランペットとともに	（40）中学校が軍需工場になった	295
加山　雅雄	ｶﾔﾏ ﾏｻｵ	戦時中を偲ぶ	（40）中学校が軍需工場になった	296
河合　栄	ｶﾜｲ ｻｶｴ	思い出の再会	（３）こゝにふたゝび創刊号	21
河合　定子	ｶﾜｲ ｻﾀﾞｺ	山本宏子・鈴木鎮子・鈴木睦子さんの想い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	74
河合　定子	ｶﾜｲ ｻﾀﾞｺ	八月七日の想い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	204
河合　絢子	ｶﾜｲ ｼﾞｭﾝｺ	非国民と云われて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	208

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
川合　たみえ	ｶﾜｲ ﾀﾐｴ	「あゝ、地球がボタン一つで…」	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	40
川合　たみえ	ｶﾜｲ ﾀﾐｴ	誓い新たに	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	65
川合　たみゑ	ｶﾜｲ ﾀﾐｴ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	168
河合　豊子	ｶﾜｲ ﾄﾖｺ	大正村を尋ねて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	333
河合　はる子	ｶﾜｲ ﾊﾙｺ	戦争の二字は世界から消えろ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	226
河合　弘幸	ｶﾜｲ ﾋﾛﾕｷ	ゲンコツビンタ	（40）中学校が軍需工場になった	237
河合　正雄	ｶﾜｲ ﾏｻｵ	運命	（５）こゝにふたゝび第３号	14
河内　希美世	ｶﾜｳﾁ ｷﾐﾖ	地震におびえる	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	199
川浦　やす子	ｶﾜｳﾗ ﾔｽｺ	御恩は一生忘れません	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	206
川浦　やす子	ｶﾜｳﾗ ﾔｽｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	24
川浦　やす子	ｶﾜｳﾗ ﾔｽｺ	二十六年ぶりに旧豊川工廠を訪れて	（４）こゝにふたゝび第２号	35
川浦　やす子	ｶﾜｳﾗ ﾔｽｺ	「水を、水を」	（８）こゝにふたゝび第６号	10
川上　愿	ｶﾜｶﾐ ｹﾞﾝ	亡き友の思い出	（18）戦争を知らない世代へ⑯	38
川口　きよ	ｶﾜｸﾞﾁ ｷﾖ	遺体をリヤカーにのせ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	300
川口　きよ	ｶﾜｸﾞﾁ ｷﾖ	遺体をリヤカーにのせ	（９）本野ヶ原に散りて	20
河里　九一	ｶﾜｻﾄ ｸｲﾁ	堀の中で	（９）本野ヶ原に散りて	47
川島　隆志	ｶﾜｼﾏ ﾀｶｼ	長い長い一日	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	55
川杉 すゑの	ｶﾜｽｷﾞ ｽｴﾉ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	338
河澄　正子	ｶﾜｽﾐ ﾏｻｺ	思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	167
川澄　八重子	ｶﾜｽﾐ ﾔｴｺ	コスモスの花には	（19）白紙に消えた青春	153
河津　とわ	ｶﾜﾂﾞ ﾄﾜ	胴体のない無数の足と手	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	298
河津　とわ	ｶﾜﾂﾞ ﾄﾜ	胴体のない無数の足と手	（９）本野ヶ原に散りて	17
川根　しずゑ	ｶﾜﾈ ｼｽﾞｴ	「歩こう会に参加して」	（11）いまこゝに	96
川端　肇	ｶﾜﾊﾞﾀ ﾊｼﾞﾒ	八月十五日のこと	（38）豊川海軍工廠会会誌 第十六号	3
河村　きみ	ｶﾜﾑﾗ ｷﾐ	あの場所の土を	（９）本野ヶ原に散りて	43
木内　貞	ｷｳﾁ ｻﾀﾞ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	26
木内　貞	ｷｳﾁ ｻﾀﾞ	遠き本州をしのびて	（４）こゝにふたゝび第２号	107
木内　貞子	ｷｳﾁ ｻﾀﾞｺ	「こゝにふたゝび」のえんで	（６）こゝにふたゝび第４号	13
北　久子	ｷﾀ ﾋｻｺ	遺族は手を握って起ちましょう	（１）ああ豊川女子挺身隊	342
木田　道枝	ｷﾀﾞ ﾐﾁｴ	決死隊のクジ引	（１）ああ豊川女子挺身隊	166
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	あの頃の思い出	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	44

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	あれから三十四年	（11）いまこゝに	86
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	あの頃の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	338
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	友の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	232
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	再会と思い出	（６）こゝにふたゝび第４号	40
北川　かね子	ｷﾀｶﾞﾜ ｶﾈｺ	「友情と思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	15
北川　幸子	ｷﾀｶﾞﾜ ｻﾁｺ	嗚呼豊川海軍工廠	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	120
北川　幸子	ｷﾀｶﾞﾜ ｻﾁｺ	ニュースを見て	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	123
北澤　重治	ｷﾀｻﾞﾜ ｼｹﾞﾊﾙ	使い走りの記憶	（40）中学校が軍需工場になった	171
北原　諭	ｷﾀﾊﾗ ｻﾄﾙ	仕上班は大部屋だった	（40）中学校が軍需工場になった	86
北原　比呂志	ｷﾀﾊﾗ ﾋﾛｼ	空襲・疎開・勤労動員（悪しき思い出）	（40）中学校が軍需工場になった	296
北原　安夫	ｷﾀﾊﾗ ﾔｽｵ	ある疎開生徒の記憶	（40）中学校が軍需工場になった	297
北村　照子	ｷﾀﾑﾗ ﾃﾙｺ	引揚げの車中で殉死を知る	（１）ああ豊川女子挺身隊	303
城所　美智子	ｷﾄﾞｺﾛ ﾐﾁｺ	空襲・そして矢島信子さんのこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	221
木下　堅固	ｷﾉｼﾀ ｹﾝｺﾞ	資材は鉄棒	（40）中学校が軍需工場になった	173
木下　是雄	ｷﾉｼﾀ ｺﾚｵ	近事雑録	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	30
木下　静枝	ｷﾉｼﾀ ｼｽﾞｴ	食べたい一心の願い	（１）ああ豊川女子挺身隊	125
木下　静枝	ｷﾉｼﾀ ｼｽﾞｴ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	141
木下　静枝	ｷﾉｼﾀ ｼｽﾞｴ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	221
木下　静枝	ｷﾉｼﾀ ｼｽﾞｴ	豊川女子挺身隊の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	135
木下　静枝	ｷﾉｼﾀ ｼｽﾞｴ	豊川女子挺身隊の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	626
木下　昭明	ｷﾉｼﾀ ｼｮｳﾒｲ	紙一重の差を想う	（40）中学校が軍需工場になった	447
木下　四郎	ｷﾉｼﾀ ｼﾛｳ	フランス風景　二点	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	12
木下　四郎	ｷﾉｼﾀ ｼﾛｳ	絵描きの雑感	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	1
木下　四郎	ｷﾉｼﾀ ｼﾛｳ	豊川の思い出	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	11
木下　伸二	ｷﾉｼﾀ ｼﾝｼﾞ	一所懸命だった	（40）中学校が軍需工場になった	237
木下　俊爾	ｷﾉｼﾀ ﾄｼｼﾞ	竪削盤、衣食、玉音放送、お説教	（40）中学校が軍需工場になった	191
木下　友子	ｷﾉｼﾀ ﾄﾓｺ	アルバムアリガトウ	（５）こゝにふたゝび第３号	56
木下　友子	ｷﾉｼﾀ ﾄﾓｺ	死にもの狂いで赤塚山へ	（５）こゝにふたゝび第３号	74
木下　秀男	ｷﾉｼﾀ ﾋﾃﾞｵ	今考えると	（40）中学校が軍需工場になった	124
木下　秀人	ｷﾉｼﾀ ﾋﾃﾞﾄ	記憶の底から	（40）中学校が軍需工場になった	352
木下　弥生	ｷﾉｼﾀ ﾔﾖｲ	精度千分の１ミリ・勝利を信じて	（40）中学校が軍需工場になった	239

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
木村　恵美子	ｷﾑﾗ ｴﾐｺ	命の明暗	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	50
木村　かずゑ	ｷﾑﾗ ｶｽﾞｴ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	319
木村　和夫	ｷﾑﾗ ｶｽﾞｵ	学校工場とは一体何だったのか	（40）中学校が軍需工場になった	192
木村　貞	ｷﾑﾗ ｻﾀﾞ	待ち遠しい工廠映画「暑く長い夏」	（５）こゝにふたゝび第３号	46
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	火工部装填工場	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	137
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	火工部装填工場	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	628
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	豊川海軍工廠時代の思い出	（23）豊火の会会誌 第一号	9
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	随筆－近頃の世相（昭和二〇年　續「海のつはもの」より）	（24）豊火の会会誌 第二号	18
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	「豊火」から「豊川海軍工廠会会誌」への発展について	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	1
木村　真	ｷﾑﾗ ﾏｺﾄ	敗戦後の豊川の思い出	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	25
清川　善太郎	ｷﾖｶﾜ ﾖｼﾀﾛｳ	悪夢の死体調査	（18）戦争を知らない世代へ⑯	35
桐山　昭吉	ｷﾘﾔﾏ ｼｮｳｷﾁ	アルバムのお礼	（５）こゝにふたゝび第３号	77
久我　六郎	ｸｶﾞ ﾛｸﾛｳ	「遺体高圧線にからみて」	（11）いまこゝに	142
久我　六郎	ｸｶﾞ ﾛｸﾛｳ	遺体高圧線にからみて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	431
久世　蔦次	ｸｾﾞ ﾂﾀｼﾞ	先生のお教えを守り	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	301
久世　蔦次	ｸｾﾞ ﾂﾀｼﾞ	先生のお教えを守り	（９）本野ヶ原に散りて	22
久世　敏子	ｸｾﾞ ﾄｼｺ	「電球の暖かみ今も忘れじ」	（11）いまこゝに	52
久野　信市	ｸﾉ ｼﾝｲﾁ	終戦幻夢二題	（40）中学校が軍需工場になった	400
久保田　健	ｸﾎﾞﾀ ﾀｹｼ	「石鹸を食べた人は誰だ？」	（40）中学校が軍需工場になった	139
久保田　健	ｸﾎﾞﾀ ﾀｹｼ	美術教室の環境と工員たち	（40）中学校が軍需工場になった	143
久保田　健	ｸﾎﾞﾀ ﾀｹｼ	従兄弟と歌った「ああ紅の血は燃ゆる」	（40）中学校が軍需工場になった	331
久保田　朝次	ｸﾎﾞﾀ ｱｻｼﾞ	友の死をいたむ	（６）こゝにふたゝび第４号	48
久保田　紀久子	ｸﾎﾞﾀ ｷｸｺ	子に伝えよう恐ろしい戦争	（４）こゝにふたゝび第２号	91
久保田　啓一	ｸﾎﾞﾀ ｹｲｲﾁ	飯田と別離・屋代中学の勤労動員	（40）中学校が軍需工場になった	483
久保田　庄治	ｸﾎﾞﾀ ｼｮｳｼﾞ	毎日が楽しかった	（40）中学校が軍需工場になった	126
窪田　二郎	ｸﾎﾞﾀ ｼﾞﾛｳ	昭和20年８月７日豊川空襲覚え書き	（22）豊川海軍工廠の記録	168
久保田　とよ子	ｸﾎﾞﾀ ﾄﾖｺ	死んでなるものか　第九話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	25
久保田　とよ子	ｸﾎﾞﾀ ﾄﾖｺ	死んでなるものか　第九話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	167
久保田　とよ子	ｸﾎﾞﾀ ﾄﾖｺ	死んでなるものか	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	51
久保田　昇	ｸﾎﾞﾀ ﾉﾎﾞﾙ	材料は豊富にあった	（40）中学校が軍需工場になった	174
久保田　昇	ｸﾎﾞﾀ ﾉﾎﾞﾙ	生命がけの材料運び	（40）中学校が軍需工場になった	370

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
久保田　昇	ｸﾎﾞﾀ ﾉﾎﾞﾙ	異常な国策	（40）中学校が軍需工場になった	485
久保寺　朝二	ｸﾎﾞﾃﾞﾗ ﾁｮｳｼﾞ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　豊川海軍工廠被爆時の状況について	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	11
熊谷　こはく	ｸﾏｶﾞｲ ｺﾊｸ	今から十代の夢を	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	138
熊谷　幸	ｸﾏｶﾞｲ ﾕｷ	そんな毎日だった	（40）中学校が軍需工場になった	88
熊谷　幸夫	ｸﾏｶﾞｲ ﾕｷｵ	誓ったご奉公	（40）中学校が軍需工場になった	86
熊野　市郎右ヱ門	ｸﾏﾉ ｲﾁﾛｳｳｴﾓﾝ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	75
久米　栄智枝	ｸﾒ ｻﾁｴ	思い出の中で	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	136
久米　幸子	ｸﾒ ｻﾁｺ	廠友からの便り	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	204
倉沢　好昭	ｸﾗｻﾜ ﾖｼｱｷ	取り組んだ千分の一ミリ加工	（40）中学校が軍需工場になった	240
倉橋　真一	ｸﾗﾊｼ ｼﾝｲﾁ	戦時下の想い出と再会	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	215
倉橋　真一	ｸﾗﾊｼ ｼﾝｲﾁ	戦時下の想い出と再会	（４）こゝにふたゝび第２号	109
倉橋　真一	ｸﾗﾊｼ ｼﾝｲﾁ	四日市市友情会をたづねて	（４）こゝにふたゝび第２号	111
倉橋　てつ	ｸﾗﾊｼ ﾃﾂ	せめて息のあるうちに	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	302
倉橋　てつ	ｸﾗﾊｼ ﾃﾂ	仮病院内で重傷を	（９）本野ヶ原に散りて	22
倉橋　緑	ｸﾗﾊｼ ﾐﾄﾞﾘ	よみがえる八月の戦闘	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	52
栗崎　豁男	ｸﾘｻｷ ｶﾂｵ	口惜しい記憶	（40）中学校が軍需工場になった	90
栗原　福雄	ｸﾘﾊﾗ ﾌｸｵ	悲惨　豊川海軍工廠勤労動員学徒	（22）豊川海軍工廠の記録	134
黒田　ふさ江	ｸﾛﾀﾞ ﾌｻｴ	選ばれて青年隊に	（19）白紙に消えた青春	83
黒柳　あや子	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｱﾔｺ	死んでなるものか　第四話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	20
黒柳　あや子	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｱﾔｺ	死んでなるものか　第四話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	162
黒柳　あや子	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｱﾔｺ	両親の言葉で生きのびた	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	54
桑原　とみ	ｸﾜﾊﾗ ﾄﾐ	悲惨な思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	120
桑原　とみ	ｸﾜﾊﾗ ﾄﾐ	悲惨な思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	453
桑原　とみ	ｸﾜﾊﾗ ﾄﾐ	西へ西へと逃げるだけ	（18）戦争を知らない世代へ⑯	106
桑原　とみ	ｸﾜﾊﾗ ﾄﾐ	悲惨な想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	96
桑原　とみ	ｸﾜﾊﾗ ﾄﾐ	思い出多い西門附近	（５）こゝにふたゝび第３号	70
桑原　亮平	ｸﾜﾊﾗ ﾘｮｳﾍｲ	我が思い出の地・台湾	（40）中学校が軍需工場になった	299
小池　将浩	ｺｲｹ ﾏｻﾋﾛ	学徒動員の贈りもの	（40）中学校が軍需工場になった	417
小泉　順作	ｺｲｽﾞﾐｼﾞｭﾝｻｸ	思い出の豊川	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	84
小泉　順作	ｺｲｽﾞﾐｼﾞｭﾝｻｸ	友の冥福を祈る	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	122
小泉　順作	ｺｲｽﾞﾐｼﾞｭﾝｻｸ	あれからもう三十年	（６）こゝにふたゝび第４号	16

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
小泉　順作	ｺｲｽﾞﾐｼﾞｭﾝｻｸ	参加してよかった	（６）こゝにふたゝび第４号	48
小泉　順作	ｺｲｽﾞﾐｼﾞｭﾝｻｸ	「豊廠被爆二十九年の回顧」	（７）こゝにふたゝび第５号	51
高　ふみ	ｺｳ ﾌﾐ	健身修練所の生活	（１）ああ豊川女子挺身隊	100
高　ふみ	ｺｳ ﾌﾐ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	328
高　ふみ	ｺｳ ﾌﾐ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	132
高　ふみ	ｺｳ ﾌﾐ	三河史料館内に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	98
向坂　つよ	ｺｳｻｶ ﾂﾖ	時計は十一時五〇分	（９）本野ヶ原に散りて	54
郷地　ふき子	ｺﾞｳﾁ ﾌｷｺ	感謝	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	67
河辺　すま	ｺｳﾍﾞ ｽﾏ	生涯悩まされた鉄片	（19）白紙に消えた青春	211
香村　三吉	ｺｳﾑﾗ ｻﾝｷﾁ	工廠時代の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	123
高力　富子	ｺｳﾘｷ ﾄﾐｺ	山本彩子さんの思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	76
高力　富子	ｺｳﾘｷ ﾄﾐｺ	痛恨の時は流れて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	365
小桐　シズ	ｺｷﾞﾘ ｼｽﾞ	兄の文庫本	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	128
小久保　千枝子	ｺｸﾎﾞ ﾁｴｺ	雷が百個も落ちたような	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	56
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	老いたる父の愛情	（１）ああ豊川女子挺身隊	56
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	108
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	食べたい一心の願い	（１）ああ豊川女子挺身隊	127
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	カネの茶碗に竹の箸	（１）ああ豊川女子挺身隊	131
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	158
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	娘に死を知らせるな	（１）ああ豊川女子挺身隊	194
小坂　和子	ｺｻｶ ｶｽﾞｺ	明るい人気者の紀ちゃん	（１）ああ豊川女子挺身隊	331
小塩　玄也	ｺｼｵ ｹﾞﾝﾔ	私の「学校工場」時代前後	（40）中学校が軍需工場になった	356
小島　加寿恵	ｺｼﾞﾏ ｶｽﾞｴ	忘れえぬ〝おにぎりの味〟	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	42
小島　加寿恵	ｺｼﾞﾏ ｶｽﾞｴ	「若き日の思い出」	（11）いまこゝに	131
小島　加寿恵	ｺｼﾞﾏ ｶｽﾞｴ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	341
小島　加寿恵	ｺｼﾞﾏ ｶｽﾞｴ	忘れえぬ〝おにぎりの味〟	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	337
小島　啓三郎	ｺｼﾞﾏ ｹｲｻﾞﾌﾞﾛｳ	戦争の傷跡	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	30
小島　啓三郎	ｺｼﾞﾏ ｹｲｻﾞﾌﾞﾛｳ	戦争の傷跡	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	330
小嶋　貞臣	ｺｼﾞﾏ ｻﾀﾞｵﾐ	兄の想い出	（９）本野ヶ原に散りて	13
小島　繁子	ｺｼﾞﾏ ｼｹﾞｺ	満島に疎開して	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	139
小島　茂	ｺｼﾞﾏ ｼｹﾞﾙ	旧学徒妙子を忍びて	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	282

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
小島　茂	ｺｼﾞﾏ ｼｹﾞﾙ	終生忘れず	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	298
小島　茂	ｺｼﾞﾏ ｼｹﾞﾙ	終生忘れず	（９）本野ヶ原に散りて	18
五島　甚六	ｺﾞｼﾏ ｼﾞﾝﾛｸ	息子の声	（11）いまこゝに	166
小島　妙子	ｺｼﾞﾏ ﾀｴｺ	遺稿日記より「遠足」	（９）本野ヶ原に散りて	19
小島　妙子	ｺｼﾞﾏ ﾀｴｺ	遺稿日記より「遠足」	（９）本野ヶ原に散りて	19
小島　敞	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｼ	「九七式転輪羅針儀」は検査室にあった	（40）中学校が軍需工場になった	159
小清水　はつみ	ｺｼﾐｽﾞ ﾊﾂﾐ	力いっぱい生きたい	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	140
児玉　貞子	ｺﾀﾞﾏ ｻﾀﾞｺ	歩調とれ	（２）胸に穴があいた	97
児玉　貞子	ｺﾀﾞﾏ ｻﾀﾞｺ	のみ攻め	（２）胸に穴があいた	106
児玉　みづ江	ｺﾀﾞﾏ ﾐﾂﾞｴ	まるで戦争ロボットのように	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	57
後藤　和子	ｺﾞﾄｳ ｶｽﾞｺ	友は今も十三歳のままに	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	141
後藤　和子	ｺﾞﾄｳ ｶｽﾞｺ	血も凍った日	（22）豊川海軍工廠の記録	142
後藤　悟	ｺﾞﾄｳ ｻﾄﾙ	慰霊祭に参加して	（４）こゝにふたゝび第２号	34
後藤　寿恵子	ｺﾞﾄｳ ｽｴｺ	戦争の中の少女時代	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	224
後藤　忠治	ｺﾞﾄｳ ﾀﾀﾞﾊﾙ	飯中生15歳の夏（忘れ得ぬ日々）	（40）中学校が軍需工場になった	92
後藤　忠治	ｺﾞﾄｳ ﾀﾀﾞﾊﾙ	宝塚海軍航空隊往還	（40）中学校が軍需工場になった	450
後藤　弘人	ｺﾞﾄｳ ﾋﾛﾄ	あの頃	（40）中学校が軍需工場になった	96
小西　まし子	ｺﾆｼ ﾏｼｺ	つつましい恋ごころ	（１）ああ豊川女子挺身隊	135
小橋　すみ子	ｺﾊｼ ｽﾐｺ	亡き兄の如くに	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	95
小橋　すみ子	ｺﾊｼ ｽﾐｺ	亡き兄を偲びて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	242
小橋　すみ子	ｺﾊｼ ｽﾐｺ	八月七日	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	174
小橋　すみ子	ｺﾊｼ ｽﾐｺ	亡き兄を偲びて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	573
小長谷　鉄次	ｺﾊｾ ﾃﾂｼﾞ	第十四回徴用工員の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	70
小早川　豊彦	ｺﾊﾞﾔｶﾜ ﾄﾖﾋｺ	被爆時の回想	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	234
小林　証廣	ｺﾊﾞﾔｼ ｱｷﾋﾛ	憧れの飯田中学校だったが	（40）中学校が軍需工場になった	146
小林　イチ	ｺﾊﾞﾔｼ ｲﾁ	疎開と再会	（８）こゝにふたゝび第６号	46
小林　悦子	ｺﾊﾞﾔｼ ｴﾂｺ	長野市地蔵館での思い出	（５）こゝにふたゝび第３号	72
小林　きぬ	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾇ	ひざにまつわるわが子に泣けて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	227
小林　きぬ	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾇ	惨禍は青葉と共に	（18）戦争を知らない世代へ⑯	99
小林　きぬ	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾇ	死亡当時の模様を友人より知らせた手紙	（２）胸に穴があいた	196
小林　きぬ	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾇ	懐しさのあまり	（５）こゝにふたゝび第３号	74

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
小林　きぬ	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾇ	ひざにまつわるわが子に泣けて	（６）こゝにふたゝび第４号	10
小林　君江	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾐｴ	友に捧げし菊の花	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	227
小林　君江	ｺﾊﾞﾔｼ ｷﾐｴ	友に捧げし菊の花みたまよ香れ永久に	（５）こゝにふたゝび第３号	34
小林　恭之助	ｺﾊﾞﾔｼ ｷｮｳﾉｽｹ	回想の時代―学徒動員の頃―	(40) 中学校が軍需工場になった	417
小林　次郎	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾞﾛｳ	天龍峡行	(38) 豊川海軍工廠会会誌 第十六号	22
小林　ちえ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾁｴ	不安にすごした日々	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	177
小林　千恵子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾁｴｺ	思い出	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	121
小林　千恵子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾁｴｺ	プログラムの中に	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	117
小林　千恵子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾁｴｺ	回想	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	199
小林　千恵子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾁｴｺ	回想	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	604
小林　富次郎	ｺﾊﾞﾔｼ ﾄﾐｼﾞﾛｳ	三十年前の恐怖	（８）こゝにふたゝび第６号	13
小林　直美	ｺﾊﾞﾔｼ ﾅｵﾐ	父の戦時当時の体験	(11) いまこゝに	139
小林　福次	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌｸｼﾞ	遺書	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	55
小林　福次	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌｸｼﾞ	遺書	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	344
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	平和のいしずえ	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	15
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	ノー・モア・トヨカワ	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	112
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	平和のいしずえ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	321
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	ノー・モア・トヨカワ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	198
小林　ふみえ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	思い出したくない想い出	(22) 豊川海軍工廠の記録	164
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	ノー・モア・トヨカワ	（４）こゝにふたゝび第２号	46
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	71
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	じゃがいもの思い出	（６）こゝにふたゝび第４号	52
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	脳裡に浮かんで	（６）こゝにふたゝび第４号	32
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	「思い出の三十三年前」	（８）こゝにふたゝび第６号	37
小林　ふみゑ	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｴ	「海苔に昔を思い出し」	（８）こゝにふたゝび第６号	71
小林　まち	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏﾁ	大地は地震のように	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	211
小林　みどり	ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾄﾞﾘ	センバン・フライスバンと取組んで	（５）こゝにふたゝび第３号	67
小林　美代	ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾖ	ネンネーが二人いる！	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	143
小林　美代子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾖｺ	おもいで	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	67
小林　美代子	ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾖｺ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	163
小林　ゆき	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷ	キヌのモンペを穿いて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	291

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
小林　ゆき	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷ	キヌのモンペを穿いて	（９）本野ヶ原に散りて	1
小林　嘉雄	ｺﾊﾞﾔｼ ﾖｼｵ	ああ飛行機	（40）中学校が軍需工場になった	434
小針　栄吉	ｺﾊﾞﾘ ｴｲｷﾁ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	344
小間　麗子	ｺﾏ ﾚｲｺ	女性のヒロイズム	（１）ああ豊川女子挺身隊	86
小間　麗子	ｺﾏ ﾚｲｺ	疎開工場の友情も空し	（１）ああ豊川女子挺身隊	257
小間　麗子	ｺﾏ ﾚｲｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	276
小松　悦次	ｺﾏﾂ ｴﾂｼﾞ	今ここに	（11）いまこゝに	61
小松　聡一	ｺﾏﾂ ｿｳｲﾁ	記憶に残る光学部研磨工場	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	5
五味　敬蔵	ｺﾞﾐ ｹｲｿﾞｳ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	167
小目谷　ヨシヱ	ｺﾒﾔ ﾖｼｴ	思い出のままに	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	170
小山　英子	ｺﾔﾏ ｴｲｺ	地震・空襲・そして	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	180
小山　かね	ｺﾔﾏ ｶﾈ	わが子の帰りを待ちわびて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	316
小山　かね	ｺﾔﾏ ｶﾈ	弟を忍びて	（９）本野ヶ原に散りて	35
小山　豊子	ｺﾔﾏ ﾄﾖｺ	あの日の思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	316
小山　芳次	ｺﾔﾏ ﾖｼｼﾞ	今も残る傷跡	（22）豊川海軍工廠の記録	141
是松　種臣	ｺﾚﾏﾂ ﾀﾈｵﾐ	終戦までの東京の中学生	（40）中学校が軍需工場になった	304
小割　定夫	ｺﾜﾘ ｻﾀﾞｵ	あゝ松村係官	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	130
近田　敬二	ｺﾝﾀﾞ ｹｲｼﾞ	優しき姉	（９）本野ヶ原に散りて	38
権田　豊	ｺﾞﾝﾀﾞ ﾕﾀｶ	学業ヲステテ	（９）本野ヶ原に散りて	46
近藤　恵美子	ｺﾝﾄﾞｳ ｴﾐｺ	「若い日の思い出」	（11）いまこゝに	96
近藤　恵美子	ｺﾝﾄﾞｳ ｴﾐｺ	怖かったあの日	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	76
近藤　恵美子	ｺﾝﾄﾞｳ ｴﾐｺ	怖かったあの日	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	441
近藤　くに子	ｺﾝﾄﾞｳ ｸﾆｺ	白いズック靴	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	144
近藤　せつ子	ｺﾝﾄﾞｳ ｾﾂｺ	食べる話ばっかり	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	79
近藤　太郎左衛門の妹	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀﾛｳｻﾞｴﾓﾝﾉｲﾓｳﾄ	亡き兄太郎左衛門の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	80
近藤　太郎左衛門の妹	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀﾛｳｻﾞｴﾓﾝﾉｲﾓｳﾄ	亡き兄太郎左衛門の想い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	539
近藤　太郎左衛門の妹	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀﾛｳｻﾞｴﾓﾝﾉｲﾓｳﾄ	亡き兄太郎左ヱ門の想い出	（３）こゝにふたゝび創刊号	63
近藤　とみ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐ	諏訪墓地に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	81
近藤　とみ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐ	諏訪墓地に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	540
近藤　トミ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐ	学生服のままで	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	290
近藤　トミ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐ	学生服のままで	（９）本野ヶ原に散りて	1

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
近藤　富男	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐｵ	日の丸国旗今も	（11）いまこゝに	85
近藤　富男	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾐｵ	日の丸の国旗－家宝として大切に－	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	257
近藤　正生	ｺﾝﾄﾞｳ ﾏｻｵ	被爆者の体験記を読んで	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	187
近藤　みレ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾐﾚ	「豊川海軍工廠がやられた」	（11）いまこゝに	121
近藤　みレ	ｺﾝﾄﾞｳ ﾐﾚ	豊川海軍工廠がやられた!!	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	427
才川　良子	ｻｲｶﾜ ﾘｮｳｺ	海軍ではたらくよろこび	（１）ああ豊川女子挺身隊	69
才川　良子	ｻｲｶﾜ ﾘｮｳｺ	健身修練所の生活	（１）ああ豊川女子挺身隊	99
才川　良子	ｻｲｶﾜ ﾘｮｳｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	159
才川　良子	ｻｲｶﾜ ﾘｮｳｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	244
斎藤　俊次	ｻｲﾄｳ ｼｭﾝｼﾞ	ある老後の歩み	（36）豊川海軍工廠会会誌 第十四号	23
斎藤　進	ｻｲﾄｳ ｽｽﾑ	材料班・炊事係・ヘラ絞り	（40）中学校が軍需工場になった	306
斉藤　久代	ｻｲﾄｳ ﾋｻﾖ	豊川海軍工廠の空襲の思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	269
斎藤　導雄	ｻｲﾄｳ ﾐﾁｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	26
斎藤　光雄	ｻｲﾄｳ ﾐﾂｵ	あゝ豊川の鎮魂歌	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	43
斎藤　稔	ｻｲﾄｳ ﾐﾉﾙ	十六寮勉学室	（11）いまこゝに	88
斎藤　稔	ｻｲﾄｳ ﾐﾉﾙ	思いつくままに	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	168
斎藤　稔	ｻｲﾄｳ ﾐﾉﾙ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	329
斉藤　理介	ｻｲﾄｳ ﾘｽｹ	友情会のおかげで	（６）こゝにふたゝび第４号	27
斉能　せつ子	ｻｲﾉ ｾﾂｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	154
酒井　克子	ｻｶｲ ｶﾂｺ	生きていたのが不思議なくらい	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	146
坂井　たつ	ｻｶｲ ﾀﾂ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	136
酒井　博	ｻｶｲ ﾋﾛｼ	戦争体験	（11）いまこゝに	138
酒井　寛	ｻｶｲ ﾋﾛｼ	これで勝てるか	（40）中学校が軍需工場になった	242
酒井　正記	ｻｶｲ ﾏｻｷ	空襲体験記	（22）豊川海軍工廠の記録	151
酒井　美代子	ｻｶｲ ﾐﾖｺ	短歌	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	189
酒井　美代子	ｻｶｲ ﾐﾖｺ	短歌　還暦の旅-（命得て）	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	184
坂井　美儀	ｻｶｲ ﾐﾖｼ	妻との別れ	（９）本野ヶ原に散りて	41
榊原　幸子	ｻｶｷﾊﾞﾗ ｻﾁｺ	亡き先輩の墓地に花を	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	217
榊原　はつゑ	ｻｶｷﾊﾞﾗ ﾊﾂｴ	「十五才の頃」	（８）こゝにふたゝび第６号	9
榊原　はる	ｻｶｷﾊﾞﾗ ﾊﾙ	あの日あの頃を辿りて	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	68
榊原　はる	ｻｶｷﾊﾞﾗ ﾊﾙ	あの日あの頃を辿りて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	351

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
榊原　芳一	ｻｶｷﾊﾞﾗ ﾖｼｶｽﾞ	昭和十二年からの思い出	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	27
坂口　純子	ｻｶｸﾞﾁ ｼﾞｭﾝｺ	友とはぐれて	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	161
坂野　静江	ｻｶﾉ ｼｽﾞｴ	「こゝにふたゝび」ありがとう	(８) こゝにふたゝび第６号	60
坂野　静江	ｻｶﾉ ｼｽﾞｴ	お礼	(８) こゝにふたゝび第６号	63
坂部　尚代	ｻｶﾍﾞ ﾋｻﾖ	「本野ヶ原に散りて三十三回忌の夏」を手にして	(11) いまこゝに	94
坂部　尚代	ｻｶﾍﾞ ﾋｻﾖ	あぶない！早くここに入れ!!	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	411
佐久間　実	ｻｸﾏ ﾐﾉﾙ	あの日・あの時	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	31
佐久間　実	ｻｸﾏ ﾐﾉﾙ	あの日・あの時	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	330
作山　とみ	ｻｸﾔﾏ ﾄﾐ	「女子並びに低学年学徒退避せよ」	(11) いまこゝに	103
作山　とみ	ｻｸﾔﾏ ﾄﾐ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	324
作山　とみ	ｻｸﾔﾏ ﾄﾐ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	151
作山　とみ	ｻｸﾔﾏ ﾄﾐ	女子低学年学徒退避せよ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	415
櫻井　俊實	ｻｸﾗｲ ﾄｼﾐ	かすかな思い出は「憤り」	(40) 中学校が軍需工場になった	172
佐々　ちゑ	ｻｻ ﾁｴ	白木の箱になにも無く	(９) 本野ヶ原に散りて	64
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	豊川、呉工廠勤務の思い出	(28) 豊川海軍工廠会会誌 第六号	34
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	健康管理の素人談義	(32) 豊川海軍工廠会会誌 第十号	9
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	健康管理の素人談義（続）	(33) 豊川海軍工廠会会誌 第十一号	6
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	素人談義の締めくくり	(34) 豊川海軍工廠会会誌 第十二号	3
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	五十年前の米留学	(35) 豊川海軍工廠会会誌 第十三号	29
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	五〇年前のアメリカ留学（その二）	(37) 豊川海軍工廠会会誌 第十五号	16
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	私の闘病・追憶・老人の記	(38) 豊川海軍工廠会会誌 第十六号	11
笹岡　作五郎	ｻｻｵｶ ｻｸｺﾞﾛｳ	我が闘病のフィナーレは何時か	(39) 豊川海軍工廠会会誌 第十七号	10
笹岡　弘	ｻｻｵｶ ﾋﾛｼ	お便り	(４) こゝにふたゝび第２号	25
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	稲吉道子さんの御遺族を尋ねて	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	225
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	死んでなるものか	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	17
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	生存者の役目として	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	27
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	175
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	稲吉道子さんの御遺族を尋ねて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	495
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	死んでなるものか	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	159
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	シラミと石鹸	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	205
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	神さま！命を二つ与えて	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	58

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	十字架の灯火	（22）豊川海軍工廠の記録	104
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	シラミと石鹸	（４）こゝにふたゝび第２号	58
佐々木　あき	ｻｻｷ ｱｷ	食生活の思い出	（５）こゝにふたゝび第３号	27
佐々木　昭	ｻｻｷ ｱｷﾗ	心の隅に残る悲しい思い出の十ヵ月	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	124
佐々木　昭	ｻｻｷ ｱｷﾗ	心の隅にのこる悲しい思い出の十ヵ月	（３）こゝにふたゝび創刊号	18
佐々木　寛治	ｻｻｷ ｶﾝｼﾞ	研磨盤・夜勤・菁々寮	（40）中学校が軍需工場になった	193
佐々木　五郎	ｻｻｷ ｺﾞﾛｳ	工廠総務部での私の仕事	（18）戦争を知らない世代へ⑯	31
佐々木　重雄	ｻｻｷ ｼｹﾞｵ	完成した水準器を運んだ	（40）中学校が軍需工場になった	308
佐々木　唯男	ｻｻｷ ﾀﾀﾞｵ	夢中だった	（40）中学校が軍需工場になった	97
佐々木　敏夫	ｻｻｷ ﾄｼｵ	白夜の帰宅	（40）中学校が軍需工場になった	242
佐々木　冨喜	ｻｻｷ ﾌｷ	防空壕から掘り出されて	（22）豊川海軍工廠の記録	155
佐々木　芳子	ｻｻｷ ﾖｼｺ	墓を訪れて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	115
佐々木　好茂	ｻｻｷ ﾖｼｼｹﾞ	強烈な想い出は横須賀海軍工廠	（40）中学校が軍需工場になった	392
佐々木　礼子	ｻｻｷ ﾚｲｺ	思い出	（３）こゝにふたゝび創刊号	33
笹田　良子	ｻｻﾀﾞ ﾖｼｺ	涙の枯れるまで泣いた	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	60
佐竹　茂	ｻﾀｹ ｼｹﾞﾙ	私の三年二ヶ月	（11）いまこゝに	33
佐竹　茂	ｻﾀｹ ｼｹﾞﾙ	三十七回忌を迎え	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	115
佐竹　茂	ｻﾀｹ ｼｹﾞﾙ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	175
佐竹　茂	ｻﾀｹ ｼｹﾞﾙ	昨年の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	131
佐竹　茂	ｻﾀｹ ｼｹﾞﾙ	私の三年二ケ月	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	387
佐竹　正志	ｻﾀｹ ﾏｻｼ	頭をやられ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	301
佐竹　正志	ｻﾀｹ ﾏｻｼ	頭をやられ	（９）本野ヶ原に散りて	21
佐藤　いつ子	ｻﾄｳ ｲﾂｺ	箸入れのおかげで	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	61
佐藤　栄作	ｻﾄｳ ｴｲｻｸ	平和の像	（４）こゝにふたゝび第２号	8
佐藤　省吾	ｻﾄｳ ｼｮｳｺﾞ	消息	（５）こゝにふたゝび第３号	39
佐藤　省吾	ｻﾄｳ ｼｮｳｺﾞ	「勝つまでは何もほしがりません」	（７）こゝにふたゝび第５号	19
佐藤　堯子	ｻﾄｳ ﾀｶｺ	あの頃のこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	247
佐藤　敏郎	ｻﾄｳ ﾄｼﾛｳ	昭和二十年八月七日	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	201
佐藤　敏郎	ｻﾄｳ ﾄｼﾛｳ	昭和二十年八月七日	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	480
佐藤　久子	ｻﾄｳ ﾋｻｺ	亡き姉を偲びて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	209
佐藤　久子	ｻﾄｳ ﾋｻｺ	亡き姉を偲びて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	577

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
佐藤　まとも	ｻﾄｳ ﾏﾄﾓ	燃えさかる中を信州へ	（２）胸に穴があいた	136
佐藤　康子	ｻﾄｳ ﾔｽｺ	下駄を履いて寝る	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	62
佐藤　裕	ｻﾄｳ ﾕﾀｶ	豊川での一年余	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	57
佐藤　暢蔵	ｻﾄｳ ﾖｳｿﾞｳ	懐しの七十九寮	（５）こゝにふたゝび第３号	70
佐野　きく	ｻﾉ ｷｸ	機銃隊員として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	305
佐野　たき子	ｻﾉ ﾀｷｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	337
佐野　たき子	ｻﾉ ﾀｷｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	149
佐野　たき子	ｻﾉ ﾀｷｺ	八月七日は忘れません	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	355
佐野　武四	ｻﾉ ﾀｹｼ	豊川海軍工廠被爆の日	（22）豊川海軍工廠の記録	163
佐野　元	ｻﾉ ﾊｼﾞﾒ	凄惨！目をおおう現場	（１）ああ豊川女子挺身隊	214
佐野　元	ｻﾉ ﾊｼﾞﾒ	遺体の処理	（１）ああ豊川女子挺身隊	254
佐野　元	ｻﾉ ﾊｼﾞﾒ	廃墟のなか涙できく	（１）ああ豊川女子挺身隊	274
佐野　善数	ｻﾉ ﾖｼｶｽﾞ	ハンマーを持ちて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	304
佐野　善数	ｻﾉ ﾖｼｶｽﾞ	ハンマーを持ちて	（９）本野ヶ原に散りて	24
佐野　喜久	ｻﾉ ﾖｼﾋｻ	機銃隊員として	（９）本野ヶ原に散りて	24
佐野　わか	ｻﾉ ﾜｶ	「マッチャン」と共に	（９）本野ヶ原に散りて	53
佐羽尾　いち	ｻﾊﾞｵ ｲﾁ	一握りの遺髪	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	193
佐原　安子	ｻﾊﾗ ﾔｽｺ	鼻をつく死の臭い	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	63
沢田　ウタ子	ｻﾜﾀﾞ ｳﾀｺ	川の水が血に染って	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	213
沢田　ウタ子	ｻﾜﾀﾞ ｳﾀｺ	川の水が血に染って	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	487
沢田　敬恒	ｻﾜﾀﾞ ｹｲｺｳ	「また会う日まで」	（８）こゝにふたゝび第６号	56
沢端　すみ子	ｻﾜﾊｼ ｽﾐｺ	「平和な日本」いつまでも	（６）こゝにふたゝび第４号	41
澤柳　喜一	ｻﾜﾔﾅｷﾞ ｷｲﾁ	体験は貴重だった	（40）中学校が軍需工場になった	247
沢柳　チハヱ	ｻﾜﾔﾅｷﾞ ﾁﾊｴ	走馬灯の様に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	245
沢柳　チハヱ	ｻﾜﾔﾅｷﾞ ﾁﾊｴ	廠友からの便り	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	201
塩澤　和光	ｼｵｻﾞﾜ ｶｽﾞﾐﾂ	学校工場の頃と菁々寮の思い出	（40）中学校が軍需工場になった	147
塩澤　喜策	ｼｵｻﾞﾜ ｷｻｸ	旋盤・夜勤の味噌汁	（40）中学校が軍需工場になった	247
塩澤　茂實	ｼｵｻﾞﾜ ｼｹﾞﾐ	”命”に目覚めた日	（40）中学校が軍需工場になった	456
塩澤　達男	ｼｵｻﾞﾜ ﾀﾂｵ	明暗二つの思い出	（40）中学校が軍需工場になった	194
塩澤　夏雄	ｼｵｻﾞﾜ ﾅﾂｵ	東京大空襲・そして学校工場	（40）中学校が軍需工場になった	309
塩野　百合江	ｼｵﾉ ﾕﾘｴ	恐ろしかった長い一日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	64

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
成松　明壽	ｼｹﾞﾏﾂ ｱｷﾋｻ	海軍の光学にまつわる思い出	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	49
篠田　益實	ｼﾉﾀﾞ ﾏｽﾐ	色々なことの中のひとつ	（40）中学校が軍需工場になった	248
柴田　初枝	ｼﾊﾞﾀ ﾊﾂｴ	私の想い出より	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	207
柴田　初枝	ｼﾊﾞﾀ ﾊﾂｴ	私の想い出より	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	483
柴田　祐戒	ｼﾊﾞﾀ ﾕｳｶｲ	仏につかえて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	196
柴山　辰郎	ｼﾊﾞﾔﾏ ﾀﾂﾛｳ	在りし日の青春	（４）こゝにふたゝび第２号	16
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	病父のよめる出動の歌	（１）ああ豊川女子挺身隊	65
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	301
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	豊川女子挺身隊として	（３）こゝにふたゝび創刊号	34
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	あゝ軍歌	（５）こゝにふたゝび第３号	42
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	午前一時までも	（６）こゝにふたゝび第４号	14
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	平和の像仰ぎみて	（６）こゝにふたゝび第４号	49
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	「月日は早いもの」	（７）こゝにふたゝび第５号	68
島　つや子	ｼﾏ ﾂﾔｺ	お礼	（８）こゝにふたゝび第６号	65
島田　たづ子	ｼﾏﾀﾞ ﾀﾂﾞｺ	切断した足の重さ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	243
嶋田　鶴吉	ｼﾏﾀﾞ ﾂﾙｷﾁ	鳥肌の立つあの日の思い出	（18）戦争を知らない世代へ⑯	93
嶋村　末子	ｼﾏﾑﾗ ｽｴｺ	いも畑で見た豊川の黒煙	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	65
清水　和郎	ｼﾐｽﾞ ｶｽﾞﾛｳ	十六歳少年の戦争体験	（40）中学校が軍需工場になった	458
清水　きぬ	ｼﾐｽﾞ ｷﾇ	同年輩の娘を見るにつけ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	300
清水　きぬ	ｼﾐｽﾞ ｷﾇ	同年輩の娘を見るにつけ	（９）本野ヶ原に散りて	21
清水　君枝	ｼﾐｽﾞ ｷﾐｴ	詩　おれの戦後はまだ終わっておらん	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	184
清水　きみ江	ｼﾐｽﾞ ｷﾐｴ	戦火の中の歌声	（19）白紙に消えた青春	82
清水　千吉	ｼﾐｽﾞ ｾﾝｷﾁ	豊川の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	95
清水　孝雄	ｼﾐｽﾞ ﾀｶｵ	六十余年前と今 － 世界平和を希求する	（40）中学校が軍需工場になった	163
清水　孝子	ｼﾐｽﾞ ﾀｶｺ	死よりの生還	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	361
清水　千恵子	ｼﾐｽﾞ ﾁｴｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	171
清水　泰ニ	ｼﾐｽﾞ ﾔｽｼﾞ	石川県女子挺身隊殉難者にささげる挽歌	（32）豊川海軍工廠会会誌 第十号	1
清水　百合子	ｼﾐｽﾞ ﾕﾘｺ	姉の生まれ変わり	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	231
清水　礼子	ｼﾐｽﾞ ﾚｲｺ	あゝ豊川工廠	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	10
清水　礼子	ｼﾐｽﾞ ﾚｲｺ	本野ヶ原に眠る友に捧ぐ	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	73
清水　礼子	ｼﾐｽﾞ ﾚｲｺ	あゝ豊川海軍工廠	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	319

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
志村　秀造	ｼﾑﾗ ｼｭｳｿﾞｳ	海軍技術浜名会のことども	（35）豊川海軍工廠会会誌 第十三号	8
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	四囲の反対をおし切って	（１）ああ豊川女子挺身隊	48
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	和田工手とのつながり	（１）ああ豊川女子挺身隊	82
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	第十二女子寄宿舎	（１）ああ豊川女子挺身隊	97
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	107
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	長谷川久子先生のこと	（１）ああ豊川女子挺身隊	109
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	カネの茶碗に竹の箸	（１）ああ豊川女子挺身隊	132
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	154
示野　喜代子	ｼﾒﾉ ｷﾖｺ	空中戦と最初の爆弾	（１）ああ豊川女子挺身隊	172
下田　豊	ｼﾓﾀﾞ ﾕﾀｶ	睡魔とあの味	（40）中学校が軍需工場になった	332
下原　恒男	ｼﾓﾊﾗ ﾂﾈｵ	初期菁々寮生活	（40）中学校が軍需工場になった	487
下原　恒男	ｼﾓﾊﾗ ﾂﾈｵ	中学二年生の学校工場	（40）中学校が軍需工場になった	248
白井　英太郎	ｼﾗｲ ｴｲﾀﾛｳ	天皇陛下の為に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	295
白井　英太郎	ｼﾗｲ ｴｲﾀﾛｳ	天皇陛下の為に	（９）本野ヶ原に散りて	15
白井　幸子	ｼﾗｲ ｻﾁｺ	自分の事だけで精一杯だった	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	147
白井　三四	ｼﾗｲ ｻﾝｼﾞ	憎むべき戦争	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	227
白井　志げ子	ｼﾗｲ ｼｹﾞｺ	死の恐怖	（18）戦争を知らない世代へ⑯	197
白井　茂子	ｼﾗｲ ｼｹﾞｺ	泣き叫んだあの日	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	66
白井　たへ	ｼﾗｲ ﾀﾍ	紺碧の空にＢ29が	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	148
白井　敏雄	ｼﾗｲ ﾄｼｵ	西門外へ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	253
白井　敏雄	ｼﾗｲ ﾄｼｵ	西門外へ	（８）こゝにふたゝび第６号	24
白井　久大	ｼﾗｲ ﾋｻﾏｻ	親父は知っていた	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	23
白井　文子	ｼﾗｲ ﾌﾐｺ	両親の戦争中の体験	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	57
白井　婦美子	ｼﾗｲ ﾌﾐｺ	「四人の幼児をかかえて」	（８）こゝにふたゝび第６号	31
白井　婦美子	ｼﾗｲ ﾌﾐｺ	腸を押えて	（９）本野ヶ原に散りて	55
白井　正子	ｼﾗｲ ﾏｻｺ	孤独感に耐えぬく	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	67
白峰　月江	ｼﾗﾐﾈ ﾂｷｴ	年少工の手を引いて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	216
白山　久	ｼﾛﾔﾏ ﾋｻｼ	思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	88
白山　久	ｼﾛﾔﾏ ﾋｻｼ	故郷の山川	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	105
白山　久	ｼﾛﾔﾏ ﾋｻｼ	思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	446
新川　はつ子	ｼﾝｶﾜ ﾊﾂｺ	爆風に吹き飛ばされて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	175

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
神道　敏子	ｼﾞﾝﾄﾞｳ ﾄｼｺ	甘い夢を打ち砕かれて	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	68
新保　金枝	ｼﾝﾎﾟ ｶﾈｴ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	182
末沢　尚子	ｽｴｻﾞﾜ ﾅｵｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	70
末沢　尚子	ｽｴｻﾞﾜ ﾅｵｺ	大雪で駅前旅館に仮泊	（１）ああ豊川女子挺身隊	84
末沢　尚子	ｽｴｻﾞﾜ ﾅｵｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	195
末沢　尚子	ｽｴｻﾞﾜ ﾅｵｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	247
末永　ふじ	ｽｴﾅｶﾞ ﾌｼﾞ	「子等に語りつつ」	(11) いまこゝに	167
末永　ふじ	ｽｴﾅｶﾞ ﾌｼﾞ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	139
菅沼　恵美子	ｽｶﾞﾇﾏ ｴﾐｺ	帰らざる妹・山本章子	(16) 嗚呼豊川海軍工廠第14号	88
菅沼　恵美子	ｽｶﾞﾇﾏ ｴﾐｺ	帰らざる妹・山本幸子	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	638
菅沼　恵美子	ｽｶﾞﾇﾏ ｴﾐｺ	帰らざる妹	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	227
菅沼　恵美子	ｽｶﾞﾇﾏ ｴﾐｺ	帰らざる妹	(19) 白紙に消えた青春	145
菅原　敏和	ｽｶﾞﾜﾗ ﾄｼｶｽﾞ	歯切盤に取り組む	(40) 中学校が軍需工場になった	287
菅原　敏和	ｽｶﾞﾜﾗ ﾄｼｶｽﾞ	神風など吹かなかった	(40) 中学校が軍需工場になった	492
菅原　敏和	ｽｶﾞﾜﾗ ﾄｼｶｽﾞ	教訓	(40) 中学校が軍需工場になった	494
杉	ｽｷﾞ	命あってのもの種	（６）こゝにふたゝび第４号	6
杉　栄	ｽｷﾞ ｻｶｴ	豊川まんだら	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	235
杉　栄	ｽｷﾞ ｻｶｴ	「備忘録」より	（６）こゝにふたゝび第４号	82
杉　栄	ｽｷﾞ ｻｶｴ	「一筆御礼」	（７）こゝにふたゝび第５号	72
杉　栄	ｽｷﾞ ｻｶｴ	豊川まんだら	（８）こゝにふたゝび第６号	14
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	欅の大樹の下で	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	16
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	欅の大樹の下で	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	322
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	豊川まんだら	（６）こゝにふたゝび第４号	84
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	「豊川まんだら」	（７）こゝにふたゝび第５号	38
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	「長歌」長恨	（８）こゝにふたゝび第６号	11
杉　倭文生	ｽｷﾞ ｼﾂﾞｵ	献句	（８）こゝにふたゝび第６号	20
杉浦　孔子	ｽｷﾞｳﾗ ｺｳｺ	姉をしのび	（９）本野ヶ原に散りて	7
杉浦　昶子	ｽｷﾞｳﾗ ﾁｮｳｺ	思い出のままに	(11) いまこゝに	86
杉浦　由枝	ｽｷﾞｳﾗ ﾖｼｴ	亡き恩人をしのびて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	210
杉浦　由枝	ｽｷﾞｳﾗ ﾖｼｴ	「亡き恩人を忍びて」	（４）こゝにふたゝび第２号	100
杉浦　由枝	ｽｷﾞｳﾗ ﾖｼｴ	お線香でも	（５）こゝにふたゝび第３号	49

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
杉浦　良香	ｽｷﾞｳﾗ ﾖｼｶ	トマトも食べずに	（９）本野ヶ原に散りて	56
杉浦　ヨネ	ｽｷﾞｳﾗ ﾖﾈ	言葉にならぬ恐怖	（22）豊川海軍工廠の記録	160
鋤柄　邦三郎	ｽｷｶﾞﾗ ｸﾆｻﾌﾞﾛｳ	命の歌	（22）豊川海軍工廠の記録	177
杉沢　かず江	ｽｷﾞｻﾜ ｶｽﾞｴ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	161
杉田　さかゑ	ｽｷﾞﾀ ｻｶｴ	遺体をさすり	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	307
杉田　さかゑ	ｽｷﾞﾀ ｻｶｴ	遺体をさする	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	195
杉田　さかゑ	ｽｷﾞﾀ ｻｶｴ	遺体をさすり	（９）本野ヶ原に散りて	27
杉田　久子	ｽｷﾞﾀ ﾋｻｺ	ごめんなさいね政子さん	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	228
杉田　まさ枝	ｽｷﾞﾀ ﾏｻｴ	「友情の便り」（念願かないて）	（７）こゝにふたゝび第５号	52
杉野　ひさ子	ｽｷﾞﾉ ﾋｻｺ	セピア色の写真	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	285
杉原　栄子	ｽｷﾞﾊﾗ ｴｲｺ	目の見える限り絵筆を	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	149
杉原　千恵子	ｽｷﾞﾊﾗ ﾁｴｺ	「母を呼び続け」	（11）いまこゝに	75
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	妹美代子に捧ぐ	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	90
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	146
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	思い新たに	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	96
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	158
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	墓碑銘	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	99
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	永久に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	171
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	文集墓前に	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	207
杉原　登き代	ｽｷﾞﾊﾗ ﾄｷﾖ	鎮魂	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	81
杉本　広雄	ｽｷﾞﾓﾄ ﾋﾛｵ	白木の箱で迎えた妹	（１）ああ豊川女子挺身隊	327
杉本　広雄	ｽｷﾞﾓﾄ ﾋﾛｵ	仏壇に妹の骨箱が	（２）胸に穴があいた	206
杉山　幸代	ｽｷﾞﾔﾏ ｻﾁﾖ	矢島信子さんのこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	68
杉山　幸代	ｽｷﾞﾔﾏ ｻﾁﾖ	応援組と交替して	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	155
杉山　しか	ｽｷﾞﾔﾏ ｼｶ	運命	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	70
杉山　しか	ｽｷﾞﾔﾏ ｼｶ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	346
杉山　しか	ｽｷﾞﾔﾏ ｼｶ	女子挺身隊として	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	55
杉山　しか	ｽｷﾞﾔﾏ ｼｶ	女子挺身隊として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	523
杉山　千佐子	ｽｷﾞﾔﾏ ﾁｻｺ	「告」	（６）こゝにふたゝび第４号	94
杉山　泰子	ｽｷﾞﾔﾏ ﾔｽｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	171
洲崎　澄子	ｽｻﾞｷ ｽﾐｺ	誓いを新たに	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	227

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
鈴川　きん	ｽｽﾞｶﾜ ｷﾝ	冬服を着て	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	306
鈴川　きん	ｽｽﾞｶﾜ ｷﾝ	冬服を着て	（９）本野ヶ原に散りて	25
鈴木　あや	ｽｽﾞｷ ｱﾔ	「慰め合い・助け合って」	（11）いまこゝに	113
鈴木　あや	ｽｽﾞｷ ｱﾔ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	343
鈴木　あや	ｽｽﾞｷ ｱﾔ	慰め合い助け合って	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	421
鈴木　栄吉	ｽｽﾞｷ ｴｲｷﾁ	八月七日豊川市役所で	（22）豊川海軍工廠の記録	170
鈴木　栄太郎	ｽｽﾞｷ ｴｲﾀﾛｳ	死出の晴着	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	58
鈴木　栄太郎	ｽｽﾞｷ ｴｲﾀﾛｳ	死出の晴れ着	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	347
鈴木　和子	ｽｽﾞｷ ｶｽﾞｺ	夢で見た光景	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	166
鈴木　かづ	ｽｽﾞｷ ｶﾂﾞ	無惨な光景に知る戦争の恐怖	（18）戦争を知らない世代へ⑯	130
鈴木　きくの	ｽｽﾞｷ ｷｸﾉ	ラジオが落ちて	（９）本野ヶ原に散りて	46
鈴木　きせ子	ｽｽﾞｷ ｷｾｺ	過ぎた日の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	60
鈴木　きせ子	ｽｽﾞｷ ｷｾｺ	過ぎた日の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	524
鈴木　京子	ｽｽﾞｷ ｷｮｳｺ	忘れられない死体の感触	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	69
鈴木　京子	ｽｽﾞｷ ｷｮｳｺ	結婚一年半後には	（９）本野ヶ原に散りて	39
鈴木　健司	ｽｽﾞｷ ｹﾝｼﾞ	製品は来なかった	（40）中学校が軍需工場になった	127
鈴木　小春	ｽｽﾞｷ ｺﾊﾙ	豊川を去りて	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	63
鈴木　小春	ｽｽﾞｷ ｺﾊﾙ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	157
鈴木　小松	ｽｽﾞｷ ｺﾏﾂ	母の一言	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	151
鈴木　幸代	ｽｽﾞｷ ｻﾁﾖ	空襲体験があるから……	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	152
鈴木　治市	ｽｽﾞｷ ｼﾞｲﾁ	今は幸せ	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	56
鈴木　茂之	ｽｽﾞｷ ｼｹﾞﾕｷ	小柄な工員がいた	（40）中学校が軍需工場になった	126
鈴木　鎮男	ｽｽﾞｷ ｼｽﾞｵ	あの日の追憶	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	274
鈴木　節子	ｽｽﾞｷ ｾﾂｺ	生と死の境を生きて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	70
鈴木　せつ子	ｽｽﾞｷ ｾﾂｺ	看護の道に入って	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	153
鈴木　孝雄	ｽｽﾞｷ ﾀｶｵ	母と日の丸	（11）いまこゝに	52
鈴木　孝雄	ｽｽﾞｷ ﾀｶｵ	母と日の丸	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	642
鈴木　貴雄	ｽｽﾞｷ ﾀｶｵ	私の小歴うしろ影	（22）豊川海軍工廠の記録	161
鈴木　たず	ｽｽﾞｷ ﾀｽﾞ	体験させたくない苦しみ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	154
鈴木　辰男	ｽｽﾞｷ ﾀﾂｵ	第二の誕生日、八月七日	（18）戦争を知らない世代へ⑯	143
鈴木　千代子	ｽｽﾞｷ ﾁﾖｺ	伊藤たづ子さんを偲びて	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	65

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
鈴木　従道	ｽｽﾞｷﾂｸﾞﾐﾁ	戦時中の中学生	（40）中学校が軍需工場になった	333
鈴木　従道	ｽｽﾞｷﾂｸﾞﾐﾁ	追憶…旧制飯田中学	（40）中学校が軍需工場になった	495
鈴木　従道	ｽｽﾞｷﾂｸﾞﾐﾁ	旧制中学哀歌	（40）中学校が軍需工場になった	497
鈴木　照蔵	ｽｽﾞｷﾃﾙｿﾞｳ	友情は有形無形の財産	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	178
鈴木　照蔵	ｽｽﾞｷﾃﾙｿﾞｳ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	340
鈴木　照蔵	ｽｽﾞｷﾃﾙｿﾞｳ	新聞を拝見して	（５）こゝにふたゝび第３号	54
鈴木　輝政	ｽｽﾞｷﾃﾙﾏｻ	トマト買い出しの思い出	（11）いまこゝに	45
鈴木　輝政	ｽｽﾞｷﾃﾙﾏｻ	八月七日の思い出	（11）いまこゝに	63
鈴木　輝政	ｽｽﾞｷﾃﾙﾏｻ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	152
鈴木　輝政	ｽｽﾞｷﾃﾙﾏｻ	八月七日の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	397
鈴木　とし	ｽｽﾞｷﾄｼ	担架にて	（９）本野ヶ原に散りて	51
鈴木　とみ	ｽｽﾞｷﾄﾐ	思い出の年となりて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	82
鈴木　とめ	ｽｽﾞｷﾄﾒ	祈り	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	54
鈴木　とめ	ｽｽﾞｷﾄﾒ	三十三回忌を前にして	（９）本野ヶ原に散りて	62
鈴木　寿枝	ｽｽﾞｷﾋｻｴ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	159
鈴木　房子	ｽｽﾞｷﾌｻｺ	今は療養の身だけど	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	155
鈴木　藤雄	ｽｽﾞｷﾌｼﾞｵ	勉強以外の明け暮れ	（40）中学校が軍需工場になった	333
鈴木　藤雄	ｽｽﾞｷﾌｼﾞｵ	酷かった空爆跡	（40）中学校が軍需工場になった	373
鈴木　昌子	ｽｽﾞｷﾏｻｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	9
鈴木　道江	ｽｽﾞｷﾐﾁｴ	生きている喜び	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	71
鈴木　みつ	ｽｽﾞｷﾐﾂ	血痕の土を	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	302
鈴木　みつ	ｽｽﾞｷﾐﾂ	血痕の土を	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	196
鈴木　みつ	ｽｽﾞｷﾐﾂ	血魂の土を	（９）本野ヶ原に散りて	22
鈴木　美保子	ｽｽﾞｷﾐﾎｺ	散ったわが友	（18）戦争を知らない世代へ⑯	68
鈴木　三代子	ｽｽﾞｷﾐﾖｺ	防空頭巾をかむり	（９）本野ヶ原に散りて	54
鈴木　保子	ｽｽﾞｷﾔｽｺ	机の上に花一輪	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	143
鈴木　保子	ｽｽﾞｷﾔｽｺ	机の上に花一輪	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	454
鈴木　保子	ｽｽﾞｷﾔｽｺ	娘を待つ母の姿	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	72
鈴木　幸夫	ｽｽﾞｷﾕｷｵ	寒気全身にしみて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	230
鈴木　良作	ｽｽﾞｷﾘｮｳｻｸ	サラバ豊川愚連隊	（11）いまこゝに	177
鈴木　良作	ｽｽﾞｷﾘｮｳｻｸ	過ぎた日々は懐かし	（11）いまこゝに	182

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
鈴木　良作	ｽｽﾞｷ ﾘｮｳｻｸ	嗚呼　豊川海軍工廠	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	270
鈴木　良作	ｽｽﾞｷ ﾘｮｳｻｸ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	317
鈴木　良作	ｽｽﾞｷ ﾘｮｳｻｸ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	155
鈴木　良作	ｽｽﾞｷ ﾘｮｳｻｸ	嗚呼　豊川海軍工廠	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	510
鈴木　玲子	ｽｽﾞｷ ﾚｲｺ	うたかたの国「満州」	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	403
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	三十五回忌	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	158
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	147
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	172
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	私の豊川	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	402
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	思いつづけた豊川の土を踏んで	(5) こゝにふたゝび第３号	66
鈴村　つじ	ｽｽﾞﾑﾗ ﾂｼﾞ	私の豊川	(11) いまこゝに	77
鈴村　フジ子	ｽｽﾞﾑﾗ ﾌｼﾞｺ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	339
鈴村　玲子	ｽｽﾞﾑﾗ ﾚｲｺ	神の御力、仏のお助け	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	222
鈴村　玲子	ｽｽﾞﾑﾗ ﾚｲｺ	死の淵をのがれて	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	555
須藤　彦蔵	ｽﾄﾞｳ ﾋｺｿﾞｳ	一ケ月前に豊川を離れて	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	126
隅田　すず	ｽﾐﾀﾞ ｽｽﾞ	この幸せを感謝したい	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	156
角谷　文石	ｽﾐﾔ ﾌﾐｲｼ	御礼	(8) こゝにふたゝび第６号	58
陶山　幸子	ｽﾔﾏ ｻﾁｺ	花を育てる	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	163
陶山　すま子	ｽﾔﾏ ｽﾏｺ	爆撃の震動で安定感を失う	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	81
諏訪部　一子	ｽﾜﾍﾞ ｶｽﾞｺ	静かに黙とう	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	74
瀬上　妙子	ｾｶﾞﾐ ﾀｴｺ	暗黒の青春	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	75
関　 久代	ｾｷ ﾋｻﾖ	当時の十代にもどりて	(5) こゝにふたゝび第３号	57
関　作平	ｾｷ ｻｸﾍｲ	品川駅を後にして	(4) こゝにふたゝび第２号	59
関　久代	ｾｷ ﾋｻﾖ	お便り	(4) こゝにふたゝび第２号	66
関　久代	ｾｷ ﾋｻﾖ	タイムトラベルの如く	(5) こゝにふたゝび第３号	15
関口　綾子	ｾｷｸﾞﾁ ｱﾔｺ	今も残る傷跡	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	158
関口　くに江	ｾｷｸﾞﾁ ｸﾆｴ	看護精神	(2) 胸に穴があいた	163
関島　利次	ｾｷｼﾏ ﾄｼﾂｸﾞ	大戦時の思い出と学校工場	(40) 中学校が軍需工場になった	250
関島　博実	ｾｷｼﾏ ﾋﾛﾐ	九項目の記憶	(40) 中学校が軍需工場になった	157
関戸　正巳	ｾｷﾄﾞ ﾏｻﾐ	将棋倒し五百人	(2) 胸に穴があいた	145
関野　妙子	ｾｷﾉ ﾀｴｺ	廠友からの便り	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	323
仙石　彰	ｾﾝｺﾞｸ ｱｷﾗ	辛かった。辛くなかった。	(40) 中学校が軍需工場になった	97

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
千田　静子	ｾﾝﾀﾞ ｼｽﾞｺ	たのしい演芸会	（１）ああ豊川女子挺身隊	124
千田　静子	ｾﾝﾀﾞ ｼｽﾞｺ	一瞬吹っ飛んだ91寮	（１）ああ豊川女子挺身隊	240
千田　静子	ｾﾝﾀﾞ ｼｽﾞｺ	戦争は神への反逆	（１）ああ豊川女子挺身隊	267
曾田　安之助	ｿﾀﾞ ﾔｽﾉｽｹ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	138
曽田　よし	ｿﾀﾞ ﾖｼ	時計が今も	（９）本野ヶ原に散りて	50
染葉　勝平	ｿﾒﾊ ｼｮｳﾍｲ	記憶をたどって	（６）こゝにふたゝび第４号	5
染葉　勝平	ｿﾒﾊ ｼｮｳﾍｲ	突然のお便りありがとう	（６）こゝにふたゝび第４号	28
大光寺　正行	ﾀﾞｲｺｳｼﾞ ﾏｻﾕｷ	豊川工廠被爆体験記	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	102
大光寺　正行	ﾀﾞｲｺｳｼﾞ ﾏｻﾕｷ	豊川工廠被爆体験記	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	640
第四機銃一工員	ﾀﾞｲﾖﾝｷｼﾞｭｳｲﾁｺｳｲﾝ	亡き近藤太郎左衛門君の冥福を祈りて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	79
第四機銃一工員	ﾀﾞｲﾖﾝｷｼﾞｭｳｲﾁｺｳｲﾝ	亡き近藤太郎左衛門君の冥福を祈りて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	538
第四機銃一工員	ﾀﾞｲﾖﾝｷｼﾞｭｳｲﾁｺｳｲﾝ	母と日の丸	（３）こゝにふたゝび創刊号	31
高井　薫	ﾀｶｲ ｶｵﾙ	神さまになったくに子	（１）ああ豊川女子挺身隊	324
高木　文英	ﾀｶｷﾞ ﾌﾐｴ	爪のない手や足	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	206
高木　良吉	ﾀｶｷﾞ ﾘｮｳｷﾁ	徴用工員の思い出	（11）いまこゝに	99
高木　良吉	ﾀｶｷﾞ ﾘｮｳｷﾁ	徴用工として	（４）こゝにふたゝび第２号	96
高根　康夫	ﾀｶﾈ ﾔｽｵ	高い精度が要求された旋盤操作	（40）中学校が軍需工場になった	252
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	散り行く桜花の如く	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	48
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	若き日の思い出	（11）いまこゝに	111
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	指揮命令も爆音に消えて	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	96
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	思い出は遠く豊川に	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	255
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	流れる雲と共に	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	74
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	169
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	本野ケ原上空に雲一つなく	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	197
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	桜花爛漫の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	93
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	被爆遺児を養女に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	343
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	指揮命令も爆音に消えて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	218
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	戦死者に後髪を引かれて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	124
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	懐しき雑感	（４）こゝにふたゝび第２号	41
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	指揮命令も爆音に消えて	（５）こゝにふたゝび第３号	17
高橋　正	ﾀｶﾊｼ ﾀﾀﾞｼ	「帰郷」	（７）こゝにふたゝび第５号	11

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
高部　千枝子	ﾀｶﾍﾞ ﾁｴｺ	防空壕が聞いていた遺言	（19）白紙に消えた青春	164
高間　新治	ﾀｶﾏ ｼﾝｼﾞ	故「和夫」	（11）いまこゝに	74
高間　新治	ﾀｶﾏ ｼﾝｼﾞ	実弟　高間和夫の思い出	（12）鳴呼豊川海軍工廠最終号（10号）	137
高間　新治	ﾀｶﾏ ｼﾝｼﾞ	英霊よ安かれと祈る	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	122
高間　新治	ﾀｶﾏ ｼﾝｼﾞ	弟「和夫」の霊の引き合わせ	（14）鳴呼豊川海軍工廠第12号	120
高間　新治	ﾀｶﾏ ｼﾝｼﾞ	和夫	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	400
高松　よし子	ﾀｶﾏﾂ ﾖｼｺ	耳の底から離れない声	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	303
高宮　正志	ﾀｶﾐﾔ ﾏｻｼ	廠友からの便り	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	163
高柳　みつ子	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ﾐﾂｺ	悲惨な被爆	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	374
滝上　逸司	ﾀｷｶﾞﾐ ｲﾂｼﾞ	研磨の仕事	（40）中学校が軍需工場になった	257
滝川　玉枝	ﾀｷｶﾞﾜ ﾀﾏｴ	豊川の思い出も新たに	（６）こゝにふたゝび第４号	15
龍口　篤夫	ﾀｷｸﾞﾁ ｱﾂｵ	役に立つのかと	（40）中学校が軍需工場になった	258
滝沢　たかの	ﾀｷｻﾞﾜ ﾀｶﾉ	鈴木百々ちゃんを偲んで	（２）胸に穴があいた	172
滝沢　ちづ子	ﾀｷｻﾞﾜ ﾁﾂﾞｺ	睡魔との斗い	（２）胸に穴があいた	79
滝沢　ふさえ	ﾀｷｻﾞﾜ ﾌｻｴ	生きのびて	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	22
滝沢　ふさ江	ﾀｷｻﾞﾜ ﾌｻｴ	被爆下に生きて	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	213
滝沢　ふさ江	ﾀｷｻﾞﾜ ﾌｻｴ	被爆下に生きて	（４）こゝにふたゝび第２号	102
滝本　慈眞	ﾀｷﾓﾄ ｼｹﾞﾏｻ	戦中戦後を思う	（40）中学校が軍需工場になった	499
田口　行男	ﾀｸﾞﾁ ﾕｷｵ	豊廠初被爆五月十九日の証言	（36）豊川海軍工廠会会誌 第十四号	4
竹内　淳	ﾀｹｳﾁ ｱﾂｼ	あゝ！豊川海軍工廠「女子挺身隊」	（16）鳴呼豊川海軍工廠第14号	190
竹内　淳	ﾀｹｳﾁ ｱﾂｼ	女子挺身隊	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	591
竹内　君太郎	ﾀｹｳﾁ ｷﾐﾀﾛｳ	みたまよ安らかに	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	15
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	御霊よ安らかに	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	72
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	今夏三十三回忌	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	84
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	「疎開のおかげで」	（11）いまこゝに	102
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	未だ口づさむ工廠歌	（12）鳴呼豊川海軍工廠最終号（10号）	81
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	廠友からの便り	（12）鳴呼豊川海軍工廠最終号（10号）	322
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	廠友からの便り	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	148
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	今夏三十三回忌	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	361
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	「気の静まる思いです」	（７）こゝにふたゝび第５号	66
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	すぎにし思い出を	（８）こゝにふたゝび第６号	5

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
竹内　幸子	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ	御礼	（８）こゝにふたゝび第６号	59
竹内　昭治	ﾀｹｳﾁ ｼｮｳｼﾞ	思い出	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	40
竹内　昭治	ﾀｹｳﾁ ｼｮｳｼﾞ	夜のふけるのも忘れ	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	217
竹内　昭治	ﾀｹｳﾁ ｼｮｳｼﾞ	心のふるさと「豊川」	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	98
竹内　末吉	ﾀｹｳﾁ ｽｴｷﾁ	娘はどこへ行った	（18）戦争を知らない世代へ⑯	169
竹内　孝	ﾀｹｳﾁ ﾀｶｼ	日本人・・その現在と未来	（23）豊火の会会誌 第一号	19
竹内　たつ子	ﾀｹｳﾁ ﾀﾂｺ	殴打	（２）胸に穴があいた	82
竹内　たつ子	ﾀｹｳﾁ ﾀﾂｺ	指導的役割を果たした青年隊	（２）胸に穴があいた	85
竹内　輝子	ﾀｹｳﾁ ﾃﾙｺ	戦争はまだ私の身体に	（19）白紙に消えた青春	230
竹内　文子	ﾀｹｳﾁ ﾌﾐｺ	同級生の死を痛みて	（６）こゝにふたゝび第４号	30
竹下　しづ	ﾀｹｼﾀ ｼﾂﾞ	忘れ得ぬ「トマト」の味	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	37
武田　昭子	ﾀｹﾀﾞ ｱｷｺ	血判の嘆願書	（２）胸に穴があいた	72
武田　昭子	ﾀｹﾀﾞ ｱｷｺ	隊長として	（２）胸に穴があいた	94
武田　昭子	ﾀｹﾀﾞ ｱｷｺ	工場疎開	（２）胸に穴があいた	131
武田　昭子	ﾀｹﾀﾞ ｱｷｺ	帰郷	（２）胸に穴があいた	163
武田　昭子	ﾀｹﾀﾞ ｱｷｺ	二人の男の子の母として	（２）胸に穴があいた	221
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	初爆撃は昭和20年２月だった	（22）豊川海軍工廠の記録	133
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	我が青春の豊川海軍工廠	（22）豊川海軍工廠の記録	136
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	戦後、私と豊川海軍工廠との様々な出逢い	（35）豊川海軍工廠会会誌 第十三号	3
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	豊川海軍工廠の初被爆は昭和二〇年二月中旬だった	（35）豊川海軍工廠会会誌 第十三号	20
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	豊川海軍工廠の初被爆は昭和二〇年二月中旬だった（その三）	（36）豊川海軍工廠会会誌 第十四号	16
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	想い出すことども　慶応義塾高等部最後の卒業生	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	51
武田　彰	ﾀｹﾀﾞ ｱｷﾗ	わが学友佐々木信次海軍少尉は海防艦の甲板士官・砲術士だった	（39）豊川海軍工廠会会誌 第十七号	19
武田　忠克	ﾀｹﾀﾞ ﾀﾀﾞｶﾂ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	144
武田　忠克	ﾀｹﾀﾞ ﾀﾀﾞｶﾂ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	175
竹田　富美	ﾀｹﾀﾞ ﾌﾐ	あさぶら	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	337
竹中　省三	ﾀｹﾅｶ ｼｮｳｿﾞｳ	私の豊川時代	（22）豊川海軍工廠の記録	137
竹松　信子	ﾀｹﾏﾂ ﾉﾌﾞｺ	私は農場で働いた	（１）ああ豊川女子挺身隊	160
竹松　信子	ﾀｹﾏﾂ ﾉﾌﾞｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	242
武村　梅子	ﾀｹﾑﾗ ｳﾒｺ	まだ恐怖の夢を見る	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	76
竹村　宗夫	ﾀｹﾑﾗ ﾑﾈｵ	にぎりめしの味	（40）中学校が軍需工場になった	382

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
竹本　しづ	ﾀｹﾓﾄ ｼﾂﾞ	忘れ得ぬトマトの味	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	332
田鹿　新治郎	ﾀｼﾞｶ ｼﾝｼﾞﾛｳ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	153
田島　勝二	ﾀｼﾞﾏ ｶﾂｼﾞ	「懐かしの味さつまいも」	（７）こゝにふたゝび第５号	53
忠内　さき子	ﾀﾀﾞｳﾁ ｻｷｺ	疎開先で知った先生や友の死	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	160
橘　栄禄	ﾀﾁﾊﾞﾅ ｴｲﾛｸ	八尺旋盤で削ったエボナイト	（40）中学校が軍需工場になった	253
田中　和	ﾀﾅｶ ｶｽﾞ	フライス盤・分工場	（40）中学校が軍需工場になった	196
田中　克義	ﾀﾅｶ ｶﾂﾖｼ	若き日の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	95
田中　廣吉	ﾀﾅｶ ｺｳｷﾁ	光学部と光学硝子	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	42
田中　せつ	ﾀﾅｶ ｾﾂ	豊川海軍工廠空襲の日のこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	351
田中　砌子	ﾀﾅｶ ｾﾂｺ	動員学徒との冒険	（１）ああ豊川女子挺身隊	137
田中　忠	ﾀﾅｶ ﾀﾀﾞｼ	豊川海軍工廠の思い出	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	53
田中　辰治	ﾀﾅｶ ﾀﾂｼﾞ	その時私は	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	105
田中　東伍	ﾀﾅｶ ﾄｳｺﾞ	耐寒から始まった動員	（40）中学校が軍需工場になった	421
田中　はる	ﾀﾅｶ ﾊﾙ	豊川の赤い夜空	（18）戦争を知らない世代へ⑯	174
田中　まさゑ	ﾀﾅｶ ﾏｻｴ	体は真二つに	（９）本野ヶ原に散りて	56
田中　義信	ﾀﾅｶ ﾖｼﾉﾌﾞ	３／10の大空襲後に	（40）中学校が軍需工場になった	428
田中　令子	ﾀﾅｶ ﾚｲｺ	運命の日	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	168
棚田　芳雄	ﾀﾅﾀﾞ ﾖｼｵ	土空の思い出－消えた土浦航空隊	（40）中学校が軍需工場になった	466
田辺　きみ	ﾀﾅﾍﾞ ｷﾐ	昨日の如くに	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	308
田辺　きみ	ﾀﾅﾍﾞ ｷﾐ	昨日の如くに	（９）本野ヶ原に散りて	28
谷内　あい子	ﾀﾆｳﾁ ｱｲｺ	きな粉もちの思い出	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	77
谷野　とし江	ﾀﾆﾉ ﾄｼｴ	夏の日	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	199
田端　あさ子	ﾀﾊﾞﾀ ｱｻｺ	無我夢中	（９）本野ヶ原に散りて	36
田畑　美和子	ﾀﾊﾞﾀ ﾐﾜｺ	〝めぐり逢い〟	（11）いまこゝに	91
田畑　美和子	ﾀﾊﾞﾀ ﾐﾜｺ	「忘れ得ぬ人々」思い出のままに	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	262
田畑　美和子	ﾀﾊﾞﾀ ﾐﾜｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	136
田畑　美和子	ﾀﾊﾞﾀ ﾐﾜｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	158
田畑　美和子	ﾀﾊﾞﾀ ﾐﾜｺ	宝ものとして	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	112
田原　きみ子	ﾀﾊﾗ ｷﾐｺ	壕に入れず助かった	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	78
田原　みほ	ﾀﾊﾗ ﾐﾎ	全員防空壕で運命を共に	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	102
玉井　晋	ﾀﾏｲ ｽｽﾑ	俺が死なずに	（22）豊川海軍工廠の記録	122

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
玉井　晋	ﾀﾏｲ ｽｽﾑ	罰直	（22）豊川海軍工廠の記録	145
田村　綜	ﾀﾑﾗ ｿｳ	松本市での法要	（５）こゝにふたゝび第３号	33
田村　綜	ﾀﾑﾗ ｿｳ	まぶたに浮かびし松林	（６）こゝにふたゝび第４号	25
田村　とし子	ﾀﾑﾗ ﾄｼｺ	帰らぬ友がまぶたに浮かぶ	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	79
千草　美代子	ﾁｸﾞｻ ﾐﾖｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	172
知見寺　作男	ﾁｹﾝｼﾞ ｻｸｵ	豊川の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	176
千葉　艶子	ﾁﾊﾞ ﾂﾔｺ	市役所前に積み上げられた死体	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	205
塚平　信彦	ﾂｶﾋﾗ ﾉﾌﾞﾋｺ	他校での動員・豊川の惨状・母校への伝令	（40）中学校が軍需工場になった	501
辻　豊次	ﾂｼﾞ ﾄﾖｼﾞ	編集者の記録 悲願みのる日まで	（１）ああ豊川女子挺身隊	375
土田　綾子	ﾂﾁﾀﾞ ｱﾔｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	69
土田　シズヱ	ﾂﾁﾀﾞ ｼｽﾞｴ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	327
土田　シズヱ	ﾂﾁﾀﾞ ｼｽﾞｴ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	134
土屋　勇夫	ﾂﾁﾔ ｲｻｵ	生まれ変わりの世代	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	232
土屋　俊夫	ﾂﾁﾔ ﾄｼｵ	奈良航空隊から大浦突撃隊へ	（40）中学校が軍需工場になった	475
筒井　隆	ﾂﾂｲ ﾀｶｼ	都立中学から第一仕上班・甲班へ	（40）中学校が軍需工場になった	99
都築　ちゑ	ﾂﾂﾞｷ ﾁｴ	学徒として行ったのに	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	59
都築　ちゑ	ﾂﾂﾞｷ ﾁｴ	学徒として行ったのに	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	349
堤　ナラヱ	ﾂﾂﾐ ﾅﾗｴ	亡き主人を偲びて豊川の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	87
堤　ナラヱ	ﾂﾂﾐ ﾅﾗｴ	亡き夫をしのんで	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	445
角田　春雄	ﾂﾉﾀﾞ ﾊﾙｵ	豊川海軍工廠殉国学徒観音供養について	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	199
鶴田　雅彦	ﾂﾙﾀ ﾏｻﾋｺ	不戦の基盤固めよ	（６）こゝにふたゝび第４号	31
手島　美恵子	ﾃｼﾞﾏ ﾐｴｺ	思い出は遥か昔	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	358
寺澤　彰雄	ﾃﾗｻﾜ ｱｷｵ	横須賀へ派遣されたのだが	（40）中学校が軍需工場になった	392
寺沢　かのゑ	ﾃﾗｻﾜ ｶﾉｴ	NHKテレビを見て	（４）こゝにふたゝび第２号	108
寺沢　かのゑ	ﾃﾗｻﾜ ｶﾉｴ	「旧友と再会して」	（７）こゝにふたゝび第５号	71
寺部　すえ	ﾃﾗﾍﾞ ｽｴ	平和の尊さ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	316
寺部　すゑ	ﾃﾗﾍﾞ ｽｴ	平和の尊さ	（９）本野ヶ原に散りて	35
寺部　登美子	ﾃﾗﾍﾞ ﾄﾐｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	11
寺部　まさゑ	ﾃﾗﾍﾞ ﾏｻｴ	死んでなるものか　第八話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	24
寺部　まさゑ	ﾃﾗﾍﾞ ﾏｻｴ	死んでなるものか　第八話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	166
寺部　まさゑ	ﾃﾗﾍﾞ ﾏｻｴ	生への執着	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	80

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
寺部　錠	ﾃﾗﾍﾞ ｼﾞｮｳ	戦場のような豊川	（18）戦争を知らない世代へ⑯	156
洞口　たまゑ	ﾄﾞｳｸﾞﾁ ﾀﾏｴ	「私の戦争」	（８）こゝにふたゝび第６号	8
徳桝　眞司	ﾄｸﾏｽ ｼﾝｼﾞ	若くして逝った我が友よ	（22）豊川海軍工廠の記録	142
匿名	ﾄｸﾒｲ	想い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	165
匿名	ﾄｸﾒｲ	惨めな工廠生活	（18）戦争を知らない世代へ⑯	86
匿名	ﾄｸﾒｲ	仕上工場勤労学徒として	（３）こゝにふたゝび創刊号	49
匿名	ﾄｸﾒｲ	呼呼馬場訓導の殉死を悼みて	（９）本野ヶ原に散りて	53
戸沢　こと	ﾄｻﾞﾜ ｺﾄ	今は幸せいっぱい	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	161
戸田　好晴	ﾄﾀﾞ ﾖｼﾊﾙ	明るい職場だった	（40）中学校が軍需工場になった	168
栃久保　貢	ﾄﾁｸﾎﾞ ﾐﾂｸﾞ	目をおおう惨状	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	82
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想 豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡迄	（23）豊火の会会誌 第一号	32
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想（二）豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡まで	（24）豊火の会会誌 第二号	36
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想（三）豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡まで	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	61
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想（四）豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡まで	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	67
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想（五）豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡まで	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	45
戸塚　武比古	ﾄﾂﾞｶ ﾀｹﾋｺ	回想（六）（最終回）豊川海軍工廠設立からその米軍えの引渡まで	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	42
戸松　隆男	ﾄﾏﾂ ﾀｶｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	78
冨田　幸子	ﾄﾐﾀ ｻﾁｺ	私たちの責任	（22）豊川海軍工廠の記録	176
冨田　徳一	ﾄﾐﾀ ﾄｸｲﾁ	歌	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	62
富田　徳一	ﾄﾐﾀ ﾄｸｲﾁ	詩	（３）こゝにふたゝび創刊号	19
富田　信子	ﾄﾐﾀ ﾉﾌﾞｺ	再会の八月七日	（３）こゝにふたゝび創刊号	55
富田　弘子	ﾄﾐﾀ ﾋﾛｺ	青春の一頁	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	329
冨永　明夫	ﾄﾐﾅｶﾞ ｱｷｵ	奇跡の授業・授業の奇跡	（40）中学校が軍需工場になった	99
冨永　明夫	ﾄﾐﾅｶﾞ ｱｷｵ	九月の記憶	（40）中学校が軍需工場になった	312
富永　ふさゑ	ﾄﾐﾅｶﾞ ﾌｻｴ	友の死を歴史に	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	164
富成　勝太郎	ﾄﾐﾅﾘ ｶﾂﾀﾛｳ	「歩こう会に参加して」	（11）いまこゝに	49
富成　勝太郎	ﾄﾐﾅﾘ ｶﾂﾀﾛｳ	思いあらたに	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	140
富成　勝太郎	ﾄﾐﾅﾘ ｶﾂﾀﾛｳ	春秋巡りて三十九年	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	160
友成　恵一	ﾄﾓﾅﾘ ｹｲｲﾁ	豊川の思い出二つ	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	28
友成　恵一	ﾄﾓﾅﾘ ｹｲｲﾁ	豊川工廠時代の思い出	（34）豊川海軍工廠会会誌 第十二号	1
外山　キクエ	ﾄﾔﾏ ｷｸｴ	兄が廠内で戦死	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	162

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
豊田　悦子	ﾄﾖﾀ ｴﾂｺ	我が青春時代	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	35
豊田　悦子	ﾄﾖﾀ ｴﾂｺ	平和と自由	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	62
豊田　悦子	ﾄﾖﾀ ｴﾂｺ	生き残った弟を亡くして	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	113
豊田　悦子	ﾄﾖﾀ ｴﾂｺ	サツマイモに目を輝かせ	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	165
豊田　悦子	ﾄﾖﾀ ｴﾂｺ	我が青春時代	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	517
豊田　さ津き	ﾄﾖﾀ ｻﾂｷ	疎開学徒として	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	289
豊田　進	ﾄﾖﾀ ｽｽﾑ	嗚呼　思い出日記	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	38
豊田　進	ﾄﾖﾀ ｽｽﾑ	鉄拳の食事当番	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	132
豊田　進	ﾄﾖﾀ ｽｽﾑ	思い出日記	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	520
豊田　文代	ﾄﾖﾀ ﾌﾐﾖ	不吉な予感	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	83
鳥居　恭子	ﾄﾘｲ ｷｮｳｺ	蝉時雨	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	73
鳥居　妙子	ﾄﾘｲ ﾀｴｺ	再会	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	69
鳥居　妙子	ﾄﾘｲ ﾀｴｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	133
鳥居　妙子	ﾄﾘｲ ﾀｴｺ	仏前に合掌	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	123
鳥居　妙子	ﾄﾘｲ ﾀｴｺ	「豊橋工場の学徒として」	（７）こゝにふたゝび第５号	13
鳥井　まさ子	ﾄﾘｲ ﾏｻｺ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	213
鳥居　みさ子	ﾄﾘｲ ﾐｻｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	338
鳥居　みさ子	ﾄﾘｲ ﾐｻｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	157
鳥居　みさ子	ﾄﾘｲ ﾐｻｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	163
鳥山　善一	ﾄﾘﾔﾏ ｾﾞﾝｲﾁ	遺族年金に涙	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	291
鳥山　善一	ﾄﾘﾔﾏ ｾﾞﾝｲﾁ	遺族年金に涙	（９）本野ヶ原に散りて	2
内藤　和子	ﾅｲﾄｳ ｶｽﾞｺ	亡き友の墓参りをして	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	165
内藤　きくゑ	ﾅｲﾄｳ ｷｸｴ	お便よりお待ちしております	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	172
内藤　享子	ﾅｲﾄｳ ｷｮｳｺ	あの日のこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	163
内藤　せき	ﾅｲﾄｳ ｾｷ	ブルブル震えがとまらない	（18）戦争を知らない世代へ⑯	213
内藤　タツ	ﾅｲﾄｳ ﾀﾂ	千両も思い出新たに	（９）本野ヶ原に散りて	37
内藤　綱	ﾅｲﾄｳ ﾂﾅ	腹と足、耳をおさえて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	297
内藤　綱	ﾅｲﾄｳ ﾂﾅ	腹と足・耳をおさえて	（９）本野ヶ原に散りて	17
内藤　とか	ﾅｲﾄｳ ﾄｶ	サッパリした子でした	（９）本野ヶ原に散りて	55
内藤　敏子	ﾅｲﾄｳ ﾄｼｺ	豊川海軍工廠（戦争体験談を聞いて）	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	238
内藤　二三子	ﾅｲﾄｳ ﾌﾐｺ	直撃をまぬがれた納品行き	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	84

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
永井　郁	ﾅｶﾞｲ ｲｸ	三月十日に思う	（40）中学校が軍需工場になった	503
永井　郁	ﾅｶﾞｲ ｲｸ	何をしていたのかナァ	（40）中学校が軍需工場になった	170
仲井　さとへ	ﾅｶｲ ｻﾄﾍ	私たちの責任	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	85
長井　直彦	ﾅｶﾞｲ ﾅｵﾋｺ	ガタガタの機械	（40）中学校が軍需工場になった	262
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	密入廠をたくらむ	（１）ああ豊川女子挺身隊	62
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	第十二女子寄宿舎	（１）ああ豊川女子挺身隊	96
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	たのしい演芸会	（１）ああ豊川女子挺身隊	124
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	悲壮！山本少年の死	（１）ああ豊川女子挺身隊	217
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	女子青年隊の蹶起	（１）ああ豊川女子挺身隊	248
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	255
中井　秀子	ﾅｶｲ ﾋﾃﾞｺ	最後までやりぬいた女青	（１）ああ豊川女子挺身隊	279
永井　光子	ﾅｶﾞｲ ﾐﾂｺ	油の雨が降る	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	202
中尾　いわ	ﾅｶｵ ｲﾜ	風を引いたのに	（９）本野ヶ原に散りて	2
中尾　しづ子	ﾅｶｵ ｼﾂﾞｺ	思い出して	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	16
中尾　しづ子	ﾅｶｵ ｼﾂﾞｺ	思い出して	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	322
長尾　雅司	ﾅｶﾞｵ ﾏｻｼ	小さな記憶	（40）中学校が軍需工場になった	396
中尾　みきを	ﾅｶｵ ﾐｷｦ	覚悟はしていても	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	314
中尾　みきを	ﾅｶｵ ﾐｷｦ	覚悟はしていても	（９）本野ヶ原に散りて	33
中神　春枝	ﾅｶｶﾞﾐ ﾊﾙｴ	新しい上衣とモンペをはいて	（９）本野ヶ原に散りて	59
中川　清	ﾅｶｶﾞﾜ ｷﾖｼ	三角関数のイロハを学習した	（40）中学校が軍需工場になった	259
中川　清	ﾅｶｶﾞﾜ ｷﾖｼ	青龍会	（40）中学校が軍需工場になった	335
中川　幸子	ﾅｶｶﾞﾜ ｻﾁｺ	工廠のあの日の思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	191
中川　信治	ﾅｶｶﾞﾜ ｼﾝｼﾞ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	171
長倉　信彦	ﾅｶﾞｸﾗ ﾉﾌﾞﾋｺ	天竜峡分工場	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	22
長坂　サワ子	ﾅｶﾞｻｶ ｻﾜｺ	想い出の鈴木鎮子さん	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	70
長坂　サワ子	ﾅｶﾞｻｶ ｻﾜｺ	乙女の日の山本宏子ちゃん	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	71
長坂　サワ子	ﾅｶﾞｻｶ ｻﾜｺ	友の顔	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	82
長坂　サワ子	ﾅｶﾞｻｶ ｻﾜｺ	ああ無念	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	171
長坂　博登	ﾅｶﾞｻｶ ﾋﾛﾄ	空腹の記	（40）中学校が軍需工場になった	383
中沢　忠蔵	ﾅｶｻﾞﾜ ﾁｭｳｿﾞｳ	豊川海軍工廠で経験した幾つかの事	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	17
中沢　とみゑ	ﾅｶｻﾞﾜ ﾄﾐｴ	近づく夏に思い出す八月七日	（18）戦争を知らない世代へ⑯	186

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
中沢　久子	ﾅｶｻﾞﾜ ﾋｻｺ	材料がこない	（２）胸に穴があいた	135
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	豊川海軍工廠と私	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	208
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	339
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	347
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	忘れ得ぬこと	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	46
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	137
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	追憶（父と娘の暗黙の形見）	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	24
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	170
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	160
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	四十年姉妹のように	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	196
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	お別れの写真	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	159
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	忘れ得ぬこと	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	521
長沢　道子	ﾅｶﾞｻﾜ ﾐﾁｺ	豊川海軍工廠と私	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	484
仲柴　美和子	ﾅｶｼﾊﾞ ﾐﾜｺ	「水、水･･･」	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	166
中島　新作	ﾅｶｼﾞﾏ ｼﾝｻｸ	なつかしき大和田大尉	（５）こゝにふたゝび第３号	22
中島　新作	ﾅｶｼﾞﾏ ｼﾝｻｸ	豊川工廠の思い出	（５）こゝにふたゝび第３号	37
中島　新作	ﾅｶｼﾞﾏ ｼﾝｻｸ	夢にまで見た友の顔	（５）こゝにふたゝび第３号	51
中島　武	ﾅｶｼﾞﾏ ﾀｹｼ	記憶は横穴の中	（40）中学校が軍需工場になった	396
中島　寿人	ﾅｶｼﾞﾏ ﾋｻﾄ	豊川のこと	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	60
中島　みどり	ﾅｶｼﾞﾏﾐﾄﾞﾘ	御健康を心よりお祈りします	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	76
中島　みどり	ﾅｶｼﾞﾏﾐﾄﾞﾘ	写真を胸に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	625
中島　みどり	ﾅｶｼﾞﾏﾐﾄﾞﾘ	お便り	（３）こゝにふたゝび創刊号	44
中島　みどり	ﾅｶｼﾞﾏﾐﾄﾞﾘ	写真を胸に	（９）本野ヶ原に散りて	61
長田　あさゑ	ﾅｶﾞﾀ ｱｻｴ	長かった一年間の寮生活	（19）白紙に消えた青春	92
中田　敬三	ﾅｶﾀ ｹｲｿﾞｳ	学校工場が終わった日	（40）中学校が軍需工場になった	128
中田　敬三	ﾅｶﾀ ｹｲｿﾞｳ	菊水抜刀隊	（40）中学校が軍需工場になった	131
中田　敬三	ﾅｶﾀ ｹｲｿﾞｳ	「海ゆかば」に涙する	（40）中学校が軍需工場になった	505
永田　桂太郎	ﾅｶﾞﾀ ｹｲﾀﾛｳ	只生きていてくれと	（９）本野ヶ原に散りて	40
長田　節子	ﾅｶﾞﾀ ｾﾂｺ	食糧難の恋	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	167
中田　俊子	ﾅｶﾀ ﾄｼｺ	母の言葉	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	86
中田　日出人	ﾅｶﾀ ﾋﾃﾞﾄ	第一仕上班・丙班	（40）中学校が軍需工場になった	105

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
永谷　貴美香	ﾅｶﾞﾀﾆ ｷﾐｶ	母にひきとめられて	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	168
中塚　千恵子	ﾅｶﾂｶ ﾁｴｺ	いまだに残る心の傷跡	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	87
中塚　久穂	ﾅｶﾂｶ ﾋｻﾎ	いい思い出はない	(40) 中学校が軍需工場になった	197
中西　幸子	ﾅｶﾆｼ ｻﾁｺ	村田みよ子さんのこと	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	63
中西　睦一	ﾅｶﾆｼ ﾑﾂｲﾁ	縫上げの中から	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	296
中西　睦一	ﾅｶﾆｼ ﾑﾂｲﾁ	ヌイアゲの中から	(９) 本野ヶ原に散りて	16
中西　るい	ﾅｶﾆｼ ﾙｲ	仲よしの友と	(９) 本野ヶ原に散りて	42
長沼　計司	ﾅｶﾞﾇﾏ ｹｲｼﾞ	四月十六日、天候晴－動員学徒の工場日記より－	(40) 中学校が軍需工場になった	262
長沼　計司	ﾅｶﾞﾇﾏ ｹｲｼﾞ	鷲津分工場断章	(40) 中学校が軍需工場になった	385
長沼　末廣	ﾅｶﾞﾇﾏ ｽｴﾋﾛ	学校工場始まる	(40) 中学校が軍需工場になった	265
中根　すゞ江	ﾅｶﾈ ｽｽﾞｴ	すぎにし思い出を	(22) 豊川海軍工廠の記録	154
中根　すゞ江	ﾅｶﾈ ｽｽﾞｴ	「十六才の思い出」	(８) こゝにふたゝび第６号	41
中野　市利	ﾅｶﾉ ｲﾁﾄｼ	豊川海軍工廠青年隊	(22) 豊川海軍工廠の記録	133
中原　和泉	ﾅｶﾊﾗ ｲｽﾞﾐ	ああ豊川海軍工廠	(22) 豊川海軍工廠の記録	125
中平　多徳	ﾅｶﾋﾗ ﾀﾄｸ	電源を切ったことまでは良かったが	(40) 中学校が軍需工場になった	261
中溝　貴子	ﾅｶﾐｿﾞ ﾀｶｺ	中国の空からこんにちは	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	88
中村　伊井佐久	ﾅｶﾑﾗ ｲｲｻｸ	豊川海軍工廠のあれこれ	(22) 豊川海軍工廠の記録	97
中村　和	ﾅｶﾑﾗ ｶｽﾞ	夫と次男を亡くして	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	169
中村　和恵	ﾅｶﾑﾗ ｶｽﾞｴ	足に針が入った	(２) 胸に穴があいた	99
中村　和恵	ﾅｶﾑﾗ ｶｽﾞｴ	肉親の死	(２) 胸に穴があいた	115
中村　和恵	ﾅｶﾑﾗ ｶｽﾞｴ	故仁科保子さんの面影	(２) 胸に穴があいた	189
中村　計男	ﾅｶﾑﾗ ｶｽﾞｵ	お便り	(４) こゝにふたゝび第２号	23
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	嗚呼嗚呼悲惨	(11) いまこゝに	39
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	退避命令不発	(11) いまこゝに	132
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	豊川海軍工廠余話	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	164
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	追悼並に慰霊碑建立	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	111
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	嗚呼!!悲惨	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	391
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	豊川海軍工廠余話	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	469
中村　要	ﾅｶﾑﾗ ｶﾅﾒ	ああ！悲惨	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	208
中村　きみ	ﾅｶﾑﾗ ｷﾐ	工廠最後の昼食	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	170
中村　きよ	ﾅｶﾑﾗ ｷﾖ	赤十字の旗がひるがえっていても	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	171

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
中村　健一	ﾅｶﾑﾗ ｹﾝｲﾁ	爆弾に追われて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	54
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	昭和二十年十一月の或る日	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	90
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠被爆に関するデータ	（24）豊火の会会誌 第二号	24
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠爆撃の記録	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	23
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	随想　日の丸	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	28
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　まえがき	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	8
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　あとがき	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	23
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠製小銃	（31）豊川海軍工廠会会誌 第九号	9
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川海軍工廠跡地のこと	（33）豊川海軍工廠会会誌 第十一号	1
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊廠初被爆は何時？	（34）豊川海軍工廠会会誌 第十二号	16
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊廠初被爆は何時？　（二）	（35）豊川海軍工廠会会誌 第十三号	12
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	日本の人口について考える	（36）豊川海軍工廠会会誌 第十四号	1
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	故　南修君のこと	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	13
中村　重男	ﾅｶﾑﾗ ｼｹﾞｵ	戦艦「大和」の二十五粍機銃	（39）豊川海軍工廠会会誌 第十七号	4
中村　せつ代	ﾅｶﾑﾗ ｾﾂﾖ	想い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	207
中村　せつ代	ﾅｶﾑﾗ ｾﾂﾖ	想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	60
中村　千恵子	ﾅｶﾑﾗ ﾁｴｺ	命びろいした防空壕	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	89
中村　チヨ子	ﾅｶﾑﾗ ﾁﾖｺ	五人の幼な子を残して	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	317
中村　チヨ子	ﾅｶﾑﾗ ﾁﾖｺ	只夢中	（９）本野ヶ原に散りて	40
中村　ツギ子	ﾅｶﾑﾗ ﾂｷﾞｺ	辛かった工廠勤務	（18）戦争を知らない世代へ⑯	122
中村　亨	ﾅｶﾑﾗ ﾄｵﾙ	先輩の思い出	（８）こゝにふたゝび第６号	35
中村　富久	ﾅｶﾑﾗ ﾄﾐﾋｻ	ああ悲惨	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	173
中村　ふじえ	ﾅｶﾑﾗ ﾌｼﾞｴ	食堂に工員の影うせて	（18）戦争を知らない世代へ⑯	159
中村　雅子	ﾅｶﾑﾗ ﾏｻｺ	死んでなるものか　第六話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	22
中村　雅子	ﾅｶﾑﾗ ﾏｻｺ	死んでなるものか　第六話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	164
中村　雅子	ﾅｶﾑﾗ ﾏｻｺ	心の中で彼女たちと話す	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	90
中村　泰子	ﾅｶﾑﾗ ﾔｽｺ	母の手	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	282
中村　ゆき	ﾅｶﾑﾗ ﾕｷ	受話器を持って	（９）本野ヶ原に散りて	42
中村　洋子	ﾅｶﾑﾗ ﾖｳｺ	一粒の麦の輝き	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	201
中村　美子	ﾅｶﾑﾗ ﾖｼｺ	「生涯忘れられない惨事」	（11）いまこゝに	101
中村　美子	ﾅｶﾑﾗ ﾖｼｺ	思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	93

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
中村　由子	ﾅｶﾑﾗ ﾖｼｺ	親となって分かった母の気持ち	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	92
中村　米次郎	ﾅｶﾑﾗ ﾖﾈｼﾞﾛｳ	第二の広島－我が町豊川	（18）戦争を知らない世代へ⑯	88
仲谷　とし子	ﾅｶﾔ ﾄｼｺ	思い出	（22）豊川海軍工廠の記録	165
中山　花香	ﾅｶﾔﾏ ﾊﾅｶ	あすを予知出来ぬ哀れさ	（１）ああ豊川女子挺身隊	78
中山　花香	ﾅｶﾔﾏ ﾊﾅｶ	辛かった朝のかけ足	（１）ああ豊川女子挺身隊	152
中山　花香	ﾅｶﾔﾏ ﾊﾅｶ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	225
中山　花香	ﾅｶﾔﾏ ﾊﾅｶ	成松大尉が最後の訓示	（１）ああ豊川女子挺身隊	278
中山　保夫	ﾅｶﾔﾏ ﾔｽｵ	旧制中学一年生の日記	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	97
夏村　繁雄	ﾅﾂﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川の懐い出（一）	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	3
夏村　繁雄	ﾅﾂﾑﾗ ｼｹﾞｵ	豊川の懐い出（二）	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	1
夏目　敏雄	ﾅﾂﾒ ﾄｼｵ	もう少し早く避難すれば	（18）戦争を知らない世代へ⑯	61
夏目　敏子	ﾅﾂﾒ ﾄｼｺ	短歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	213
夏目　ひさ	ﾅﾂﾒ ﾋｻ	思い出のままに	（11）いまこゝに	89
夏目　ひさ	ﾅﾂﾒ ﾋｻ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	318
夏目　ひさ	ﾅﾂﾒ ﾋｻ	死線をのがれて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	409
夏目　寿	ﾅﾂﾒ ﾋｻｼ	友情の会に出席して	（４）こゝにふたゝび第２号	49
夏目　ひろ江	ﾅﾂﾒ ﾋﾛｴ	抱き合って死んだ年少工	（２）胸に穴があいた	153
七原　節子	ﾅﾅﾊﾗ ｾﾂｺ	「私が死んだらたのむね!」	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	229
鍋島　長栄	ﾅﾍﾞｼﾏ ﾁｮｳｴｲ	廠友と会える楽しみに	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	115
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	悲願	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	35
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	思い出はあの日「八月七日」	（11）いまこゝに	123
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	夫は工廠と共に	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	131
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	334
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	亡夫を忍びて	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	39
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	164
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	173
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	162
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	涙が出ます	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	105
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	忘れえぬ豊川	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	204
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	心のあなたと共に生きて	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	99

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
南良　清美	ﾅﾗ ｷﾖﾐ	茅（かや）の芽	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	428
成松　明壽	ﾅﾘﾏﾂ ｱｷﾄｼ	光学器械の昔と今	（38）豊川海軍工廠会会誌 第十六号	5
鳴沢　春男	ﾅﾙｻﾜ ﾊﾙｵ	「今ここに」	（11）いまこゝに	153
成瀬　正明	ﾅﾙｾ ﾏｻｱｷ	「臭気ただよいて」	（11）いまこゝに	60
成瀬　正明	ﾅﾙｾ ﾏｻｱｷ	臭気ただよいて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	396
鳴海　はな子	ﾅﾙﾐ ﾊﾅｺ	ほかの記憶は薄れても	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	172
南口　たづ	ﾅﾝｺｳ ﾀﾂﾞ	偽りのない記	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	114
南東　敏子	ﾅﾝﾄｳ ﾄｼｺ	生徒たちとの約束	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	215
新村　喜十郎	ﾆｲﾑﾗ ｷｼﾞｭｳﾛｳ	平和の像	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	183
新村　正雄	ﾆｲﾑﾗ ﾏｻｵ	豊川海軍工廠と私	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	8
仁木　基文	ﾆｷ ﾓﾄﾌﾐ	淡い夢物語	（40）中学校が軍需工場になった	197
仁木　基文	ﾆｷ ﾓﾄﾌﾐ	海軍式敬礼	（40）中学校が軍需工場になった	339
二口　三次郎	ﾆｸﾞﾁ ｻﾝｼﾞﾛｳ	戸が開けば帰ったと思う	（１）ああ豊川女子挺身隊	326
西尾　カナエ	ﾆｼｵ ｶﾅｴ	過ぎし思い今ここに	（11）いまこゝに	75
西尾　カナエ	ﾆｼｵ ｶﾅｴ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	345
西尾　カナエ	ﾆｼｵ ｶﾅｴ	豊川に地獄を見た	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	400
西尾　敏彦	ﾆｼｵ ﾄｼﾋｺ	作業台が２台	（40）中学校が軍需工場になった	134
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	茂子さん御免なさいね	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	14
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	青春の思い出	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	66
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	想い出の地豊川	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	70
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	思い出の豊川工廠	（11）いまこゝに	159
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	豊川　思い出の記	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	250
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	338
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	170
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	172
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	入廠の頃	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	103
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	170
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	女子挺身隊	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	219
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	信州の地より御冥福を祈ります	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	222
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	文集によせて	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	179

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	茂子さん御免なさいね	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	320
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	「諏訪市女子挺身隊長として」	(８) こゝにふたゝび第６号	29
西岡　彩子	ﾆｼｵｶ ｱﾔｺ	想いも新たに	(９) 本野ヶ原に散りて	72
西嶋　久文	ﾆｼｼﾞﾏ ﾋｻﾌﾐ	たらこ・明神橋	(40) 中学校が軍需工場になった	199
仁科　保子母	ﾆｼﾅ ﾔｽｺﾊﾊ	白木の箱に毛髪三本のみ	(２) 胸に穴があいた	186
西野　照子	ﾆｼﾉ ﾃﾙｺ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	174
西牧　トモ江	ﾆｼﾏｷ ﾄﾓｴ	兄を想う	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	221
西牧　トモ江	ﾆｼﾏｷ ﾄﾓｴ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	156
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	入廠	(２) 胸に穴があいた	71
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	のみ攻め	(２) 胸に穴があいた	107
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	ふかしいもの買出し	(２) 胸に穴があいた	110
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	帰省願	(２) 胸に穴があいた	117
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	空襲	(２) 胸に穴があいた	124
西村　ミチ	ﾆｼﾑﾗ ﾐﾁ	命を大切に	(２) 胸に穴があいた	222
西村　八重子	ﾆｼﾑﾗ ﾔｴｺ	九死に一生、奇蹟の生還	(１) ああ豊川女子挺身隊	232
西脇　繁子	ﾆｼﾜｷ ｼｹﾞｺ	戦争は二度とあってはならない	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	236
新田　隆平	ﾆｯﾀ ﾘｭｳﾍｲ	金沢「殉難女子挺身隊員世界平和祈願之像」建立経緯	(24) 豊火の会会誌 第二号	1
二村　はる	ﾆﾑﾗ ﾊﾙ	空襲解除までの長い時間	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	174
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	心、出会いそして別れ	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	47
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	140
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	173
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	友は悲しき墓碑名となりて	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	111
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	168
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	皇紀二千六百四年　豊川への道程	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	135
丹羽　みち子	ﾆﾜ ﾐﾁｺ	友よまたたく星となれ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	644
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	息子よ静かに眠れ	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	115
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	息子よ静かに眠れ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	203
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	あゝめぐり来る八月七日	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	271
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	息子よ静かに眠れ	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	152
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	息子よ静かに眠れ	(４) こゝにふたゝび第２号	52

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
野口　秋雄	ﾉｸﾞﾁ ｱｷｵ	あゝめぐりくる八月七日	（８）こゝにふたゝび第６号	33
野口　信子	ﾉｸﾞﾁ ﾉﾌﾞｺ	吹き飛んだお弁当	（22）豊川海軍工廠の記録	162
野崎　忠寿朗	ﾉｻﾞｷ ﾁｭｳｼﾛｳ	疎開・学校工場・一番なつかしい学生生活	（40）中学校が軍需工場になった	316
野沢　久子	ﾉｻﾞﾜ ﾋｻｺ	「お国のために」	（11）いまこゝに	53
野沢　文枝	ﾉｻﾞﾜ ﾌﾐｴ	あの日あの時	（22）豊川海軍工廠の記録	152
野沢　よしゑ	ﾉｻﾞﾜ ﾖｼｴ	牛久保国民学校の生徒として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	250
野沢　よしゑ	ﾉｻﾞﾜ ﾖｼｴ	「牛久保国民学校の生徒として」	（８）こゝにふたゝび第６号	21
野沢　よしゑ	ﾉｻﾞﾜ ﾖｼｴ	モスリンの上衣とモンペ	（９）本野ヶ原に散りて	65
野末　君江	ﾉｽﾞｴ ｷﾐｴ	「農業要員として」	（７）こゝにふたゝび第５号	54
野末　好子	ﾉｽﾞｴ ﾖｼｺ	形見は爪と髪	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	311
野末　好子	ﾉｽﾞｴ ﾖｼｺ	形見は爪と髪	（９）本野ヶ原に散りて	30
野田　明美	ﾉﾀﾞ ｱｹﾐ	豊橋空襲と海軍工廠の空襲（体験者/母・祖母）	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	186
野原　俊二	ﾉﾊﾗ ｼｭﾝｼﾞ	遠い九州から	（40）中学校が軍需工場になった	317
野村　俊一	ﾉﾑﾗ ｼｭﾝｲﾁ	甘みが身に沁みた	（40）中学校が軍需工場になった	340
野村　津根子	ﾉﾑﾗ ﾂﾈｺ	戦争とわたし	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	252
萩坂　昇	ﾊｷﾞｻｶ ﾉﾎﾞﾙ	アリランの歌	（22）豊川海軍工廠の記録	132
萩野　とみ子	ﾊｷﾞﾉ ﾄﾐｺ	忘られぬ生の実感	（18）戦争を知らない世代へ⑯	223
萩原　正彦	ﾊｷﾞﾜﾗ ﾏｻﾋｺ	尊い平和	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	236
橋浦　久子	ﾊｼｳﾗ ﾋｻｺ	赤いリボンで結んだ遺髪	（１）ああ豊川女子挺身隊	322
橋爪　郁子	ﾊｼﾂﾞﾒ ｲｸｺ	生と死のはざまで	（19）白紙に消えた青春	137
橋爪　藤夫	ﾊｼﾂﾞﾒ ﾌｼﾞｵ	学校工場ひとりごと	（40）中学校が軍需工場になった	341
橋爪　藤夫	ﾊｼﾂﾞﾒ ﾌｼﾞｵ	工場学舎８月15日	（40）中学校が軍需工場になった	342
羽柴　幸進	ﾊｼﾊﾞ ｺｳｼﾝ	姥桜は元気だった	（29）豊川海軍工廠会会誌 第七号	33
橋村　泰雲	ﾊｼﾑﾗ ﾀｲｳﾝ	やさしい子でした	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	58
橋村　泰雲	ﾊｼﾑﾗ ﾀｲｳﾝ	やさしい子でした	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	348
橋本　茂男	ﾊｼﾓﾄ ｼｹﾞｵ	妹のおもいで	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	226
橋本　茂男	ﾊｼﾓﾄ ｼｹﾞｵ	妹の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	559
橋本　満枝	ﾊｼﾓﾄ ﾐﾂｴ	お水が飲みたい	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	176
長谷川　要	ﾊｾｶﾞﾜ ｶﾅﾒ	豊川海軍工廠と私	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	31
長谷川　要	ﾊｾｶﾞﾜ ｶﾅﾒ	豊川海軍共済病院入院生活	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	23

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
長谷川　要	ﾊｾｶﾞﾜ ｶﾅﾒ	すばらしい人間を大切にしよう	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	5
長谷川　要	ﾊｾｶﾞﾜ ｶﾅﾒ	思い付き豊廠会存続論	（39）豊川海軍工廠会会誌 第十七号	1
長谷川　久子	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋｻｺ	十二女子挺身隊のみな様へ	（１）ああ豊川女子挺身隊	332
長谷川　久子	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋｻｺ	寮長として	（２）胸に穴があいた	121
長谷川　久子	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋｻｺ	豊川駅にもと寮生を迎える	（２）胸に穴があいた	218
長谷川　広	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋﾛｼ	兵器増産戦場	（１）ああ豊川女子挺身隊	148
長谷川　善和	ﾊｾｶﾞﾜ ﾖｼｶｽﾞ	これで勝てるのかと	（40）中学校が軍需工場になった	398
秦　信子	ﾊﾀ ﾉﾌﾞｺ	八月七日空襲当時の思い出	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	64
秦　信子	ﾊﾀ ﾉﾌﾞｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	168
秦　信子	ﾊﾀ ﾉﾌﾞｺ	当時の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	164
秦　信子	ﾊﾀ ﾉﾌﾞｺ	八月七日空襲の思いで	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	623
波多野　千寿子	ﾊﾀﾉ ﾁｽﾞｺ	豊川海軍工廠空襲の思い出	（22）豊川海軍工廠の記録	150
蜂谷　恒雄	ﾊﾁﾔ ﾂﾈｵ	振り返る「終戦の日まで」	（40）中学校が軍需工場になった	107
八太　正	ﾊｯﾀ ﾀﾀﾞｼ	「文集」息子にも	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	95
服部　和男	ﾊｯﾄﾘ ｶｽﾞｵ	想い出のまゝに	（３）こゝにふたゝび創刊号	47
服部　和男	ﾊｯﾄﾘ ｶｽﾞｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	65
服部　実	ﾊｯﾄﾘ ﾐﾉﾙ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	165
華井　辰雄	ﾊﾅｲ ﾀﾂｵ	「心のふる里豊川を去って三十年」	（８）こゝにふたゝび第６号	26
花井　みつ	ﾊﾅｲ ﾐﾂ	友の無念の声が聞こえる	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	93
花崎　八重	ﾊﾅｻｷ ﾔｴ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	132
花崎　八重	ﾊﾅｻｷ ﾔｴ	心によい思い出を	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	125
羽生　眞彦	ﾊﾆｭｳ ﾏｻﾋｺ	僅か５ケ月だった学校工場の理不尽	（40）中学校が軍需工場になった	115
羽場　治雄	ﾊﾊﾞ ﾊﾙｵ	第四機銃工場をたずねて	（３）こゝにふたゝび創刊号	51
浜　古わか	ﾊﾏ ｺﾜｶ	三十八年一日として思い出さない日はありません	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	171
濱　次雄	ﾊﾏ ﾂｷﾞｵ	苦労の連続	（40）中学校が軍需工場になった	292
羽谷　カヅヘ	ﾊﾔ ｶﾂﾞﾍ	悪夢の日	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	128
早川　織枝	ﾊﾔｶﾜ ｵﾘｴ	山の横穴に津工場	（１）ああ豊川女子挺身隊	183
早川　キク	ﾊﾔｶﾜ ｷｸ	絶対死なゝいと	（９）本野ヶ原に散りて	41
早川　奎	ﾊﾔｶﾜ ｹｲ	小さな真空地帯	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	237
早川　康一	ﾊﾔｶﾜ ｺｳｲﾁ	空襲の想い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	280

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
早川　康一	ﾊﾔｶﾜ ｺｳｲﾁ	豊川工廠の思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	120
早川　康一	ﾊﾔｶﾜ ｺｳｲﾁ	空襲の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	512
早川　康一	ﾊﾔｶﾜ ｺｳｲﾁ	「友よ安らかに」	（８）こゝにふたゝび第６号	34
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	「九死に一生を得て」	（11）いまこゝに	37
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	嗚呼　豊川海軍工廠	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	223
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	オカッパ姿のままで	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	88
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	九死に一生を得て	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	390
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	嗚呼　豊川海軍工廠	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	493
早川　直子	ﾊﾔｶﾜ ﾅｵｺ	九死に一生を得て	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	178
早川　又一	ﾊﾔｶﾜ ﾏﾀｲﾁ	「群馬より」	（９）本野ヶ原に散りて	60
早川　美子	ﾊﾔｶﾜ ﾖｼｺ	被爆の日	（５）こゝにふたゝび第３号	71
林　あさ	ﾊﾔｼ ｱｻ	誕生日が命日になろうとは	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	303
林　あさ	ﾊﾔｼ ｱｻ	通帳に二千円	（９）本野ヶ原に散りて	23
林　猪一	ﾊﾔｼ ｲﾉｲﾁ	運命は紙ひとえとか	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	312
林　猪一	ﾊﾔｼ ｲﾉｲﾁ	運命は紙ひとえとか	（９）本野ヶ原に散りて	31
林　幸子	ﾊﾔｼ ｻﾁｺ	野崎小唄忘れず	（９）本野ヶ原に散りて	57
林　昌一	ﾊﾔｼ ｼｮｳｲﾁ	二度とあって欲しくない	（40）中学校が軍需工場になった	343
林　寿美子	ﾊﾔｼ ｽﾐｺ	「安かれ若き御霊」	（９）本野ヶ原に散りて	冒頭
林　建彦	ﾊﾔｼ ﾀｹﾋｺ	30年前の原体験	（40）中学校が軍需工場になった	429
林　健久	ﾊﾔｼ ﾀｹﾋｻ	第二調整班・丙班のメンバー	（40）中学校が軍需工場になった	151
林　主税	ﾊﾔｼ ﾁｶﾗ	豊川工廠光学部での六ヶ月	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	38
林　主税	ﾊﾔｼ ﾁｶﾗ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　返信	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	15
林　常吉	ﾊﾔｼ ﾂﾈｷﾁ	星天の彼方に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	310
林　常吉	ﾊﾔｼ ﾂﾈｷﾁ	星天の彼方に	（９）本野ヶ原に散りて	29
林　徳造	ﾊﾔｼ ﾄｸｿﾞｳ	あの日の親切忘れず	（９）本野ヶ原に散りて	43
林　と志ゑ	ﾊﾔｼ ﾄｼｴ	豊川海軍工廠の爆撃に遇いし我が子に寄せる記	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	57
林　としゑ	ﾊﾔｼ ﾄｼｴ	我が子に寄せる記	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	541
林　美代子	ﾊﾔｼ ﾐﾖｺ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	169
林　美代子	ﾊﾔｼ ﾐﾖｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	328
林　美代子	ﾊﾔｼ ﾐﾖｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	146

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
林　ゆり子	ﾊﾔｼ ﾕﾘｺ	今ここに	（11）いまこゝに	38
原　大治	ﾊﾗ ﾀﾞ ｲｼﾞ	八月七日の思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	77
原　大治	ﾊﾗ ﾀﾞ ｲｼﾞ	八月七日の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	442
原　哲朗	ﾊﾗ ﾃﾂﾛｳ	あの頃を思い出して	（40）中学校が軍需工場になった	507
原　哲朗	ﾊﾗ ﾃﾂﾛｳ	学校工場の頃を俯瞰する	（40）中学校が軍需工場になった	271
原　俊郎	ﾊﾗ ﾄｼﾛｳ	踏み台が必要だった旋盤操作	（40）中学校が軍需工場になった	274
原　規道	ﾊﾗ ﾉﾘﾐﾁ	悲しい軍国少年の幸せ	（40）中学校が軍需工場になった	269
原　嘉彦	ﾊﾗ ﾖｼﾋｺ	仕上工の記憶	（40）中学校が軍需工場になった	116
原　嘉彦	ﾊﾗ ﾖｼﾋｺ	回想を詠む	（40）中学校が軍需工場になった	117
原澤　進	ﾊﾗｻﾜ ｽｽﾑ	進路に影響した曲線講義	（40）中学校が軍需工場になった	289
原田　和雄	ﾊﾗﾀﾞ ｶｽﾞｵ	豊川の追憶	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	233
原田　和雄	ﾊﾗﾀﾞ ｶｽﾞｵ	豊川、十七日間の思い出	（18）戦争を知らない世代へ⑯	50
原田　和雄	ﾊﾗﾀﾞ ｶｽﾞｵ	私の日記より	（６）こゝにふたゝび第４号	19
原田　和雄	ﾊﾗﾀﾞ ｶｽﾞｵ	豊川の追憶	（６）こゝにふたゝび第４号	76
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	あゝ敗戦来たりて	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	90
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	あゝ智子よお前もか	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	220
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	あの顔あの声	（３）こゝにふたゝび創刊号	56
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	汗と油と友情と	（３）こゝにふたゝび創刊号	66
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	汗と油と友情と（続）	（４）こゝにふたゝび第２号	43
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	あゝ智子よお前もか	（５）こゝにふたゝび第３号	23
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	汗と油と友情と	（６）こゝにふたゝび第４号	1
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	「油と汗と友情と」	（７）こゝにふたゝび第５号	20
原田　高次	ﾊﾗﾀﾞ ﾀｶﾂｸﾞ	青い服の人々	（８）こゝにふたゝび第６号	48
原田　守	ﾊﾗﾀﾞ ﾏﾓﾙ	飯中へ転校までの昭和20年	（40）中学校が軍需工場になった	318
原田　みよ	ﾊﾗﾀﾞ ﾐﾖ	一心に祈る	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	94
伴　和子	ﾊﾞﾝ ｶｽﾞｺ	命の恩人	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	95
伴　敏子	ﾊﾞﾝ ﾄｼｺ	亡き友へ	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	72
坂東　美葉留	ﾊﾞﾝﾄﾞｳ ﾐﾊﾙ	恐怖の防空壕	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	187
坂東　るり子	ﾊﾞﾝﾄﾞｳ ﾙﾘｺ	俳句	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	273
伴野　房子	ﾊﾞﾝﾉ ﾌｻｺ	死を覚悟して	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	294

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
伴野　房子	ﾊﾞﾝﾉ ﾌｻｺ	死を覚悟して	（９）本野ヶ原に散りて	14
樋口　伊知郎	ﾋｸﾞﾁ ｲﾁﾛｳ	豊川海軍工廠徴用工の想い出	（22）豊川海軍工廠の記録	132
彦坂　ふさ	ﾋｺｻｶ ﾌｻ	道なき道を逃れて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	96
彦坂　禮子	ﾋｺｻｶ ﾚｲｺ	その日の海軍工廠	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	159
彦坂　禮子	ﾋｺｻｶ ﾚｲｺ	終戦の夏	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	186
比奈地　信子	ﾋﾅﾁ ﾉﾌﾞｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	72
日野　菊代	ﾋﾉ ｷｸﾖ	苦しさと闘う	（22）豊川海軍工廠の記録	162
日比野　国吉	ﾋﾋﾞﾉ ｸﾆｷﾁ	うれしいたより	（11）いまこゝに	166
平井　正	ﾋﾗｲ ﾀﾀﾞｼ	仕事で感じた戦況の不利	（18）戦争を知らない世代へ⑯	128
平岩　貞一	ﾋﾗｲﾜ ｻﾀﾞｲﾁ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	150
平岩　隆	ﾋﾗｲﾜ ﾀｶｼ	被爆の思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	217
平岩　隆	ﾋﾗｲﾜ ﾀｶｼ	被爆の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	179
平岩　隆	ﾋﾗｲﾜ ﾀｶｼ	被爆の想い出	（３）こゝにふたゝび創刊号	3
平岩　隆	ﾋﾗｲﾜ ﾀｶｼ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	75
平岩　貞一	ﾋﾗｲﾜ ﾃｲｲﾁ	見習工として	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	38
平岩　貞一	ﾋﾗｲﾜ ﾃｲｲﾁ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	320
平岩　貞一	ﾋﾗｲﾜ ﾃｲｲﾁ	見習工として	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	334
平澤　喜代重	ﾋﾗｻﾜ ｷﾖｼｹﾞ	水神橋の欄干が無くなった	（40）中学校が軍需工場になった	343
平澤　喜代重	ﾋﾗｻﾜ ｷﾖｼｹﾞ	防空担当が縁だったのか	（40）中学校が軍需工場になった	374
平澤　榮夫	ﾋﾗｻﾜ ﾋﾃﾞｵ	東京大空襲で罹災・辿り着いた飯田	（40）中学校が軍需工場になった	324
平田　達	ﾋﾗﾀ ﾀﾂ	学校が工場に変身	（40）中学校が軍需工場になった	158
平野　秋子	ﾋﾗﾉ ｱｷｺ	八月七日に思う	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	179
平野　千鶴子	ﾋﾗﾉ ﾁﾂﾞｺ	平野組長今いづこ	（５）こゝにふたゝび第３号	55
平松　きよ	ﾋﾗﾏﾂ ｷﾖ	一週間耐えて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	310
平松　きよ	ﾋﾗﾏﾂ ｷﾖ	一週間耐えて	（９）本野ヶ原に散りて	30
広瀬　久子	ﾋﾛｾ ﾋｻｺ	山本宏子さんへ送る手紙	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	298
深沢　庄蔵	ﾌｶｻﾜ ｼｮｳｿﾞｳ	豊川五年の回想	（３）こゝにふたゝび創刊号	24
深沢　庄蔵	ﾌｶｻﾜ ｼｮｳｿﾞｳ	豊川随想断片	（４）こゝにふたゝび第２号	38
深沢　庄蔵	ﾌｶｻﾜ ｼｮｳｿﾞｳ	豊川随想	（８）こゝにふたゝび第６号	57
深田　儀一	ﾌｶﾀﾞ ｷﾞｲﾁ	「悲しい思い出」	（11）いまこゝに	34

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
福井　三代子	ﾌｸｲ ﾐﾖｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	65
福澤　盛吉	ﾌｸｻﾞﾜ ﾓﾘｷﾁ	雪の小川路峠から始まった昭和20年	（40）中学校が軍需工場になった	62
福島　民子	ﾌｸｼﾏ ﾀﾐｺ	深夜業	（２）胸に穴があいた	78
福島　民子	ﾌｸｼﾏ ﾀﾐｺ	海軍精神	（２）胸に穴があいた	95
福島　民子	ﾌｸｼﾏ ﾀﾐｺ	空腹に堪えかねて	（２）胸に穴があいた	133
福島　民子	ﾌｸｼﾏ ﾀﾐｺ	絶対くり返してはならない	（２）胸に穴があいた	221
福代　幸一	ﾌｸｼﾛ ｺｳｲﾁ	真夏の冬服	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	119
福代　幸一	ﾌｸｼﾛ ｺｳｲﾁ	第二の故郷	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	217
福代　幸一	ﾌｸｼﾛ ｺｳｲﾁ	今なお続く耳鳴り	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	633
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	嗚呼　第四機銃工場	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	219
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	にがい思い出	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	32
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	165
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	思い出の人々（一）	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	29
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	155
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	思い出の人々（二）	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	191
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	思い出の人々（三）	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	70
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	嗚呼!!第四機銃工場	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	490
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	「健康法」抄（一）	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	16
福田　政邦	ﾌｸﾀ ﾏｻｸﾆ	「健康法」抄（二）	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	8
福田　まり子	ﾌｸﾀ ﾏﾘｺ	新城高女の学徒として	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	198
福永　秀成	ﾌｸﾅｶﾞ ﾋﾃﾞﾅﾘ	豊川海軍工廠の思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	259
福原　俊枝	ﾌｸﾊﾗ ﾄｼｴ	痛む命を	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	194
福原　俊枝	ﾌｸﾊﾗ ﾄｼｴ	痛む命を	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	607
福原　俊枝	ﾌｸﾊﾗ ﾄｼｴ	声なき声が心を責める	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	244
福本　行雄	ﾌｸﾓﾄ ﾕｷｵ	日本最大の海軍工廠炎上す	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	534
福山　郁生	ﾌｸﾔﾏ ｲｸｵ	危険物輸送に関する最近の動向	（37）豊川海軍工廠会会誌 第十五号	1
福山　しげこ	ﾌｸﾔﾏ ｼｹﾞｺ	運を天にまかせて	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	97
藤井　妙子	ﾌｼﾞｲ ﾀｴｺ	第一装塡工場	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	331
藤井　千恵子	ﾌｼﾞｲ ﾁｴｺ	お便り（いつまでもお元気で）	（４）こゝにふたゝび第２号	68
藤国　義郎	ﾌｼﾞｸﾆ ﾖｼﾛｳ	豊川海軍工廠火工部勤務以前とその後	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	14

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
藤城　新市	ﾌｼﾞｼﾛ ｼﾝｲﾁ	あの日の追憶	（22）豊川海軍工廠の記録	166
藤田　幸一郎	ﾌｼﾞﾀ ｺｳｲﾁﾛｳ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	67
藤田　繁江	ﾌｼﾞﾀ ｼｹﾞｴ	許して下さい	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	273
藤田　繁江	ﾌｼﾞﾀ ｼｹﾞｴ	「その日その時」	（８）こゝにふたゝび第６号	28
藤田　なみ	ﾌｼﾞﾀ ﾅﾐ	胸に光るブローチ	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	9
藤田　なみ	ﾌｼﾞﾀ ﾅﾐ	不思議な体験	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	93
藤田　なみ	ﾌｼﾞﾀ ﾅﾐ	坊やを残して…	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	318
藤田　なみ	ﾌｼﾞﾀ ﾅﾐ	「思い出のままに」	（８）こゝにふたゝび第６号	27
藤田　にのゑ	ﾌｼﾞﾀ ﾆﾉｴ	夢にまで見た工廠跡を訪ねて	（５）こゝにふたゝび第３号	81
藤田　にのゑ	ﾌｼﾞﾀ ﾆﾉｴ	乙女の日恋う日々続く寒椿	（６）こゝにふたゝび第４号	23
藤田　のり子	ﾌｼﾞﾀ ﾉﾘｺ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	325
藤田　正久	ﾌｼﾞﾀ ﾏｻﾋｻ	出合いに恵まれた吾が人生	（23）豊火の会会誌 第一号	1
伏見　芳雄	ﾌｼﾐ ﾖｼｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	28
藤村　チエ	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｴ	俺をあてにするな	（９）本野ヶ原に散りて	48
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	「空腹に耐えて」	（11）いまこゝに	143
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	装填工場地帯	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	86
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	芋と兵隊	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	117
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	工廠の思い出	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	53
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	工員寄宿舎最後の夕べ	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	130
藤村　力	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾁｶﾗ	装填工場地帯	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	444
藤原　孝子	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｶｺ	思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	311
藤原　勝	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻﾙ	俳句	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	89
藤原　勝	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻﾙ	献句	（６）こゝにふたゝび第４号	92
藤原　勝	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻﾙ	「招魂」	（７）こゝにふたゝび第５号	1
藤原　勝	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻﾙ	書	（８）こゝにふたゝび第６号	52
藤原　良次	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾘｮｳｼﾞ	ＮＨＫ稲荷と平和の像を聞いて	（９）本野ヶ原に散りて	65
布施　美恵	ﾌｾ ﾐｴ	豊川工廠の思い出	（６）こゝにふたゝび第４号	35
二見　道乃	ﾌﾀﾐ ﾐﾁﾉ	お礼の手紙	（11）いまこゝに	131
渕上　正	ﾌﾁｶﾞﾐ ﾀﾀﾞｼ	工廠の一年間	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	61
船木　だい	ﾌﾅｷ ﾀﾞｲ	平和の像前の再会	（４）こゝにふたゝび第２号	92
船木　だい	ﾌﾅｷ ﾀﾞｲ	文集第４号によせて	（６）こゝにふたゝび第４号	22

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
降旗　栄吉	ﾌﾘﾊﾀ ｴｲｷﾁ	戦争から平和への道	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	136
降旗　栄吉	ﾌﾘﾊﾀ ｴｲｷﾁ	寄宿舎生活をしのんで	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	161
降旗　栄吉	ﾌﾘﾊﾀ ｴｲｷﾁ	生きる喜び	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	82
降旗　栄吉	ﾌﾘﾊﾀ ｴｲｷﾁ	長く頂いた生命を大切にしよう	（22）豊川海軍工廠の記録	178
降幡　兼義	ﾌﾘﾊﾀ ｶﾈﾖｼ	思い出をいまここに	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	93
降幡　兼義	ﾌﾘﾊﾀ ｶﾈﾖｼ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	159
降幡　兼義	ﾌﾘﾊﾀ ｶﾈﾖｼ	銃身工場友の会	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	175
古川　俊	ﾌﾙｶﾜ ﾄｼ	頭に下駄を乗せて逃げる	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	207
古田　賢治	ﾌﾙﾀ ｹﾝｼﾞ	四尺旋盤を操作して	（40）中学校が軍需工場になった	275
古田　賢治	ﾌﾙﾀ ｹﾝｼﾞ	白線帽子と揺れ動くこころ	（40）中学校が軍需工場になった	345
古田　忠夫	ﾌﾙﾀ ﾀﾀﾞｵ	夜勤明け	（40）中学校が軍需工場になった	275
古橋　うめ	ﾌﾙﾊｼ ｳﾒ	母親は目頭を赤くして	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	177
古畑　恒雄	ﾌﾙﾊﾀ ﾂﾈｵ	ある出会い	（40）中学校が軍需工場になった	361
北城　節雄	ﾎｸｼﾞｮｳ ｾﾂｵ	ターレット旋盤・タラコ・コールタール	（40）中学校が軍需工場になった	277
保阪　武敏	ﾎｻｶ ﾀｹﾄｼ	軍国少年の体験、反省	（40）中学校が軍需工場になった	508
星野　和子	ﾎｼﾉ ｶｽﾞｺ	父母の戦争体験	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	242
星野　さかゑ	ﾎｼﾉ ｻｶｴ	空襲もこれでないよ	（９）本野ヶ原に散りて	57
星野　佐智子	ﾎｼﾉ ｻﾁｺ	死んでなるものか　第七話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	23
星野　佐智子	ﾎｼﾉ ｻﾁｺ	死んでなるものか　第七話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	165
星野　佐智子	ﾎｼﾉ ｻﾁｺ	白布を持ってかけつけた父	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	98
細井　きく子	ﾎｿｲ ｷｸｺ	母の赤飯	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	182
細川　ふさゑ	ﾎｿｶﾜ ﾌｻｴ	爆撃の思い出	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	124
細川　ふさゑ	ﾎｿｶﾜ ﾌｻｴ	爆撃の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	595
細田　緑	ﾎｿﾀﾞ ﾐﾄﾞﾘ	被爆の日の母の愛	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	99
細野　盛雄	ﾎｿﾉ ﾓﾘｵ	戦争は悲惨でしかない！	（18）戦争を知らない世代へ⑯	119
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	慰安旅行より帰りて	（５）こゝにふたゝび第３号	36
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	三十三回忌慰霊祭に出席して	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	47
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	死体収容	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	122
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	死体収容の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	214
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	忘れじの遺体収容	（18）戦争を知らない世代へ⑯	140
穂積　肇	ﾎﾂﾞﾐ ﾊｼﾞﾒ	死体収容の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	105

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
堀　うめ	ﾎﾘ ｳﾒ	二十八年間片時も忘れず	（６）こゝにふたゝび第４号	29
堀　うめ	ﾎﾘ ｳﾒ	「二十七年ぶりに墓参実現」	（７）こゝにふたゝび第５号	76
堀　光一	ﾎﾘ ｺｳｲﾁ	痛恨豊川海軍工廠の回想	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	55
堀　光一	ﾎﾘ ｺｳｲﾁ	三十七年前を偲びて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	175
堀　光一	ﾎﾘ ｺｳｲﾁ	痛恨豊川海軍工廠の回想	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	609
堀　二三枝	ﾎﾘ ﾌﾐｴ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	67
堀井　きみ江	ﾎﾘｲ ｷﾐｴ	平和を祈りて	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	132
堀江　四郎	ﾎﾘｴ ｼﾛｳ	豊川の鎮魂歌	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	211
堀江　四郎	ﾎﾘｴ ｼﾛｳ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	337
堀江　艶子	ﾎﾘｴ ﾂﾔｺ	四年の後に散った工廠	（18）戦争を知らない世代へ⑯	193
堀江　昇	ﾎﾘｴ ﾉﾎﾞﾙ	殺されていった人々	（18）戦争を知らない世代へ⑯	74
堀川　久子	ﾎﾘｶﾜ ﾋｻｺ	戦争はもういや！	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	100
本多　勝一	ﾎﾝﾀﾞ ｶﾂｲﾁ	中学二年のとき	（40）中学校が軍需工場になった	201
本多　勝一	ﾎﾝﾀﾞ ｶﾂｲﾁ	本多勝一はこんなものを食べてきた	（40）中学校が軍需工場になった	204
本田　信一	ﾎﾝﾀﾞ ｼﾝｲﾁ	あゝ本野ヶ原	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	65
本田　信一	ﾎﾝﾀﾞ ｼﾝｲﾁ	「嗚呼馬場訓導の殉死を悼みて」	（７）こゝにふたゝび第５号	77
本田　瀧雄	ﾎﾝﾀﾞ ﾀｷｵ	豊川海軍工廠をかえりみて	（22）豊川海軍工廠の記録	173
本多　みさを	ﾎﾝﾀﾞ ﾐｻｦ	共済病院からの脱出	（18）戦争を知らない世代へ⑯	162
舞沢　歌子	ﾏｲｻﾜ ｳﾀｺ	勝利の日を夢みて	（６）こゝにふたゝび第４号	39
前澤　典夫	ﾏｴｻﾞﾜ ﾉﾘｵ	悔いと感動の記憶	（40）中学校が軍需工場になった	388
前島　松一	ﾏｴｼﾞﾏ ｼｮｳｲﾁ	当時の豊川工廠	（18）戦争を知らない世代へ⑯	23
前田　洋子	ﾏｴﾀﾞ ﾖｳｺ	豊川海軍工廠の空襲（体験者/父）	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	185
牧内　裕久	ﾏｷｳﾁ ﾋﾛﾋｻ	戻してみたい青春	（40）中学校が軍需工場になった	509
牧内　正夫	ﾏｷｳﾁ ﾏｻｵ	編入は秋だった	（40）中学校が軍需工場になった	293
牧内　雪彦	ﾏｷｳﾁ ﾕｷﾋｺ	図面教室での作業と物理教室のロマン	（40）中学校が軍需工場になった	151
牧内　雪彦	ﾏｷｳﾁ ﾕｷﾋｺ	茫々たる歳月の彼方の蒼空	（40）中学校が軍需工場になった	56
牧島　高夫	ﾏｷｼﾏ ﾀｶｵ	ノギス紛失事件	（40）中学校が軍需工場になった	215
牧田　清	ﾏｷﾀ ｷﾖｼ	過ぎし日の想い出	（４）こゝにふたゝび第２号	94
牧田　清	ﾏｷﾀ ｷﾖｼ	思い出の味さつまいも	（５）こゝにふたゝび第３号	55
牧田　トシ	ﾏｷﾀ ﾄｼ	髪の毛を神棚に	（９）本野ヶ原に散りて	59
牧野　シズエ	ﾏｷﾉ ｼｽﾞｴ	尊い平和	（９）本野ヶ原に散りて	52

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
牧野　辰之助	ﾏｷﾉ ﾀﾂﾉｽｹ	海軍の懐古とその後	（23）豊火の会会誌 第一号	22
牧野　虎三	ﾏｷﾉ ﾄﾗｿﾞｳ	岐れ道	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	29
牧野　虎三	ﾏｷﾉ ﾄﾗｿﾞｳ	岐れ道	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	514
牧野　はつゑ	ﾏｷﾉ ﾊﾂｴ	ゲートルを見て	（９）本野ヶ原に散りて	52
牧野　やゑ子	ﾏｷﾉ ﾔｴｺ	俳句	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	53
牧野　やゑ子	ﾏｷﾉ ﾔｴｺ	俳句	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	75
牧野　やゑ子	ﾏｷﾉ ﾔｴｺ	学徒の碑	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	336
牧野　弥生	ﾏｷﾉ ﾔﾖｲ	あゝ佐羽尾先生	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	175
牧野　弥生	ﾏｷﾉ ﾔﾖｲ	あゝ佐羽尾先生	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	474
牧野　弥生	ﾏｷﾉ ﾔﾖｲ	せめて一週間早かったら	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	101
槙林　園子	ﾏｷﾊﾞﾔｼ ｿﾉｺ	豊川海軍工廠の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	202
増田　明子	ﾏｽﾀﾞ ｱｷｺ	あゝ豊川女子挺身隊	（４）こゝにふたゝび第２号	90
増田　いと	ﾏｽﾀﾞ ｲﾄ	想い出すままに	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	166
増田　いと	ﾏｽﾀﾞ ｲﾄ	歳月	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	165
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	皆さんのご親切忘れません	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	134
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	郷愁にたえかねて詠みしもの	（２）胸に穴があいた	83
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	無断外出	（２）胸に穴があいた	105
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	白菜いための中に虫ガゴロゴロ	（２）胸に穴があいた	109
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	ひとかけらのチョコレート	（２）胸に穴があいた	116
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	ヤッちゃん、文ちゃんはもういない	（２）胸に穴があいた	190
増田　節子	ﾏｽﾀﾞ ｾﾂｺ	青春を灰色にぬらないで	（２）胸に穴があいた	225
増田　美代子	ﾏｽﾀﾞ ﾐﾖｺ	想い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	349
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	「お父さん、お母さん!!」	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	31
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	文集をありがとう	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	120
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	ぬかずく老婦	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	246
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	懐かしき木村大尉	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	246
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	忘れ得ぬ八月七日	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	131
増田　芳枝	ﾏｽﾀﾞ ﾖｼｴ	思い出を今こゝに	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	182
升家　芳子	ﾏｽﾔ ﾖｼｺ	神風が吹くと信じていたから…	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	103
松井　いな	ﾏﾂｲ ｲﾅ	「お母さん、お母さん」と魂が	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	294
松井　いな	ﾏﾂｲ ｲﾅ	お母さん、お母さんと魂が	（９）本野ヶ原に散りて	14

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
松井　和子	ﾏﾂｲ ｶｽﾞｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	131
松井　和子	ﾏﾂｲ ｶｽﾞｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	29
松井　聡	ﾏﾂｲ ｻﾄｼ	追憶　－豊川海軍工廠－（Ⅰ）	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	14
松井　聡	ﾏﾂｲ ｻﾄｼ	追憶　－豊川海軍工廠－（Ⅱ）	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	31
松井　孟	ﾏﾂｲ ﾀｹｼ	あの日・八月七日	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	105
松井　孟	ﾏﾂｲ ﾀｹｼ	ラジオ放送	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	599
松井　田鶴子	ﾏﾂｲ ﾀｽﾞｺ	子を持つ親の身となって	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	104
松井　政男	ﾏﾂｲ ﾏｻｵ	厳しかったあの頃	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	112
松浦　よし	ﾏﾂｳﾗ ﾖｼ	若者は平和のために戦って!	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	183
松岡　節子	ﾏﾂｵｶ ｾﾂｺ	転校生	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	183
松澤　悦男	ﾏﾂｻﾞﾜ ｴﾂｵ	真っ黒だなー	（40）中学校が軍需工場になった	325
松下　あやめ	ﾏﾂｼﾀ ｱﾔﾒ	私の思い出	（３）こゝにふたゝび創刊号	7
松下　音平	ﾏﾂｼﾀ ｵﾄﾍｲ	「今に神風が吹く」	（７）こゝにふたゝび第５号	11
松下　音平	ﾏﾂｼﾀ ｵﾄﾍｲ	組長	（２）胸に穴があいた	81
松下　音平	ﾏﾂｼﾀ ｵﾄﾍｲ	日本刀をふりかざした体が真二つ	（２）胸に穴があいた	140
松下　音平	ﾏﾂｼﾀ ｵﾄﾍｲ	私の想い出とほこり	（４）こゝにふたゝび第２号	54
松下　音平	ﾏﾂｼﾀ ｵﾄﾍｲ	「勝つまでは」の相言葉	（８）こゝにふたゝび第６号	47
松下　きし	ﾏﾂｼﾀ ｷｼ	夫の死を無にしないで！	（18）戦争を知らない世代へ⑯	166
松下　進	ﾏﾂｼﾀ ｽｽﾑ	生きていてよかった	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	202
松下　進	ﾏﾂｼﾀ ｽｽﾑ	生きていてよかった	（４）こゝにふたゝび第２号	51
松下　拡	ﾏﾂｼﾀ ﾋﾛｼ	八月十五日 ・上郷駅・臭いと驚き・	（40）中学校が軍需工場になった	211
松下　拡	ﾏﾂｼﾀ ﾋﾛｼ	二勤からの帰途	（40）中学校が軍需工場になった	346
松下　優	ﾏﾂｼﾀ ﾏｻﾙ	毎日毎晩の空襲	（40）中学校が軍需工場になった	400
松島　功	ﾏﾂｼﾏ ｲｻｵ	四式特殊輸送機	（40）中学校が軍需工場になった	432
松島　信幸	ﾏﾂｼﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ	たった４ヶ月の学徒動員	（40）中学校が軍需工場になった	279
松田　翔	ﾏﾂﾀﾞ ｶｹﾙ	訓練の毎日から空襲の毎日へ	（40）中学校が軍需工場になった	376
松田　弘	ﾏﾂﾀﾞ ﾋﾛｼ	五式磁石	（40）中学校が軍需工場になった	154
松永　正雄	ﾏﾂﾅｶﾞ ﾏｻｵ	「可憐な顔今も瞼に」	（11）いまこゝに	73
松原　妙子	ﾏﾂﾊﾞﾗ ﾀｴｺ	ノー・モア豊川	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	105
松久　芳雄	ﾏﾂﾋｻ ﾖｼｵ	遺品の日記より	（９）本野ヶ原に散りて	4
松村　昭	ﾏﾂﾑﾗ ｱｷﾗ	玉音放送と屁	（40）中学校が軍需工場になった	347

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
松村　敦	ﾏﾂﾑﾗ ｱﾂｼ	切れ切れの記憶	（40）中学校が軍需工場になった	134
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	「おかあさん」という声が	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	11
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	俳句	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	30
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	歌	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	49
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	「うれしさに」	（11）いまこゝに	68
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	332
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	将校さんの手に抱かれて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	249
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	只一人の息子を	（５）こゝにふたゝび第３号	59
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	「こゝにふたゝび」ありがとう	（６）こゝにふたゝび第４号	9
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	昨日の事の様に思い出されて	（６）こゝにふたゝび第４号	66
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	「将校さんの手に抱かれて」	（７）こゝにふたゝび第５号	75
松村　ナヲイ	ﾏﾂﾑﾗ ﾅｦｲ	「母一人子一人」	（８）こゝにふたゝび第６号	62
松本　明	ﾏﾂﾓﾄ ｱｷﾗ	豊川での思い出	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	18
松本　幾子	ﾏﾂﾓﾄ ｲｸｺ	息切れがして走れない	（２）胸に穴があいた	125
松本　敬司	ﾏﾂﾓﾄ ｹｲｼﾞ	シェーパーで削った部品	（40）中学校が軍需工場になった	217
松本　敬司	ﾏﾂﾓﾄ ｹｲｼﾞ	［九七式転輪羅針儀］を知る	（40）中学校が軍需工場になった	511
馬渕　節子	ﾏﾌﾞﾁ ｾﾂｺ	生まれ故郷森町を後にして	（３）こゝにふたゝび創刊号	45
丸地　節子	ﾏﾙﾁ ｾﾂｺ	心だけは豊かに	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	106
三浦　ウタ子	ﾐｳﾗ ｳﾀｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	156
三浦　清	ﾐｳﾗ ｷﾖｼ	豊川海軍工廠と私	（22）豊川海軍工廠の記録	147
三浦　幸一	ﾐｳﾗ ｺｳｲﾁ	「被害は廠外にも」	（11）いまこゝに	169
三浦　照代	ﾐｳﾗ ﾃﾙﾖ	夫婦の戦争体験	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	184
見方　道代	ﾐｶﾀ ﾐﾁﾖ	加藤きよ子さんの冥福を祈りて	（５）こゝにふたゝび第３号	48
見方　道代	ﾐｶﾀ ﾐﾁﾖ	友の名も涙にかすんで	（５）こゝにふたゝび第３号	69
見方　道代	ﾐｶﾀ ﾐﾁﾖ	「お礼」	（７）こゝにふたゝび第５号	72
見方　道代	ﾐｶﾀ ﾐﾁﾖ	「第五号ありがとう」	（８）こゝにふたゝび第６号	55
見崎　敏子	ﾐｻｷ ﾄｼｺ	戦場になった豊川	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	107
見代　道代	ﾐｼﾛ ﾐﾁﾖ	泣けて泣けて	（６）こゝにふたゝび第４号	12
水口　久胤	ﾐｽﾞｸﾞﾁ ﾋｻﾀﾈ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	159
水鳥　日路	ﾐｽﾞﾄﾘ ﾋﾐﾁ	砂煙に消えたトラック	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	185
南沢　いて子	ﾐﾅﾐｻﾜ ｲﾃｺ	戦争に勝つために	（６）こゝにふたゝび第４号	80

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
宮井　与八郎	ﾐﾔｲ ﾖﾊﾁﾛｳ	今昔物語	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	125
宮内　泉	ﾐﾔｳﾁ ｲｽﾞﾐ	神風が吹くか	（40）中学校が軍需工場になった	136
宮内　泉	ﾐﾔｳﾁ ｲｽﾞﾐ	被爆直後の豊川海軍工廠に入る	（40）中学校が軍需工場になった	377
宮内　泉	ﾐﾔｳﾁ ｲｽﾞﾐ	戦争の時代を顧みて	（40）中学校が軍需工場になった	523
宮内　精一	ﾐﾔｳﾁ ｾｲｲﾁ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	149
宮川　茂若	ﾐﾔｶﾞﾜ ｼｹﾞﾜｶ	『リメンバー十二月八日』	（23）豊火の会会誌 第一号	28
宮川　茂若	ﾐﾔｶﾞﾜ ｼｹﾞﾜｶ	豊廠火工部の想出（疎開と空襲）	（28）豊川海軍工廠会会誌 第六号	31
宮川　寛	ﾐﾔｶﾜ ﾋﾛｼ	九死に一生	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	123
宮木　秋男	ﾐﾔｷ ｱｷｵ	運命工廠と共に	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	171
三宅　はなの	ﾐﾔｹ ﾊﾅﾉ	友と二人で天国へ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	292
三宅　はなの	ﾐﾔｹ ﾊﾅﾉ	友と二人で天国へ	（９）本野ヶ原に散りて	3
宮坂　千代	ﾐﾔｻｶ ﾁﾖ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	70
宮崎　しまゑ	ﾐﾔｻﾞｷ ｼﾏｴ	工廠コーナーを見学して	（４）こゝにふたゝび第２号	57
宮崎　千代美	ﾐﾔｻﾞｷ ﾁﾖﾐ	結婚二年後に	（９）本野ヶ原に散りて	36
宮澤　和夫	ﾐﾔｻﾞﾜ ｶｽﾞｵ	恪勤精励	（40）中学校が軍需工場になった	220
宮澤　恒介	ﾐﾔｻﾞﾜ ｺｳｽｹ	思い出すことの中から	（40）中学校が軍需工場になった	118
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	私も一緒に連れてって	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	99
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	わたしも一緒に連れてって	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	225
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	わたしも一緒に連れてって	（５）こゝにふたゝび第３号	30
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	思い出の銃架工場	（６）こゝにふたゝび第４号	69
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	「懐かしき豊川訪問」	（７）こゝにふたゝび第５号	55
宮下　金子	ﾐﾔｼﾀ ｶﾈｺ	「豊川訪問の一日」	（７）こゝにふたゝび第５号	58
宮下　康子	ﾐﾔｼﾀ ﾔｽｺ	遺骨箱を抱いて	（２）胸に穴があいた	193
宮田　仙一	ﾐﾔﾀ ｾﾝｲﾁ	再開	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	260
宮田　仙一	ﾐﾔﾀ ｾﾝｲﾁ	慰問袋の中から	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	261
宮田　仙一	ﾐﾔﾀ ｾﾝｲﾁ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	321
宮地　千代子	ﾐﾔﾁ ﾁﾖｺ	心の傷	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	636
宮部　たけ	ﾐﾔﾍﾞ ﾀｹ	命ありて	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	80
宮部　たけ	ﾐﾔﾍﾞ ﾀｹ	命ありて	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	356
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	忍び寄る足音	（11）いまこゝに	58
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	すみれの花二つ	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	118

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	319
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	すみれの花二つ	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	451
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	すみれの花二つ	（４）こゝにふたゝび第２号	62
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	短歌	（５）こゝにふたゝび第３号	43
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	挽歌	（５）こゝにふたゝび第３号	44
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	第二号確かに拝受しました	（５）こゝにふたゝび第３号	76
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	「平和の像」県下にもと呼びかけて	（６）こゝにふたゝび第４号	51
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	どなたか津市の紀平玉子さんの死の真相をご存知ありませんか	（６）こゝにふたゝび第４号	91
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	「貌」	（７）こゝにふたゝび第５号	62
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	永遠なれ「戦後」	（８）こゝにふたゝび第６号	7
宮前　綱雄	ﾐﾔﾏｴ ﾂﾅｵ	「トヨカワ」	（９）本野ヶ原に散りて	冒頭
宮道　佐一	ﾐﾔﾐﾁ ｻｲﾁ	三河八幡郵便局のことなど	（18）戦争を知らない世代へ⑯	148
宮道　ちよ	ﾐﾔﾐﾁ ﾁﾖ	豊川海軍工廠受爆の日に思うこと	（８）こゝにふたゝび第６号	41
宮村　正吉	ﾐﾔﾑﾗ ｼｮｳｷﾁ	忘れる事の出来ない被爆の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	126
宮村　正吉	ﾐﾔﾑﾗ ｼｮｳｷﾁ	暑い夏でした	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	174
宮村　正吉	ﾐﾔﾑﾗ ｼｮｳｷﾁ	豊川工廠四年間の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	166
宮村　正吉	ﾐﾔﾑﾗ ｼｮｳｷﾁ	被爆の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	549
宮本　秋男	ﾐﾔﾓﾄ ｱｷｵ	運命は工廠と共に	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	471
宮脇　マキ	ﾐﾔﾜｷ ﾏｷ	再会	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	101
宮脇　マキ	ﾐﾔﾜｷ ﾏｷ	二十五年目の再会	（３）こゝにふたゝび創刊号	64
三好　喜一	ﾐﾖｼ ｷｲﾁ	弟	（９）本野ヶ原に散りて	44
武藤　鈗七郎	ﾑﾄｳ ｷｭｳｼﾁﾛｳ	『豊川海軍工廠』設立から閉廠までの回想録	（22）豊川海軍工廠の記録	101
宗川　元章	ﾑﾈｶﾜ ﾓﾄｱｷ	戦争を語る	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	69
宗川　元章	ﾑﾈｶﾜ ﾓﾄｱｷ	戦争を語る	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	616
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	糸のようにやせおとろえて死んだ百々代さん	（２）胸に穴があいた	173
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	笠井富美子さんの御遺族を訪ねて	（２）胸に穴があいた	176
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	故柳沢文子さんの御遺族を訪ねて	（２）胸に穴があいた	180
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	土屋さんの生家を訪ねて	（２）胸に穴があいた	199
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	かあちゃん帰って来たよ	（２）胸に穴があいた	202
胸に穴があいた編者	ﾑﾈﾆｱﾅｶﾞ ｱｲﾀﾍﾝｼﾞｬ	故岡村梅子様の御遺族を訪ねて	（２）胸に穴があいた	204
村沢　恵子	ﾑﾗｻﾜ ｹｲｺ	一生忘れえぬ豊川工廠	（５）こゝにふたゝび第３号	53

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
村澤　久男	ﾑﾗｻﾜ ﾋｻｵ	二つのビンタ	(40) 中学校が軍需工場になった	350
村瀬　勈雄	ﾑﾗｾ ﾕｳｵ	遠かった夜勤の暗い道	(40) 中学校が軍需工場になった	281
村田　あい	ﾑﾗﾀ ｱｲ	孫娘と同じ年に	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	186
村田　恵子	ﾑﾗﾀ ｹｲｺ	残留組の一人として	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	274
村田　敬次郎	ﾑﾗﾀ ｹｲｼﾞﾛｳ	「ひとこと」	(８) こゝにふたゝび第６号	4
村田　静江	ﾑﾗﾀ ｼｽﾞｴ	ああ青春の悲劇	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	187
村田　大六	ﾑﾗﾀ ﾀﾞｲﾛｸ	豊川10か月間の一側面	(22) 豊川海軍工廠の記録	138
村田　美恵子	ﾑﾗﾀ ﾐｴｺ	夾竹桃の花	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	250
村田　みき	ﾑﾗﾀ ﾐｷ	はかり知れぬ悲しみ	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	108
村中　清子	ﾑﾗﾅｶ ｷﾖｺ	指を切られた北村敏子さん	(１) ああ豊川女子挺身隊	298
村松　あい	ﾑﾗﾏﾂ ｱｲ	お尋ねします	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	55
村松　恵吉	ﾑﾗﾏﾂ ｹｲｷﾁ	思い出のままに	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	149
村松　恵吉	ﾑﾗﾏﾂ ｹｲｷﾁ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	133
村松　恵吉	ﾑﾗﾏﾂ ｹｲｷﾁ	思い出のままに	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	457
村松　巴	ﾑﾗﾏﾂ ﾄﾓｴ	「命永らえて」	(８) こゝにふたゝび第６号	26
村松　仁	ﾑﾗﾏﾂ ﾋﾄｼ	思い出	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	178
村松　仁	ﾑﾗﾏﾂ ﾋﾄｼ	豊川被爆余話	(16) 嗚呼豊川海軍工廠第14号	96
村山　昭司	ﾑﾗﾔﾏ ｼｮｳｼﾞ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	152
村山　昭司	ﾑﾗﾔﾏ ｼｮｳｼﾞ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	162
村山　昭司	ﾑﾗﾔﾏ ｼｮｳｼﾞ	子を思う親の心が	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	98
村澤　理一	ﾑﾗﾜｻ ﾘｲﾁ	鷲津では戦車壕掘りも	(40) 中学校が軍需工場になった	389
最上　貞子	ﾓｶﾞﾐ ｻﾀﾞｺ	創刊号「こゝにふたゝび」に寄せて	(４) こゝにふたゝび第２号	29
最上　貞子	ﾓｶﾞﾐ ｻﾀﾞｺ	生涯の宝物として	(５) こゝにふたゝび第３号	61
最上　貞子	ﾓｶﾞﾐ ｻﾀﾞｺ	男の方は召集されて	(６) こゝにふたゝび第４号	33
杢野　美保子	ﾓｸﾉ ﾐﾎｺ	「亡き友をしのんで」	(11) いまこゝに	171
杢野　美保子	ﾓｸﾉ ﾐﾎｺ	「涙新たに」	(11) いまこゝに	172
杢野　美保子	ﾓｸﾉ ﾐﾎｺ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	168
杢野　美保子	ﾓｸﾉ ﾐﾎｺ	涙新たに	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	437
杢野　美保子	ﾓｸﾉ ﾐﾎｺ	一教師の体験	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	246
望月　幸江	ﾓﾁﾂﾞｷ ｻﾁｴ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	169
望月　みつゑ	ﾓﾁﾂﾞｷ ﾐﾂｴ	服を持って行くのを楽しみに	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	308

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
望月　みつゑ	ﾓﾁﾂﾞｷ ﾐﾂｴ	服を持って行くのを楽しみに	（９）本野ヶ原に散りて	27
本島　金二	ﾓﾄｼﾞﾏ ｷﾝｼﾞ	私の工廠への生ひ立ち	（22）豊川海軍工廠の記録	105
森　後吾	ﾓﾘ ｱﾄｺﾞ	母も後をおい	（９）本野ヶ原に散りて	36
森　市	ﾓﾘ ｲﾁ	破れた財布に	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	292
森　市	ﾓﾘ ｲﾁ	破れた財布に	（９）本野ヶ原に散りて	12
森　貞子	ﾓﾘ ｻﾀﾞｺ	装填工場の思い出	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	388
森　輝子	ﾓﾘ ﾃﾙｺ	友達の思い出	（16）鳴呼豊川海軍工廠第14号	85
森　輝子	ﾓﾘ ﾃﾙｺ	友達の思い出	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	450
森　久人	ﾓﾘ ﾋｻﾄ	再会の御礼	（３）こゝにふたゝび創刊号	52
森崎　満里子	ﾓﾘｻｷ ﾏﾘｺ	廠友からの便り	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	151
森下　旭	ﾓﾘｼﾀ ｱｷﾗ	骨肉もなく	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	312
森下　旭	ﾓﾘｼﾀ ｱｷﾗ	骨肉もなく	（９）本野ヶ原に散りて	31
森下　光夫	ﾓﾘｼﾀ ﾐﾂｵ	被爆学徒の遺体収容までの真相	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	50
森下　光夫	ﾓﾘｼﾀ ﾐﾂｵ	被爆学徒の遺体収容までの真相	（22）豊川海軍工廠の記録	170
森島　久子	ﾓﾘｼﾏ ﾋｻｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	9
森田　恵美子	ﾓﾘﾀ ｴﾐｺ	御本ありがとうございました	（８）こゝにふたゝび第６号	69
森田　和夫	ﾓﾘﾀ ｶｽﾞｵ	当時の日記より	（14）鳴呼豊川海軍工廠第12号	33
森田　ふじ江	ﾓﾘﾀ ﾌｼﾞｴ	亡き友に恥じない日々を	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	188
森田　松代	ﾓﾘﾀ ﾏﾂﾖ	豊橋高女学徒動員	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	272
森田　松代	ﾓﾘﾀ ﾏﾂﾖ	豊橋高女学徒動員	（８）こゝにふたゝび第６号	42
森田　道子	ﾓﾘﾀ ﾐﾁｺ	山本彩子さんのこと	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	78
森松　なみゑ	ﾓﾘﾏﾂ ﾅﾐｴ	「忘れ得ぬ爆弾の音」	（11）いまこゝに	171
森松　なみゑ	ﾓﾘﾏﾂ ﾅﾐｴ	廠友からの便り	（12）鳴呼豊川海軍工廠最終号（10号）	320
森松　なみゑ	ﾓﾘﾏﾂ ﾅﾐｴ	一生忘れません	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	102
森松　なみゑ	ﾓﾘﾏﾂ ﾅﾐｴ	廠友からの便り	（13）鳴呼豊川海軍工廠第11号	135
守屋　長治郎	ﾓﾘﾔ ﾁｮｳｼﾞﾛｳ	豊川海軍工廠の思い出	（12）鳴呼豊川海軍工廠最終号（10号）	226
守屋　長治郎	ﾓﾘﾔ ﾁｮｳｼﾞﾛｳ	忘れ得ぬ八月七日	（15）鳴呼豊川海軍工廠第13号	83
守屋　長次郎	ﾓﾘﾔ ﾁｮｳｼﾞﾛｳ	悪夢から歳月流れ四〇年	（16）鳴呼豊川海軍工廠第14号	124
守屋　長治郎	ﾓﾘﾔ ﾁｮｳｼﾞﾛｳ	忘れ得ぬ八月七日	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	552
守屋　長次郎	ﾓﾘﾔ ﾁｮｳｼﾞﾛｳ	豊川海軍工廠の思い出	（17）被爆40周年記念 鳴呼豊川海軍工廠	496
守屋　良己	ﾓﾘﾔ ﾖｼﾐ	防空頭巾で大丈夫	（９）本野ヶ原に散りて	60

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
八木　晴市	ﾔｷﾞ ﾊﾙｲﾁ	徴用工員として	（11）いまこゝに	154
八木　力太郎	ﾔｷﾞ ﾘｷﾀﾛｳ	豊川工廠の思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	243
八木　力太郎	ﾔｷﾞ ﾘｷﾀﾛｳ	防空壕に生埋めとなって	（18）戦争を知らない世代へ⑯	82
八木　力太郎	ﾔｷﾞ ﾘｷﾀﾛｳ	「豊川工廠の思い出」	（７）こゝにふたゝび第５号	17
八木　力太郎	ﾔｷﾞ ﾘｷﾀﾛｳ	三十年前の思い出	（８）こゝにふたゝび第６号	68
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	豊川の夕陽の中で	（11）いまこゝに	106
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	本野ヶ原・夏	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	108
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	136
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	166
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	豊川の夕陽の中で	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	416
矢向　春野	ﾔｺｳ ﾊﾙﾉ	遠い日を昨日のように	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	177
矢澤　酉二	ﾔｻﾞﾜ ﾕｳｼﾞ	思い浮かぶあの頃	（40）中学校が軍需工場になった	224
安井　糸子	ﾔｽｲ ｲﾄｺ	女の兵隊と言われて	（22）豊川海軍工廠の記録	143
安江　律子	ﾔｽｴ ﾘﾂｺ	授業再開後の生徒たち	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	214
安生　浩	ﾔｽｷ ﾋﾛｼ	僅か一年間の海軍	（26）豊川海軍工廠会会誌 第四号	59
安田　重太郎	ﾔｽﾀﾞ ｼｹﾞﾀﾛｳ	墓地の土	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	56
安田　重太郎	ﾔｽﾀﾞ ｼｹﾞﾀﾛｳ	墓地の土	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	346
安原　みどり	ﾔｽﾊﾗ ﾐﾄﾞﾘ	一と月おくれた最後の手紙	（１）ああ豊川女子挺身隊	318
柳沢　孝子	ﾔﾅｷﾞｻﾜ ﾀｶｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	27
柳平　正子	ﾔﾅｷﾞﾋﾗ ﾏｻｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	160
矢野　武	ﾔﾉ ﾀｹｼ	私の八月七日	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	65
矢野　とゑ	ﾔﾉ ﾄｴ	お便り（二十六年ぶりの再会）	（４）こゝにふたゝび第２号	76
矢野　とゑ	ﾔﾉ ﾄｴ	二十六年ぶりに友と再会して	（４）こゝにふたゝび第２号	106
矢野　正興	ﾔﾉ ﾏｻｵｷ	豊廠着任の日	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	7
藪　明保	ﾔﾌﾞ ｱｷﾔｽ	砕けた歯車	（40）中学校が軍需工場になった	282
薮田　与吉	ﾔﾌﾞﾀ ﾖｷﾁ	着いたその日に訓練	（１）ああ豊川女子挺身隊	106
薮田　与吉	ﾔﾌﾞﾀ ﾖｷﾁ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	144
薮田　与吉	ﾔﾌﾞﾀ ﾖｷﾁ	三河地震が黒い前ぶれ	（１）ああ豊川女子挺身隊	164
薮田　与吉	ﾔﾌﾞﾀ ﾖｷﾁ	空中戦と最初の爆弾	（１）ああ豊川女子挺身隊	171
薮田　与吉	ﾔﾌﾞﾀ ﾖｷﾁ	タイトル無	（１）ああ豊川女子挺身隊	227
山口　華村	ﾔﾏｸﾞﾁ ｶｿﾝ	俳句誌「林苑」	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	129

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
山口　幸一	ﾔﾏｸﾞﾁ ｺｳｲﾁ	弟よ、安らかに眠れ	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	314
山口　幸一	ﾔﾏｸﾞﾁ ｺｳｲﾁ	安らかに眠れ弟よ	(９) 本野ヶ原に散りて	33
山口　サカエ	ﾔﾏｸﾞﾁ ｻｶｴ	銃後と少女	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	277
山口　三郎	ﾔﾏｸﾞﾁ ｻﾌﾞﾛｳ	歯切盤・インボリュート曲線	(40) 中学校が軍需工場になった	288
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	故八吉を思う	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	185
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	仏縁は尊し	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	82
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	俳句	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	110
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	息子八吉の最後	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	127
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	八吉のあの日あの時	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	178
山口　繁夫	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｹﾞｵ	故八吉を思う	(17) 被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	464
山口　峻	ﾔﾏｸﾞﾁ ｼｭﾝ	夜勤　母は暗闇に出て行く俺を	(40) 中学校が軍需工場になった	138
山口　つる	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾂﾙ	娘盛りを	(９) 本野ヶ原に散りて	51
山口　享	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾄｵﾙ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	174
山口　ますほ	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾏｽﾎ	ああ豊川海軍工廠 (短歌十首)	(22) 豊川海軍工廠の記録	174
山口　幸和	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾕｷｶｽﾞ	戦争と私の使命	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	41
山崎　一郎	ﾔﾏｻｷ ｲﾁﾛｳ	生と死との別れ道	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	127
山崎　一郎	ﾔﾏｻｷ ｲﾁﾛｳ	或る学徒の回想	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	124
山崎　一郎	ﾔﾏｻｷ ｲﾁﾛｳ	正門前の欅	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	191
山崎　一枝	ﾔﾏｻｷ ｶｽﾞｴ	五十年ぶりの再会	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	42
山崎　一枝	ﾔﾏｻｷ ｶｽﾞｴ	豊橋高女の思い出	(21) 最後の女学生－わたしたちの昭和	233
山崎　しづ江	ﾔﾏｻｷ ｼﾂﾞｴ	廠友からの便り	(13) 嗚呼豊川海軍工廠第11号	155
山崎　しづ江	ﾔﾏｻｷ ｼﾂﾞｴ	廠友からの便り	(14) 嗚呼豊川海軍工廠第12号	173
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	近況をお知らせください	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	75
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	今ここに	(11) いまこゝに	41
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	嗚呼　豊川海軍工廠	(12) 嗚呼豊川海軍工廠最終号 (10号)	204
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	新らしき友も出来て	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	86
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	豊川を訪ねて	(15) 嗚呼豊川海軍工廠第13号	129
山崎　初子	ﾔﾏｻｷ ﾊﾂｺ	寮の思い出	(16) 嗚呼豊川海軍工廠第14号	157
山崎　ますみ	ﾔﾏｻｷ ﾏｽﾐ	帰らなかった甥	(18) 戦争を知らない世代へ⑯	171
山崎　光枝	ﾔﾏｻｷ ﾐﾂｴ	親子で泣いた日	(20) 母さんが中学生だったときに《増補版》	109
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	亡き友に捧ぐ	(10) 本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	51

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	私は彫りつゞける	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	115
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	武器づくりを拒みつゞけたＳ	（２）胸に穴があいた	89
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	あきらめの うた	（２）胸に穴があいた	103
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	病気	（２）胸に穴があいた	111
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	木の葉のような機体に日の丸	（２）胸に穴があいた	126
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	Ｂ29と対決	（２）胸に穴があいた	128
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	二十一年ぶりに豊川を訪れる	（２）胸に穴があいた	212
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	資料蒐集（豊川にて）	（２）胸に穴があいた	216
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	私達の学んだ小学校時代の教科書	（２）胸に穴があいた	227
山下　敏子	ﾔﾏｼﾀ ﾄｼｺ	お便り（思い出は豊川の空へ）	（４）こゝにふたゝび第２号	71
山田　しず子	ﾔﾏﾀﾞ ｼｽﾞｺ	人形と南無阿弥陀仏	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	251
山田　しず子	ﾔﾏﾀﾞ ｼｽﾞｺ	人形と南無阿弥陀仏	（８）こゝにふたゝび第６号	23
山田　武良	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｹﾖｼ	憧れの飯田中学の幻滅	（40）中学校が軍需工場になった	350
山田　武良	ﾔﾏﾀﾞ ﾀｹﾖｼ	一番大きい旋盤だった	（40）中学校が軍需工場になった	283
山田　豊治	ﾔﾏﾀﾞ ﾄﾖｼﾞ	二十粍機銃弾薬包に引き寄せられた九州出張	（25）豊川海軍工廠会会誌 第三号	35
山田　豊治	ﾔﾏﾀﾞ ﾄﾖｼﾞ	八月七日の空襲に際して戦闘機による地上掃射はあったのか　返信	（30）豊川海軍工廠会会誌 第八号	19
山田　豊治	ﾔﾏﾀﾞ ﾄﾖｼﾞ	青島一期海軍技術科士官教育余話	（34）豊川海軍工廠会会誌 第十二号	8
山田　ひで子	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾃﾞｺ	思い出	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	205
山田　ひで子	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾃﾞｺ	思い出	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	482
山田　百合子	ﾔﾏﾀﾞ ﾕﾘｺ	壕の中から手や足が	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	110
山中　勘三郎	ﾔﾏﾅｶ ｶﾝｻﾞﾌﾞﾛｳ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	77
山中　勘三郎	ﾔﾏﾅｶ ｶﾝｻﾞﾌﾞﾛｳ	おしえ子と	（５）こゝにふたゝび第３号	71
山中　ひで子	ﾔﾏﾅｶ ﾋﾃﾞｺ	文集を読みて	（４）こゝにふたゝび第２号	33
山村　美佐子	ﾔﾏﾑﾗ ﾐｻｺ	若き寮母として	（19）白紙に消えた青春	31
山本　幾久枝	ﾔﾏﾓﾄ ｲｸｴ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	161
山本　郁子	ﾔﾏﾓﾄ ｲｸｺ	私と空襲体験	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	378
山本　功	ﾔﾏﾓﾄ ｲｻｵ	廠友からの便り	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	202
山本　うめ	ﾔﾏﾓﾄ ｳﾒ	同級の方の友情に涙して	（９）本野ヶ原に散りて	12
山本　和子	ﾔﾏﾓﾄ ｶｽﾞｺ	生命の貴さ	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	214
山本　かよ子	ﾔﾏﾓﾄ ｶﾖｺ	国府高女同級生追悼文	（９）本野ヶ原に散りて	8
山本　清子	ﾔﾏﾓﾄ ｷﾖｺ	友の爆死	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	189

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
山本　切枝	ﾔﾏﾓﾄ ｷﾘｴ	ありがとうございます	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	77
山本　幸子	ﾔﾏﾓﾄ ｻﾁｺ	友よ安らかに	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	111
山本　さよ	ﾔﾏﾓﾄ ｻﾖ	供養塔に眠る	（９）本野ヶ原に散りて	63
山本　たね	ﾔﾏﾓﾄ ﾀﾈ	戦地の兵隊さんと同じです	（９）本野ヶ原に散りて	58
山本　多根子	ﾔﾏﾓﾄ ﾀﾈｺ	八月七日の悲しみ・他	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	19
山本　とみ子	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾐｺ	わらじをはいて	（９）本野ヶ原に散りて	61
山本　豊子	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾖｺ	「死ぬまであの日忘れず」	（11）いまこゝに	100
山本　豊子	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾖｺ	死ぬまであの日忘れず	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	413
山本　豊子	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾖｺ	「鳩子のように」	（７）こゝにふたゝび第５号	67
山本　仲江	ﾔﾏﾓﾄ ﾅｶｴ	慰霊祭に参加して	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	13
山本　初枝	ﾔﾏﾓﾄ ﾊﾂｴ	「もう二十九年」	（７）こゝにふたゝび第５号	60
山本　正淮	ﾔﾏﾓﾄ ﾏｻｴ	楽しかった職場	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	190
山本　友次	ﾔﾏﾓﾄ ﾕｳｼﾞ	運命は紙一とえ	（９）本野ヶ原に散りて	39
山本　芳雄	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｼｵ	あゝ八月七日	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	171
山本　芳雄	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｼｵ	映画化にあたって	（５）こゝにふたゝび第３号	19
山本　芳雄	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｼｵ	「あいさつ」	（８）こゝにふたゝび第６号	2
山本　芳雄	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｼｵ	ありし日をしのびて	（９）本野ヶ原に散りて	冒頭
山本　善子	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｼｺ	太平洋戦争の頃を偲んで	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	175
山本　禮子	ﾔﾏﾓﾄ ﾚｲｺ	短歌	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	29
山本　禮子	ﾔﾏﾓﾄ ﾚｲｺ	短歌	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	62
山本　禮子	ﾔﾏﾓﾄ ﾚｲｺ	短歌	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	69
山脇　保之	ﾔﾏﾜｷ ﾔｽﾕｷ	あの日、あのとき	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	87
山脇　保之	ﾔﾏﾜｷ ﾔｽﾕｷ	あの日、あのとき	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	365
山脇　保之	ﾔﾏﾜｷ ﾔｽﾕｷ	豊川海軍工廠の歴史	（18）戦争を知らない世代へ⑯	10
山脇　保之	ﾔﾏﾜｷ ﾔｽﾕｷ	本野ケ原の草分けて	（６）こゝにふたゝび第４号	78
山脇　保之	ﾔﾏﾜｷ ﾔｽﾕｷ	彼女は何処に	（８）こゝにふたゝび第６号	53
鎗水　守太郎	ﾔﾘﾐｽﾞ ﾓﾘﾀﾛｳ	爆弾の下を避難して	（18）戦争を知らない世代へ⑯	113
湯浅　五介	ﾕｱｻ ｺﾞｽｹ	第二班異常なし	（40）中学校が軍需工場になった	156
湯川　松男	ﾕｶﾜ ﾏﾂｵ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	70
湯澤　和人	ﾕｻﾞﾜ ｶｽﾞﾄ	寂しかった夜道と堪えられなかった睡魔	（40）中学校が軍需工場になった	286
横田　ち江	ﾖｺﾀ ﾁｴ	ただひたすらに	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	112

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
横山　須左子	ﾖｺﾔﾏ ｽｻｺ	死んでなるものか　第五話	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	21
横山　須佐子	ﾖｺﾔﾏ ｽｻｺ	死んでなるものか　第五話	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	163
横山　芙左子	ﾖｺﾔﾏ ﾌｻｺ	涙・涙・涙	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	112
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	嗚呼　豊川海軍工廠	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	172
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	誕生日に二つのプレゼント	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	78
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	154
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	嗚呼豊川海軍工廠	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	104
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	第七工員入浴の思い出	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	96
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	思い出の豊川	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	117
吉川　稔	ﾖｼｶﾜ ﾐﾉﾙ	豊川工廠での煙草の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	172
吉崎　みどり	ﾖｼｻﾞｷﾐﾄﾞﾘ	一日ちがいの生き別れ	（１）ああ豊川女子挺身隊	197
吉沢　静子	ﾖｼｻﾞﾜｼｽﾞｺ	なつかしく思い出されて	（６）こゝにふたゝび第４号	28
吉筋　レイ子	ﾖｼｽｼﾞ ﾚｲｺ	豊川海軍工廠出勤生徒罹災記録	（５）こゝにふたゝび第３号	42
吉田　和民	ﾖｼﾀﾞ ｶｽﾞﾀﾐ	「玉石」に始まり「磁気羅針儀」に終る	（40）中学校が軍需工場になった	155
吉田　澄子	ﾖｼﾀﾞ ｽﾐｺ	望郷	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	66
吉田　澄子	ﾖｼﾀﾞ ｽﾐｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	134
吉田　澄子	ﾖｼﾀﾞ ｽﾐｺ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	166
吉田　徳太郎	ﾖｼﾀﾞ ﾄｸﾀﾛｳ	「夢の如く過ぎさりし」	（７）こゝにふたゝび第５号	60
吉野　さき江	ﾖｼﾉ ｻｷｴ	還らぬ友	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	207
吉野　政夫	ﾖｼﾉ ﾏｻｵ	掘り出された犠牲者	（18）戦争を知らない世代へ⑯	96
吉見　實子	ﾖｼﾐｼﾞﾂｺ	亡き姉の思い出	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	133
吉村　敬次	ﾖｼﾑﾗ　ｹｲｼﾞ	たまに来る注文材料の出荷だけ	（40）中学校が軍需工場になった	175
吉村　廣	ﾖｼﾑﾗ ﾋﾛｼ	穏やかだった	（40）中学校が軍需工場になった	226
米倉　薫	ﾖﾈｸﾗ ｶｵﾙ	ある一日	（22）豊川海軍工廠の記録	141
米山　和夫	ﾖﾈﾔﾏ ｶｽﾞｵ	私も戦時下の中学生だったが	（40）中学校が軍需工場になった	327
力石　進平	ﾘｷｲｼ ｼﾝﾍﾟｲ	終戦処理	（27）豊川海軍工廠会会誌 第五号	1
力石　進平	ﾘｷｲｼ ｼﾝﾍﾟｲ	日本の人口	（35）豊川海軍工廠会会誌 第十三号	1
力石　進平	ﾘｷｲｼ ｼﾝﾍﾟｲ	原爆が通常兵器となる日	（38）豊川海軍工廠会会誌 第十六号	1
若子　英一	ﾜｶｺ ｴｲｲﾁ	今生きていれば	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	304
若子　英一	ﾜｶｺ ｴｲｲﾁ	今生きていれば	（９）本野ヶ原に散りて	24
若槻　安重	ﾜｶﾂｷ ﾔｽｼｹﾞ	製作者の一人として	（５）こゝにふたゝび第３号	20

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
若林　秀代	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ﾋﾃﾞﾖ	生と死のはざま・・・嗚呼豊川	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	103
若林　秀代	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ﾋﾃﾞﾖ	生と死のはざま	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	532
若林　舞	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ﾏｲ	「青春の地、豊川」	（７）こゝにふたゝび第５号	70
若林　りさ	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ﾘｻ	花火に思い出す空襲の頃	（18）戦争を知らない世代へ⑯	56
和田　栄一	ﾜﾀﾞ ｴｲｲﾁ	深夜のお説教	（40）中学校が軍需工場になった	214
和田　きよ子	ﾜﾀﾞ ｷﾖｺ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	27
和田　きよ子	ﾜﾀﾞ ｷﾖｺ	来年の今日の日にお会いするまで	（６）こゝにふたゝび第４号	29
和田　緑	ﾜﾀﾞ ﾐﾄﾞﾘ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	64
渡辺　有禅	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｳｾﾞﾝ	豊川海軍工廠被爆時の思い出	（11）いまこゝに	133
渡辺　かず子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶｽﾞｺ	八月七日を、電車の中に	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	399
渡辺　謙一	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹﾝｲﾁ	はりきり軍医奮闘記（抄）	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	196
渡辺　定近	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾀﾞﾁｶ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	140
渡辺　定近	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾀﾞﾁｶ	体の動くかぎり	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	92
渡邊　三郎	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾌﾞﾛｳ	六尺旋盤の腕前	（40）中学校が軍需工場になった	285
渡辺　新之助	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｼﾝﾉｽｹ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	138
渡辺　新之助	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｼﾝﾉｽｹ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	173
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	三〇年目の再会	（10）本野ヶ原に散りて 三十三回忌の夏	12
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	一冊の文集から	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	85
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	加藤寮長先生とのお別れ	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	65
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	151
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	廠友からの便り	（16）嗚呼豊川海軍工廠第14号	203
渡辺　せつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｾﾂｺ	「二十九年の夢かないて」	（８）こゝにふたゝび第６号	70
渡辺　太一	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾀｲﾁ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	132
渡辺　毅	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾀｹｼ	落書散歩	（15）嗚呼豊川海軍工廠第13号	256
渡辺　忠幸	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾀﾀﾞﾕｷ	廠友からの便り	（12）嗚呼豊川海軍工廠最終号（10号）	335
渡辺　千恵	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾁｴ	廠友からの便り	（14）嗚呼豊川海軍工廠第12号	156
渡辺　利政	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾄｼﾏｻ	お便り	（４）こゝにふたゝび第２号	28
渡辺　利政	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾄｼﾏｻ	私の三十年の心	（８）こゝにふたゝび第６号	59
渡辺　春男	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾊﾙｵ	廠友からの便り	（13）嗚呼豊川海軍工廠第11号	149
渡辺　治代	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾊﾙﾖ	ナムアミダブツ	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	391
渡辺　房子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾌｻｺ	ノギス・マイクロを持って	（６）こゝにふたゝび第４号	18

筆者	筆者フリガナ	手記タイトル	掲載書籍	頁
渡辺　房子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾌｻｺ	来年は必らず	（６）こゝにふたゝび第４号	26
渡辺　房子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾌｻｺ	「三十年目に慰霊祭に参加して」	（８）こゝにふたゝび第６号	61
渡辺　まき子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏｷｺ	二十八年ぶりに慰霊祭に参加して	（６）こゝにふたゝび第４号	17
渡辺　まき子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏｷｺ	像の前で	（６）こゝにふたゝび第４号	24
渡辺　正子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏｻｺ	転びながら逃げたいも畑	（20）母さんが中学生だったときに《増補版》	191
渡辺　みつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾂｺ	「学徒動員令にて」	（11）いまこゝに	157
渡辺　みつ子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾂｺ	学徒動員令	（17）被爆40周年記念 嗚呼豊川海軍工廠	432
渡辺　礼子	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾚｲｺ	新聞を読んで	（５）こゝにふたゝび第３号	72
渡部　桂子	ﾜﾀﾍﾞ ｹｲｺ	一枚の写真	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	320
渡辺　光枝	ﾜﾅﾅﾍﾞ ﾐﾂｴ	おにぎりと炊り豆	（21）最後の女学生－わたしたちの昭和	164